
神奈川近代文学館 30 年の歩み

1984 ～ 2013 (付・前史 1979 ～ 1983)

30 年の歩みに関する注記

この「30 年の歩み」は、県立神奈川近代文学館及び財団法人（現・公益財団法人）神奈川文学振興会の発足から 2013 年度までの足跡と、展覧会とその関連行事、資料の収集・整理など各事業の成果を編年体に纏めたものである。

1. 1979 年度から 1983 年度までの文学館前史にあたる時期の概況は『神奈川近代文学館 10 年史』（1994 年 10 月刊）の当該年の文章をほぼ全文採用した。
2. 展覧会に直接関連しない独立した催事等については、各年度概況には記述せず、「資料編 広報・普及活動事業」にほぼ全てを記載した。（講演会、講座、映画会など催事の詳細は広報・普及活動事業の「講演会等」〈p.178〉以下の一覧表を参照）
3. 収集資料の寄贈者、規模、内容等についての詳細は、「資料収集事業」の「所蔵文庫一覧」〈p.148〉以下に纏めて記載した。

凡 例

1. 「30 年の歩み」では敬称は概ね省略した。ただし写真ネーム等については、敬称または財団役員、評議員は撮影時の役職名を補った。
2. 講演会等の催事に関して特に主催団体や開催場所の注記がない場合、概ね当館及び当財団の主催事業であり、場所は展示館 2 階ホール（改築前は展示館 2 階企画展示室）で実施されたものである。
3. 講演会等は概ねシリーズ名、開催日、演題等、講師または出演者、入場者数（場合により共催団体、会場等）の順に記した。
4. 【主な寄贈資料】はほぼ寄贈順に記したが、一部の順番を入れ替えた。

公益財団法人神奈川文学振興会

1979（昭和54）年度

鎌倉文学史話会の代表が8月13日、長洲一二知事を訪れ、近代文学館建設を提言したのが、当館創設のそもそものきっかけだった。知事は、文学との関わりがとりわけ深い本県においては、行政が進んで取組まなければならない仕事であると判断し、直ちに提言の実行を決断した。

しかし「文学という分野は、同じ芸術でも音楽や芸術の世界とは異なり、行政が入り込んで行けない面がある」と感じていた知事は、文学者自身が設立し運営している東京の日本近代文学館（小田切進理事長）の支援を得る必要があると考え、横浜国立大学での教え子だった同文学館事務局の清水節男に、小田切理事長への橋渡しを依頼した。

東京の文学館だけでも手一杯だった小田切氏は、神奈川への協力に極めて消極的だったが、たまたま横浜を訪れる機会があって知事との会談が実現した。10月3日のことである。小田切氏は初め、役所が造った文学館は成功した例がないことを実例をあげて説明し知事の翻意を促したが、日本近代文学館の全面的な協力を得て、姉妹館として相互に協力し補完し合う、全国に誇りうる文学館をぜひ建設したいという知事の構想と、その実現にかける熱意についに動かされて協力を決意、要請を日本近代文学館の理事会に諮る約束をした。

その二日後、知事は日本近代文学館を訪ね小田切理事長に改めて正式に支援を要請した。理事会はこの要請を受入れ、積極的協力を決議した。県と日本近代文学館の提携の合意成立によって計画は一挙に前進した。早速、知事直属の委員会を作ることにになり、小田切氏の奔走で尾崎一雄、井上靖、中村光夫の3氏の賛同を得、知事、小田切氏を含む5人の委員による建設準備懇談会（通称五人委員会）が11月に発足した。この懇談会の初会合で尾崎氏は「わたしは役所に協力する義理はないが、長洲氏を信頼しているから協力する気になった。しかし長洲氏が永久に知事でいられるわけではない。知事が代わってもこの仕事が支障なく続けられるよう保証してほしい」と発言、知事は在任中にそのために必要な制度的な措置を講ずる約束をした。以後、この懇談会で文学館建設の基本構想を練ることになった。

【建設準備のための主な動き】

・11月19日、第1回五人委員会（建設準備懇談会）が開催される。尾崎一雄、中村光夫、小田切進、長洲一二知事の4委員が出席して、建設に向けた初会合が行われた（井上靖委員は欠席）。

1980（昭和55）年度

文学館の建設が3月の県議会において承認され、4月、事務所の所管も県民部文化室に決まり、専従の県職員2名が配属されて、準備は本格的に動きだした。

7月に開かれた第2回五人委員会では、建設地、建物の規模、開館後の事業ならびに運営方式などハード、ソフト両面にわたって基本問題が協議された。この頃知事は同委員会の助言に従い、開館後の文学館の運営を、文学者で構成する財団法人に委託する意向を固めた。

建設地は初め県有地を前提としていたが、横浜、鎌倉、小田原、厚木、相模原、大磯の5市1町から誘致の申し出があったため予定を変更し、各候補地を比較検討した結

果、横浜市が無償貸与を申し出た「港の見える丘公園」に決定し、10月、知事が記者発表した。

一方、文学館建設計画をひろく県内に伝え〈県民参加〉の気運を盛りあげるため建設推進文芸講演会を県内各地で開催することになり、その旗上げ（講師・小田切進、中村光夫、尾崎一雄、井上靖）が10月に横浜・県民ホールで盛大に行われた。これと並行して、県内文学関係者の理解と協力を得るため、建設推進懇話会の初会合を1月に開催した。出席者から建設に対する熱心な支持と多くの有益な意見が寄せられた。



7月14日 第2回五人委員会を開催。左から中村光夫、井上靖、尾崎一雄、小田切進、清水節夫（日本近代文学館）、高橋雅雄文化室長、高橋亜細亜県民部次長、長洲一二知事、高瀬孝夫県民部長、手前古山登（集英社）の各氏。（於・横浜・東急ホテル）

【建設準備のための主な動き】

・7月14日、第2回五人委員会（建設準備懇談会）を開催。尾崎、井上、中村、小田切、長洲知事の全委員出席。
・1981年1月31日、第1回建設推進懇話会（県内文芸団体の代表、作家、研究者など59名が出席）を開催。経過報告と要望の確認が行われた。

1981（昭和56）年度

第3回五人委員会が4月に開かれ建物のイメージと機能について協議した。また類縁施設の事務経験者による建設委員会にも諮って設計のための与件がまとめられた。これらの意見に基づいて浦辺設計事務所が作成した基本設計案が10月の第4回五人委員会に提出された。

ここで指摘された幾つかの問題点について検討と修正を重ね、年度末までに設計図が完成した。

第4回五人委員会では、開館後の文学館を運営する財団法人設立の大綱も審議決定された。これを受けて設立準備作業が11月から年末にかけて精力的に進められ、1月の財団法人神奈川文学振興会設立発起人会開催に漕ぎつけた。建設推進文芸講演会は、前年度の横浜につづき、本年度は10月から11月にかけて秦野、足柄上、三浦の3カ所（講師・水上勉、曾野綾子、城山三郎）で開催。さらに前年度につづき第2回建設推進懇話会を3月に開いた。

この年、はやくも故夏目栄子氏から「書斎図」など漱石の書画4点が寄贈された。

【建設準備のための主な動き】

・4月13日、第3回五人委員会（建設準備懇談会）、10月14日に第4回を開催。
・1982年1月25日、財団法人神奈川文学振興会発起人会開催。発起人は井上靖、尾崎一雄、小田切進、中村光夫、長洲一二知事の5氏。設立趣意書ほかを議決。

の購入による収集も始まった。前年に続き7月～11月にかけて、文学館建設を推進するための文芸講演会を大和、津久井、小田原、横浜、相模原、藤沢の各地で開催した。このほか資料の分類・整理基準の整備、購入図書のリストアップ、閲覧室の開設準備などをすすめた。事務局は10月採用のプロパー3名を加え、総勢10名となり、開館に向け準備は本格化していく。尾崎名誉館長は文学館の竣工を待たずに3月31日に急逝した。

神奈川近代文学館建設推進文芸講演会 1982年度

（主催 財団法人神奈川文学振興会）

第5回 7月6日「私の文学観」三木卓、「文学の遺産」小田切進 入場者数250人（共催 大和市教育委員会 会場 大和市中心文化会館）／第6回 7月17日「歴史の中の女性」安西篤子、「神奈川近代文学館の概要」古山登 入場者数180人（共催 津久井町教育委員会 会場 津久井町文化福祉会館）／第7回 10月2日「私の仕事」中里恒子、「文学の遺産」小田切進 入場者数150人（会場 小田原市中央公民館）／第8回 10月23日「人間の内面と文学」遠藤周作、「私の漱石研究」江藤淳 入場者数350人（共催 横浜地区行政センター 会場 県政総合センターホール）／第9回 11月13日「相模に生きた人々」永井路子、「文学の遺産」小田切進 入場者数350人（共催 相模原市、相模原市教育委員会 会場 相模原市あじさい会館）／第10回 11月20日「遊びの精神」阿川弘之、「文学の遺産」小田切進 入場者数320人（共催 藤沢市、藤沢市教育委員会 会場 藤沢市鶴沼公民館）



10月23日 第8回建設推進文芸講演会で講演する遠藤周作氏

【1982年度までに収集された主な資料】

（寄贈）

・夏目漱石資料：画「書斎図」、寒山拾得図、「草花写生」（鉢植図）、書「白雲依静渚 春草閑閉門」
・平柳青旦子氏寄贈：俳誌、諸家句集など1,710冊

（購入）

・谷崎潤一郎「痴人の愛」原稿

【建設準備のための主な動き】

・4月1日、財団法人神奈川文学振興会の設立許可が下りる。文学館開設準備室を開室。
・4月24日、第1回理事会開催。
・10月1日に事務職員3人を採用し、合計10人となる。

・3月27日、第2回建設推進懇話会（県内の文学関係者、図書館・博物館など類似施設関係者36名が出席）を開催。建設の経過報告と意見交換。

神奈川近代文学館建設推進文芸講演会

1980／1981年度

神奈川近代文学館の建設を神奈川県民に広く報じるため、県内各地の文化センター、公共ホール、公民館等で財団役員を含む著名作家による巡回文芸講演会を実施した。

○1980年度講演会

文学館建設推進文芸講演会（主催 神奈川県）

第1回 10月25日「この頃思うこと」尾崎一雄、「最近の旅から」井上靖、「横浜と私」中村光夫、「文学の遺産」小田切進 入場者数1,500人（会場 神奈川県民ホール大ホール）



10月25日 第1回文学館建設推進文芸講演会で講演する尾崎一雄氏

○1981年度講演会

文学館建設推進文芸講演会（主催 神奈川県）

第2回 10月24日「人間について」水上勉 入場者数500人（会場 秦野市文化会館）／第3回 11月14日「生きがいについて」曾野綾子 入場者数600人（会場 足柄上郡大井町立湘光中学校）／第4回 11月21日「人間たちの魅力」城山三郎 入場者数200人（会場 三浦市南下浦市民センター）

1982（昭和57）年度

4月1日、財団法人神奈川文学振興会（小田切進理事長）が発足し、古山登事務局長以下計7名（県職4名、プロパー3名）の事務局は、県庁近くのビルに間借りした準備室でスタートした。この日から文学館運営事業が県から振興会に全て委託されることになった。4月24日に開かれた振興会第1回理事会で、尾崎一雄氏が名誉館長（常務理事兼務）に推挙された。

8月に文学館建築工事が着工（清水建設）し、展示設計案コンペティションは丹青社案に決定し、開館記念展の準備が具体的に進行することになった。資料収集は、振興会発足前の夏目栄子氏による漱石書画4点を皮切りに、スタンジ栄氏からの谷崎書簡など「設立の趣意」にある通り寄贈による収集を中心に、谷崎潤一郎「痴人の愛」原稿など



4月24日 第1回理事会（於・ホテルニューグランド）の後懇談する、左から長洲知事、尾崎一雄、巖谷大四、庄野潤三、福田清人、村松喬、滑川道夫、藤田圭雄の各氏。（写真提供・神奈川新聞社）

1983（昭和58）年度

建築工事の進捗に合わせ資料の収集・整理、開館記念展及びその年の特別展、閲覧室とレファレンスサービスなど開館に向けたソフト面での準備が本格的に始まった。なかでも資料収集は、急逝された尾崎一雄名誉館長の旧蔵資料の第1回受贈が8月に開始され、その後も理事、評議員ほか関係者の紹介による申込みが相次ぎ、獅子文六、杉本三木雄、木下圭太郎、滑川道夫、藤田圭雄、神西清、大野林火の各文庫など初期の中心となる資料が多数寄贈された。収集された資料は姉妹館である日本近代文学館の整理方法をベースに、都立中央図書館等の諸施設を参考にして整備された神奈川近代文学館独自の整理規則によって受入・整理がなされた。準備室の収蔵スペースの不足は県立図書館、文化資料館、埋蔵文化センターなどの諸施設を借りて補った。

広報面では、前々年度に続き建設推進文芸講演会を座間、鎌倉、茅ヶ崎、川崎の4カ所で開催したほか、その後の文学館情報発信の核となる機関紙を7月に創刊した（季刊）。創刊号はB5判12ページ（2号以降は8ページ）、2,000部発行し、全国の類縁機関、関係者に配布した。開館記念展の準備では5月に編集委員会（編集委員：磯田光一、尾崎秀樹、小田切進、紅野敏郎、保昌正夫、前田愛の各理事）を発足し、実務を事務局が担って本格的な準備を開始した。事務局は新採用の6名、日本近代文学館からの出向1名を加え、総勢17名となった。建設工事は3月末に竣工し、それに伴って振興会事務局は横浜・山手の〈港の見える丘公園〉内に新築された建物に移転した。

神奈川近代文学館建設推進文芸講演会 1983 年度

（主催 財団法人神奈川文学振興会）

第11回 4月23日「軍隊と私」古山高麗雄、「神奈川の文学遺産」小田切進 入場者数120人（共催 座間市 会場 座間市北地区文化センター）／第12回 10月1日「このごろ思うこと」中村光夫、「文学の遺産」小田切進 入場者数300人（共催 鎌倉市、鎌倉市教育委員会 会場 鎌倉市中央公民館）／第13回 同

15日「芥川龍之介と堀辰雄」中村真一郎、「文学の遺産」小田切進 入場者数250人（共催 茅ヶ崎市、茅ヶ崎市教育委員会 会場 茅ヶ崎市民文化会館）／第14回 12月10日「登場人物の情熱」小島信夫、「文学の遺産」小田切進 入場者数160人（共催 川崎市、川崎市教育委員会 会場 川崎市中原市民館）



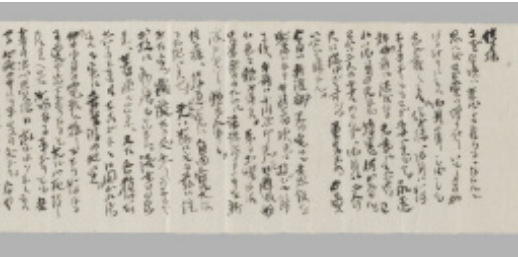
10月1日 第12回建設推進文芸講演会で講演する中村光夫常務理事

【主な寄贈資料】

- ・藤田圭雄文庫：児童関係図書、雑誌8,000冊
- ・獅子文六文庫：著書をはじめ旧蔵図書、雑誌1,640冊
- ・滑川道夫文庫：明治以降の主要な児童図書、雑誌のコレクション4,900冊
- ・和田伝評議員寄贈：代表作「沃土」など原稿2点
- ・尾崎一雄文庫：文芸誌を中心に旧蔵雑誌10,200冊
- ・杉本三木雄評議員寄贈：短歌関係図書、雑誌860冊、与謝野晶子「私の死生観」原稿
- ・谷崎終平氏寄贈：文芸誌などの雑誌2,470冊
- ・神西清文庫：「少年」「見守る女」などの原稿や創作ノート14点、旧蔵図書200冊
- ・木下圭太郎文庫：旧蔵書4,500冊
- ・大野林火文庫：著書をはじめ、諸家句集など2,030冊
- ・土岐雄三氏寄贈：山本周五郎書簡139点
- ・中村文也氏寄贈：枳山書店の胡蝶本など90冊
- ・スタンヂ栄氏寄贈：谷崎潤一郎書簡など9点

【主な購入資料】

- ・国木田独歩 佐々城信子宛書簡ほか関連資料一括



国木田独歩 佐々城信子宛書簡 1895（明治28）年9月23日（部分）

【1983年度の主なトピック】

- ・前年度に引き続き、建設推進文芸講演会を県内各地で開催。
- ・事務局は4月1日採用の6人と日本近代文学館からの出向1人を加え17人となった。
- ・10月、レプリカ製作事業開始。
- ・1984年3月26日、役員等による文学館建設工事現場の視察を実施。



1984年3月26日 文学館建設工事現場を視察する理事と財団職員 前列左から古山登、前田愛、紅野敏郎、瀬沼茂樹、稲垣達郎、小田切進、福田清人、後列左から2人目磯田光一、滑川道夫、清水節男、大久保乙彦、保昌正夫、中村光夫の各氏。

1984（昭和59）年度

4月1日、県の文学館人事が発令され、館長は小田切進理事長の兼任が決まり、職員は古山事務局長、総務課長、課員2名の計5人となった。振興会事務局は9名が新採用となり、文学館の事務局長以下兼務職員4名、日本近代文学館からの出向3名を含め、総勢26名となった。

10月14日に決まった開館に向け、あらゆる業務の準備が急ピッチですすめられた。資料部門では、建物の完成で前年までに収集した資料の搬入作業が第一の業務となったが、保存環境の観点からは竣工後、ひと夏を越してからへの搬入が望ましかった。収蔵庫の整備で寄贈申込みが相次ぎ、福本和夫、那須辰造、藤森成吉、高木健夫、勝呂忠、添田啞蟬坊・知道の文庫資料のほか寄贈総点数は10万点を超えた。開館記念展の準備は展示ケース設置工事とともに、出品資料の選定・借用、レプリカ製作、パネル・ジオラマ製作などが着々と進められていった。総務部門では6月の会議室利用開始、10月の全面開館をめざした大量の備品購入事務（初度調弁）をこなすとともに、開館記念式典、記念文芸講演会、文学講座、展覧会関連ビデオ製作などの準備をすすめた。



1984年春頃の本館外観

10月13日、一般公開の前日に開館記念式典が関係者300余名を招き挙行された。長洲一二知事、小田切理事長、尾崎松枝氏（尾崎一雄夫人）のテープカットに続いて開館記念展「近代文学100年と神奈川」の特別披露が行われた。

会期を通じて観覧者13,000人余を集め、好評裡に終了した開館記念展に続き、特別展「没後15年 獅子文六展」を開催した。この展覧会は前年に受贈した獅子文六文庫資料をもとに構成したもので、展覧会開催による寄贈者顕彰の嚆矢となった。1月からは開館記念展を3つの時代区分に再編成して「通常展Ⅰ～Ⅲ」とし、特別展の合間に順次展示していった。



10月13日の文学館開館式。長洲知事、尾崎松枝氏（尾崎一雄夫人）、小田切進理事長がテープカット、後列左から磯田光一理事、前田愛理事、井上靖常務理事（松枝氏左）ら。

神奈川近代文学館開館記念文芸講演会

（主催 財団法人神奈川文学振興会）

9月22日 挨拶：長洲一二、小田切進 「人間的魅力について」城山三郎、「作家の立場から」井上靖 入場者数1,600人（会場 神奈川県民ホール大ホール）／11月2日「文学の結晶作用」中里恒子、「人間と文学」小田切進 入場者数450人（共催・会場 平塚市中央公民館）



9月22日 開館記念文芸講演会で講演中の井上靖常務理事

特別展 開館記念 近代文学 100 年と神奈川展

日本近代文学の成立から現代に至るまでの展開を、1853 年（嘉永 6）のペリー来航から占領の終了する 1952 年（昭和 27）までの 100 年間でとらえる実験的な企図のもと、神奈川ゆかりの文学者を中心に、1,200 余点の資料によって構成。

期間 10 月 14 日～12 月 9 日（48 日間）
編集委員 磯田光一、尾崎秀樹、小田切進、紅野敏郎、保昌正夫、前田愛
会場 第 1・第 2 展示室・企画展示室（2 階）
入場者数 13,588 人（283 人／1 日平均）
○関連イベント

開館記念文芸講座 近代文学と神奈川（※）
8 月 25 日「文学史の実験―開館記念展の試み―」磯田光一 入場者数 160 人／9 月 1 日「近代の夜明け―19 世紀から 20 世紀へ―」前田愛 入場者数 196 人／同 8 日「近代文学の展開と成熟―夏目漱石とその周辺―」紅野敏郎 入場者数 225 人／同 15 日「横浜と大衆文化・文学」尾崎秀樹 入場者数 197 人／同 29 日「昭和文学の諸相―川端康成『山の音』ほか―」保昌正夫 入場者数 217 人



（上）9 月 8 日 講演中の紅野敏郎理事
（下）同 29 日 保昌正夫理事

○刊行物
「神奈川近代文学館開館記念 近代文学 100 年と神奈川展」図録 判型：B5 判／頁数：188 頁／1,900 円



開館記念「近代文学 100 年と神奈川」展（第 1 展示室）
会場風景（展示館 1 階）



開館記念展（第 2 展示室）会場風景（展示館 1 階）



開館記念展(企画展示室)会場風景(展示館 2 階ホール)

○ビデオ制作
「横浜開港」（監修：前田愛 16 分）／「鉄道と文学空間―昭和文学への序曲」（監修：磯田光一 16 分）／「北村透谷と民権運動」（監修：前田愛 16 分）／「芥川龍之介と鎌倉」（監修：紅野敏郎 21 分）

（担当 宇治土公三津子、西村洋子、斉藤由美子、岩崎洋美、安藤和重、江口祐子）

特別展 没後 15 年 獅子文六展

横浜に生まれ、エスプリとユーモアに溢れる名作を生み、岩田豊雄の本名で新劇界にも大きな足跡を残した作家・獅子文六。没後 15 年を記念し、岩田家寄贈資料を中心に約 400 点で紹介。

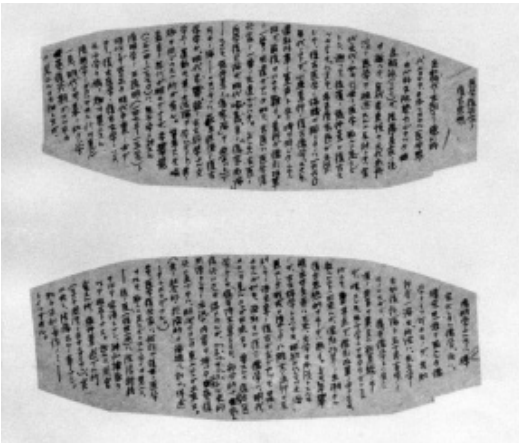
期間 12 月 13 日～1985 年 1 月 15 日（22 日間）
顧問 河盛好蔵
編集委員 阿川弘之、戊井市郎、尾崎秀樹、藤木宏幸
協力 高野昭、角田秀雄
会場 第 2 展示室
入場者数 2,623 人（119 人／1 日平均）
○関連イベント
1 月 6 日 映画会「自由学校」「やつさもつさ」
○刊行物
『没後 15 年獅子文六展』図録 判型：B5 判／頁数：24

頁／500 円
○ビデオ制作
「獅子文六」（監修：尾崎秀樹 19 分）
（担当 斉藤由美子、岩崎洋美、安藤和重）

通常展 近代文学と神奈川展―19 世紀から 20 世紀へ―

期間 1 月 17 日～4 月 23 日（81 日間）
編集委員 前田愛（以下同）
会場 第 1・第 2 展示室
入場者数 6,927 人（86 人／1 日平均）
○刊行物
リーフレット 判型：A5 判／頁数：4 頁／無料配布

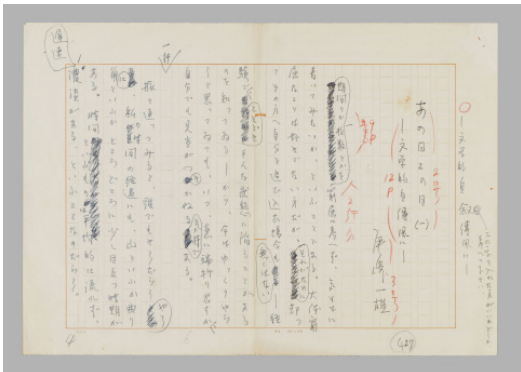
【主な寄贈資料】
・小田切進理事長寄贈：文芸誌などの蔵書 4,900 冊
・関英雄理事寄贈：新刊児童図書 500 冊
・渾大防小平資料：原稿、日記など関係資料 450 点
・福本和夫文庫：『日本工業の黎明期』ほか原稿、「獄中ノート」、諸家書簡、書、遺品類、著書や参考図書など 6,000 点



福本和夫「日本ルネッサンス史論
第一次草稿抄（獄中ノート抄）」

・那須辰造文庫：原稿、書簡など 1,140 点、児童関係図書、雑誌 5,500 冊
・杉本三木雄文庫追加：短歌雑誌、句集など 1,000 冊
・川西政明評議員寄贈：高橋和巳原稿など 40 点、掲載誌など 60 冊（1996 年、高橋和巳関係資料のみ日本近代文学館へ移管）
・福田清人理事寄贈：「春燈」「若葉」「日本談義」などの雑誌 7,000 冊
・土師清二資料：原稿、諸家書簡、書、執筆切抜など 300 点、旧蔵書 350 冊
・藤森成吉文庫：原稿やメモなど 500 点、著書ほか旧蔵書 1,800 冊
・藤田圭雄文庫追加：児童関係図書、雑誌 1,500 冊
・木下空太郎文庫追加：原稿、書簡、ノートなど 3,800 点
・村井弦斎資料：著書ほか蔵書 160 冊のほか、弦斎愛用の本箱、長谷川時雨着物
・高木健夫文庫：新聞連載小説切抜、新聞、雑誌など 16,000 点
・勝呂忠文庫：勝呂氏装幀の「ハヤカワポケットミステリー」ほか図書、雑誌 2,660 冊
・添田啞蟬坊・知道文庫：知道原稿、書簡、書のほか図書、

雑誌など 20,000 点
・尾崎一雄文庫追加：原稿、書簡、書などのほか、図書、雑誌 21,000 点



尾崎一雄「あの日この日」原稿

・獅子文六文庫追加：原稿、諸家書簡など特別資料 500 点、旧蔵図書、執筆掲載誌など 1,300 冊



岩田豊雄（獅子文六）滞欧時代の観劇ノート

【主な購入資料】
・滑川道夫旧蔵児童図書、雑誌 8,480 冊
・芥川龍之介 宮沢虎雄宛書簡
・斎藤茂吉「Nakiwarai」原稿
・谷崎潤一郎 斎藤昌三宛書簡
・北原白秋 色紙「あさかほ」
・藤森成吉「何が彼女をそうさせたか」草稿
・里見弴「雨に咲く花」原稿
・高浜虚子ほか書、石井柏亭ほか画「俳味大鑑」

【1984 年度の主なトピック】
・5 月 17 日、F・キング氏、梅原猛氏ら第 47 回国際ペン東京大会参加者 86 名が開館準備中の当館を視察。
・須賀原人形コレクションを受贈（1995 年 1 月 19 ～ 20 日に神奈川県立歴史博物館へ移管）。
・県職員録の県民部内に「神奈川近代文学館」事務局が記載される。職員 5 名（小田切館長、古山事務局長、国島総務課長、板山、川田）。
・1985 年 2 月、「神奈川近代文学年表」を刊行。

※）以後の主催催事等で特に会場の記載がない場合はすべて文学館ホールでの開催（増築前は企画展示室兼会議室、増改築後は展示館ホール）

開館 2 年目を迎え、資料、展示、企画普及などあらゆる業務において、経験の少ない職員が実践の場で「力」を蓄えていく 1 年となった。

主に寄贈によって資料収集を行う当館にとって、受贈した文庫資料の目録化は、利用を促進するとともに寄贈者の顕彰にも繋がり、基本的な業務と位置づけられる。年度末に館収蔵文庫目録の第 1 集として『尾崎一雄文庫目録』を刊行した。翌 4 月からの「尾崎一雄展」に刊行を合わせたこともあり、製作過程が過密になったが、目録全体の構成、記述などその後の文庫目録の基本形となった。資料収集では鈴木三重吉・赤い鳥文庫を受贈したほか、川端康成「千羽鶴」原稿、雑誌「新青年」大揃いなどを購入した。

展覧会は「武者小路実篤と白樺美術展」「木下杢太郎展」など 1 年で 5 回に及ぶ特別展を次々に開催し、短期間に文学館の知名度を上げることには寄与したが、資料の管理面ではさまざまな反省材料が残った。これを機に収蔵庫だけでなく倉庫を含めた管理・収納について検討がなされ、後の増改築工事に生かされた。

特別展 生誕 100 年 武者小路実篤と白樺美術展

雑誌「白樺」の中心的存在として活躍した武者小路実篤の生誕 100 年を記念し、文学・美術の交流を通し多岐にわたった「白樺」の人々の活動を 1,300 余点の資料で紹介。1 階展示室では前半部の武者小路実篤の文学と生涯を扱い、2 階企画展示室、(和室以外の)会議室全室で白樺派と関わりのある画家、彫刻家らの作品を一堂に集めて展示。

期間 4 月 27 日～5 月 26 日（26 日間）
顧問 梅原龍三郎、中川一政
編集委員 稲垣達郎、小田切進、串田孫一、紅野敏郎、瀬沼茂樹、匠秀夫、堤清二、中川孝、本多秋五、武者小路辰子、渡辺貫二
会場 第 1・第 2 展示室・企画展示室・中・小会議室
入場者数 5,486 人（211 人／1 日平均）
後援 日本近代文学館、西武美術館
○刊行物

『生誕 100 年 武者小路実篤と白樺美術展』図録 判型：AB 判／頁数：174 頁／2,000 円（別冊「神奈川と白樺派」〈判型：AB 判／頁数：12 頁〉付き）



特別展 生誕 100 年 武者小路実篤と白樺美術展（企画展示室・展示館 2 階ホール）会場風景

（担当 西村洋子、岩崎洋美、安藤和重、江口祐子）

通常展 近代文学と神奈川展―20 世紀の幕あけ―

期間 5 月 30 日～8 月 4 日（58 日間）
編集委員 紅野敏郎（以下同）
会場 第 1・第 2 展示室
入場者数 4,356 人（75 人／1 日平均）
○刊行物
リーフレット 判型：A5 判／頁数：6 頁／無料配布

特別展 生誕 100 年 木下杢太郎展

木下杢太郎の生誕 100 年没後 40 年を記念すると共に、ご遺族から寄贈された資料 11,000 点の〈木下杢太郎文庫〉を紹介し顕彰するために開催。

期間 8 月 9 日～9 月 8 日（27 日間）
編集委員 稲垣達郎
会場 第 1・第 2 展示室
入場者数 3,452 人（128 人／1 日平均）
○刊行物
『生誕 100 年 木下杢太郎展』図録 判型：B5 判／頁数：24 頁／500 円
（担当 安藤和重、金田典子）

特別展 没後 20 年 高見順展

昭和の時代を描き続けた神奈川ゆかりの代表的作家・高見順の没後 20 年を記念して開催、1,000 点余の資料で紹介。

期間 9 月 13 日～10 月 13 日（26 日間）
編集委員 中村真一郎
会場 第 1・第 2 展示室
入場者数 3,583 人（138 人／1 日平均）
○刊行物
『没後 20 年高見順展』図録 判型：B5 判／頁数：24 頁／500 円
（担当 斉藤由美子、和気純子）

特別展 日本の子どもの文学展―文学による流れ・絵による流れ・音による流れ―

児童文学関係資料の収集・充実に力を注ぐ当館に寄贈された各種コレクションを紹介すると共に、一層の充実を期して、日本初の総合的な児童文学展として開催。

期間 10 月 19 日～11 月 24 日（32 日間）
編集委員 福田清人、藤田圭雄、滑川道夫、関英雄
実行委員 関英雄、富田博之、上笙一郎、根本正義、佐藤宗子、宮川健郎
会場 第 1・第 2 展示室・企画展示室
入場者数 6,945 人（217 人／1 日平均）
○関連イベント
講座「日本の子どもの文学」
9 月 7 日 「〈赤い鳥〉と現代」関英雄、「民話を語る」松谷みよ子 入場者数 205 人／同 14 日「神奈川と子どもの文学」長崎源之助、「童謡と子ども」藤田圭雄 入場者数 130 人／同 21 日「新美南吉の世界」鳥越信、「絵本の魅力」赤羽末吉 入場者数 190 人／同 28 日「女流児童文学の歩み」上笙一郎、「宮沢賢治の宇宙」三木卓 入場者数 230 人／10 月 5 日「教科書の中の児童文学」滑川道夫、「児童文学と現代の子ども」寺村輝夫 入場者数 160 人

○刊行物
『日本の子どもの文学展』図録 判型：AB 判／頁数：100 頁／1,400 円
○ビデオ制作
「子供の遊びうた」（監修：藤田圭雄 13 分）「神奈川のうた」（同 21 分）
（担当 西村洋子、岩崎洋美、江口祐子）

通常展 近代文学と神奈川展―現代の表現を求めて―

期間 11 月 28 日～1986 年 2 月 23 日（67 日間）
編集委員 磯田光一（以下同）
会場 第 1・第 2 展示室
入場者数 3,299 人（49 人／1 日平均）
○刊行物
リーフレット 判型：A5 判／頁数：4 頁／無料配布

特別展 没後 50 年 牧野信一展

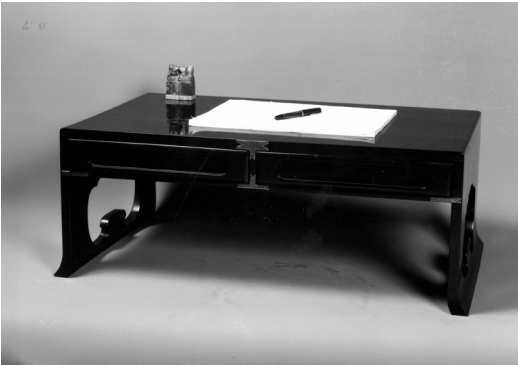
小田原に生まれ、ギリシャ趣味に満ちた独自の浪漫的世界を生み出した作家・牧野信一の没後 50 年を記念して開催。

期間 2 月 27 日～3 月 23 日（22 日間）
編集委員 保昌正夫
会場 第 1・第 2 展示室
入場者数 1,685 人（77 人／1 日平均）
○刊行物
リーフレット 判型：B6 判／頁数：8 頁／無料配布
（担当 西村洋子、日野祐子、和気純子）

【常設展ビデオ制作】
「北原白秋と三崎」（監修：安藤元雄 16 分）／「夏目漱石と鎌倉」（監修：江藤淳 18 分）

~~~~~

【主な寄贈資料】  
・鈴木三重吉・赤い鳥文庫：雑誌「赤い鳥」、鈴木三重吉著書、「赤い鳥」関連書など 851 点  
・佐佐木信綱資料：富岡鉄斎ほかの信綱宛書簡 4 通  
・木下杢太郎文庫追加：草稿、ノート、日記、書簡、旧蔵書など。文庫総点数 11,000 点となる。  
・里見弴資料：原稿、愛用の机、遺品など 21 点

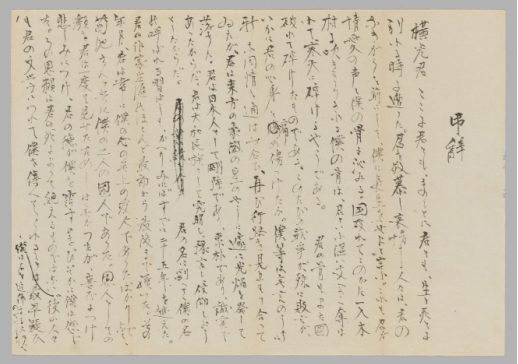


里見弴遺品 文机、落款印、万年筆

・藤田圭雄文庫追加：児童書、文芸誌など 770 冊  
・尾崎一雄文庫追加：井伏鱒二、尾崎士郎ほか書簡 9,385 点や書、図書、雑誌など  
・神原泰資料：1933 年に久米正雄、大佛次郎らと過ごし

た鎌倉の海辺のスケッチ「海浜にて」など  
・神西清文庫追加：芥川龍之介原稿「わが散文詩」  
・福本和夫文庫追加：「日本ルネッサンス史論」ほか原稿、諸家書簡、書、遺品類、著書など 271 点  
・川西政明評議員寄贈：高橋和巳「文学の責任」原稿、写真など関連資料 45 点（1996 年、高橋和巳関係資料のみ日本近代文学館へ移管）

【主な購入資料】  
・川端康成「千羽鶴」原稿、横光利一への弔辞



川端康成 横光利一への弔辞（部分）

・野口雨情書幅「別れ辛さに観音崎見れば…」  
・有島生馬 尾山篤二郎宛書簡 4 点  
・雑誌「新青年」373 冊

【1985 年度の主なトピック】  
・神奈川県下建築コンクールで当館（浦辺鎮太郎設計）が最優秀賞受賞。  
・1986 年 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 1 尾崎一雄文庫目録』刊行。  
・開館初期の展示では、展示館 1 階の展示室 2 部屋のほかに、展示規模に応じて 2 階ホールを企画展示室として活用した。「武者小路実篤と白樺美術展」では展示館 2 階の中・小会議室も利用し、展示室 5 室＝延べ床面積約 1,100 平米の大変広い展示スペースを確保した。また、当初の展示室は時計回りに観覧するように設計されており、増築後の現・第 3 展示室出口を入口として使用していた。なお、通常展・明治期の場合は下の写真のように開館展で製作した開港期の横浜を表現したジオラマと横浜錦絵のスライド上映装置を設置して、導入部とした。



通常展「近代文学と神奈川展―19 世紀から 20 世紀へ―」第 1 展示室の会場入口部分



春の特別展として当館の設立発起人の一人で、初代常務理事を務め、開館を待たずに亡くなった尾崎一雄初代名誉館長の展覧会を開催した。松枝夫人から寄贈された45,000 点に及ぶ尾崎一雄文庫資料は当館収蔵資料の礎となっており、尾崎氏はいわば当館の「生みの親」と言える存在である。また、資料収集の柱としている児童文学、大衆文学の展覧会をそれぞれ「鈴木三重吉没後 50 年記念展〈赤い鳥〉の森」「大衆文学展 よみがえるヒーローたち」のタイトルで開催した。この頃の展覧会は小田切進理事長の方針もあり、全体的に出品点数が多い傾向にあった。総的に大衆文学展は2階ホールを含め展示室は3室とし、総点数は1,300 点を数えた。

文学館事業の活性化のため「神奈川近代文学館友の会」が本年度からスタートした。主に中高年の文学愛好家が展覧会や講演会などの企画に参加しやすいように組織されたもので、初年度は700人の会員が集まった。その後も文学館の活動を側面から支える団体として発展している。特典の一つとして機関紙の無料配布に伴い、その発行部数を4月発行の12号から3,000部に増やした。

資料収集では中川孝収集実篤文庫を受贈したほか、当館の主要資料の一つである芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿を購入した。また9月には、隣接する大佛次郎記念館と文学館の両エリアを結び連絡橋「霧笛橋」が完成し、ようやく文学館への導線が整備された。

特別展 尾崎一雄展

神奈川文学振興会設立の発起人尾崎一雄初代名誉館長を顕彰するために没後3年を記念して開催。尾崎家から寄贈された45,000余点の文学資料をもとに、その生涯と作品、太宰治、檀一雄ら諸作家との交友等を紹介。

期間 3月28日～5月5日(33日間)  
編集委員 阿川弘之、稲垣達郎、井伏鱒二、円地文子、大岡昇平、小田切進、紅野敏郎、庄野潤三、永井龍男、中野孝次、丹羽文雄、藤枝静男、本多秋五、安岡章太郎、山本健吉  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 3,929人(119人/1日平均)  
○関連イベント



3月19日 記念講演会の講師控室で 講師の  
阿川弘之理事と尾崎松枝氏（尾崎一雄夫人）

○刊行物  
『尾崎一雄展』図録 判型：B5判／頁数：32頁／650円  
○ビデオ制作

「尾崎一雄—あの日この日」(監修:紅野敏郎 21分)  
(担当 齊藤由美子、安藤和重、金田典子)

通常展 近代文学と神奈川展—19 世紀から 20 世紀へ—

期間 5月10日～7月20日（62日間）  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 3,763人（61人／1日平均）  
○刊行物  
リーフレット 判型：A5判／頁数：6頁／無料配布

特別展 鈴木三重吉没後 50 年記念展 〈赤い鳥〉  
の森—日本の子どもの文化の源流—

鈴木三重吉没後 50 年を記念すると共に、鈴木家寄贈による『鈴木三重吉・赤い鳥文庫』の誕生を記念して開催。

期間 7月26日～8月31日(32日間)  
編集委員 福田清人、与田準一、藤田圭雄、滑川道夫、福井研介、関英雄、鳥越信  
実行委員 関英雄、桑原三郎、上笠一郎、根本正義、佐藤宗子  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 6,861人(214人／1日平均)  
○関連イベント  
毎週土曜日、日曜日「子ども映画祭」／会期中、子ども読書室を和室に設置

○刊行物  
『鈴木三重吉没後 50 年記念展〈赤い鳥〉の森—日本の子どもの文化の源流—』図録 判型: B5 判/頁数: 24 頁  
/ 600 円

○ビデオ制作  
「鈴木三重吉と『赤い鳥』」(監修: 関英雄 16 分)  
(担当 日野祐子、西村洋子、金子美緒)

通常展 近代文学と神奈川展—20 世紀の幕あけ—

期間 9月6日～10月19日（37日間）  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 3,469人（94人／1日平均）  
○刊行物  
リーフレット 判型：A5判／頁数：6頁／無料配布

特別展 大衆文学展 よみがえるヒーローたち

エンターテインメントの領域でもすぐれた作家を輩出した  
神奈川。明治・大正・昭和を通覧する初の大衆文学の総合  
展として約 1,300 点の資料で構成、展示。

期間 10月25日～12月7日(38日間)  
編集委員 井上靖、尾崎秀樹、中島河太郎、村上元三  
編集協力 川合澄男、清原康正、権田萬治、前田愛、真鍋  
元之  
会場 第1・第2展示室・企画展示室  
入場者数 6,299人(166人／1日平均)  
○関連イベント  
講座「文学・エンターテインメント‘86—大衆文学の魅  
力—」  
9月20日「エンターテインメントの魅力」大岡昇平、

「中里介山」山田宗睦 入場者数 155 人／同 27 日 「大佛次郎の世界」村上光彦、「吉川英治の思い出」杉森久夫 入場者数 167 人／10 月 4 日 「菊池寛・吉屋信子」巖谷大四、「長谷川伸と門弟たち」村上元三 入場者数 135 人／同 11 日 「戦後推理作家と松本清張」権田萬治、「司馬遼太郎の世界」尾崎秀樹 入場者数 144 人／同 18 日 「江戸川乱歩」中島河太郎、「柴田錬三郎・五味康祐」秋山駿 入場者数 123 人

○刊行物  
『大衆文学展 よみがえるヒーローたち』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／950 円

○ビデオ制作  
「中里介山—大菩薩峠の世界」（監修：尾崎秀樹 18 分）  
／「吉川英治—時代と文学」（同 16 分）  
（担当 齊藤由美子、佐藤秀明、西村洋子、金田典子、和気純子）



9月20日 小田切進理事長（左）と講演会講師として来館した大岡昇平理事（中央）。手前は高間秋子氏（高見順夫人）

通常展 近代文学と神奈川展—現代の表現を求めて—

期間 12月15日～1987年3月15日(71日間)  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 5,188人(73人/1日平均)  
○刊行物  
リーフレット 判型:A5判/頁数:6頁/無料配布

特別展 没後15年 川端康成展 人・芸術、その魅力

ノーベル賞作家・川端康成の没後 15 年を記念して、川端康成の作品をテーマ別に構成するとともに、2 階企画展示室では国宝「凍雲節雪図」「十便十宜図」を含む遺愛の美術品と川端作品にまつわる東山魁夷の絵画作品多数を展示。

期間 3月21日～5月5日(39日間)  
編集委員 井上靖、中村光夫、山本健吉  
編集協力 川端香男里(図録編集・会場構成)  
会場 第1・第2展示室・企画展示室  
入場者数 12,852人(330人/1日平均)  
後援 川端康成記念会、日本近代文学館

○関連イベント

3月21日 講演会「美と禁の世界」田久保英夫、「川端  
さんに接して」中村真一郎 入場者数312人(会場 神  
奈川県民ホール小ホール)

映画会『狂った一頁』  
4月29日/5月2日/同3日(会場 中会議室)

○刊行物

『川端康成展 没後15年・人・芸術、その魅力』図録 判  
型:B5判/頁数:48頁/750円

○ビデオ制作

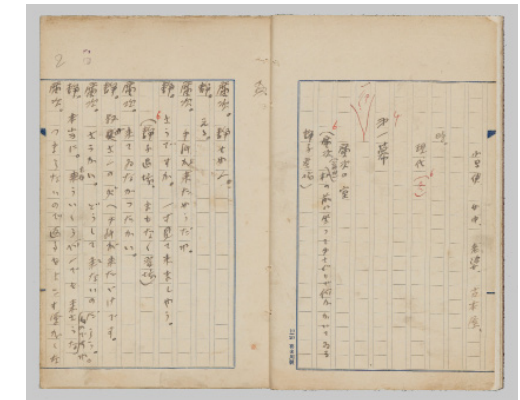
1986 (昭和 61) 年度

「川端康成 その生涯と作品」(監修:川端香男里 23分)  
(担当 安藤和重、佐藤秀明、日野祐子)

[illegible]

【主な寄贈資料】

- ・塩莊一氏寄贈：「黒パン」「黒色戦線」などを含む哲学・社会思想関係図書・雑誌 4,930 冊
- ・小林純一資料：旧蔵の児童雑誌、絵本など 730 冊
- ・内山賢次資料：動物及び動物文学原書など旧蔵書 556 冊
- ・尾崎一雄文庫追加：井伏鱒二書簡、日夏耿之介書幅、中西悟堂扁額、図書、雑誌など
- ・邦枝完二資料：原稿、執筆誌切抜、著書など 340 点
- ・坂本一亀資料：「文芸」関係の図書、雑誌など 3,500 冊（川端康成原稿など 13 点寄託）
- ・上原英敏氏寄贈：砂原彪旧蔵図書、雑誌 1,558 冊
- ・北林透馬資料：透馬及び余志子夫人の原稿、日記、旧蔵書など 4,600 点
- ・古沢太穂資料：句集や雑誌など 1,242 冊
- ・石川愛子氏寄贈：石川光男旧蔵書など 1,312 点
- ・子母沢寛資料：「父子鷹」創作メモ、中尾進「おとこ鷹」挿絵原画帖、著書や旧蔵書など 575 点
- ・中川孝収集実文庫：「その妹」原稿など実篤および白樺関係資料 7,500 点



武者小路実篤「その妹」原稿

【主な購入資料】

- ・芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿
- ・高山樗牛 姉崎嘲風宛書簡
- ・有島武郎 木田金次郎宛書簡
- ・牧野信一「晩春日記」原稿
- ・尾崎紅葉 江見水蔭宛書簡
- ・堀口大學「ラムボオ第三章」原稿
- ・久米正雄「熊」原稿

【1986年度の主なトピック】

- ・12月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録2 獅子文六文庫目録』刊行。
- ・1987年3月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録3 大野林火文庫目録』刊行。



特別展を1985年度は5回、86年度に4回、連続的に開催したことも要因となり、文学館の認知度が上がる中で、館の施設や資料整理、保存への取り組みに対する資料所蔵者の信頼を勝ち得ることができた。このことが当初の予想をはるかに上回るペースでの資料の受贈に繋がり、開館わずか4年で所蔵資料は収蔵能力約60万点の46%にあたる、276,400点に達した。この年は中西悟堂文庫、中里恒子文庫などを受贈し、年度末には『木下全太郎文庫目録』を刊行した。



多くの観覧者で賑わう夏目漱石展会場風景

展示では国民的作家の一人である夏目漱石の特別展を開催した。これは姉妹館である日本近代文学館創立 25 周年記念展として開催された展覧会に神奈川ゆかりの資料を加えて再構成したもので、会期 25 日間で 16,000 人を超える観覧者があり、一日平均で 92 人開催の芥川龍之介展に次ぐ歴代 2 番目の数を記録した。この展覧会で得た夏目家の信頼が、99 年の同家からの漱石山房時代の遺品を中心とする寄贈につながった。このほか、神奈川県ゆかりの文学を紹介する〈神奈川文学散歩展〉シリーズの第 1 回「三浦半島の風土と抒情」を開催した。その後、湘南、横浜、小田原、川崎、鎌倉、箱根・県央の各地区に分けて順次展覧会を開催した。この文学散歩展に合わせ、前年発足した「友の会」会員を対象に三浦半島の文学ゆかりの地を巡る文学散歩を実施した。その後、文学散歩は年 2～3 回実施しているが、会員限定行事として、「友の会」人気行事の一つとなっている。

5月、当館にとっては最初で最後となった全館燻蒸を実施した。準備から引き渡しまで6日を要し、資料に吸着した燻蒸ガスが放散され半年余の期間、書庫内に長時間留まることができなくなるなど業務への影響が大きかったため、その後は収蔵前に資料の燻蒸を行い、温湿度の管理をしっかりとすることで、虫、カビの発生を防ぐ方針を固めた。

通常展 近代文学と神奈川展—19 世紀から 20 世紀へ—

期間 5月15日～7月5日（45日間）  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 5,179人（115人／1日平均）  
○刊行物  
リーフレット 判型：A5判／頁数：6頁／無料配布

特別展 堀口大學展 詩の宝石箱

日本の近代詩と翻訳の世界に極めて大きな影響を残し、神奈川と深いゆかりを持つ詩人・堀口大学の業績をたどる初の展観として開催。

期間 7月11日～8月23日(38日間)  
編集協力 高橋すみれ子  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 6,625人(174人/1日平均)  
○刊行物  
『堀口大展 詩の宝石箱』図録 判型:B5判/頁数:  
24頁/500円  
○ビデオ制作  
『堀口大展—その詩と人生』(監修:窪田敏弥 19分)  
(担当 西村洋子、金子美緒)

通常展 近代文学と神奈川展—20 世紀の幕あけ—

期間 8月29日～10月11日(36日間)  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 3,645人(101人/1日平均)  
○刊行物  
リーフレット 判型:B6判/頁数:6頁/無料配布

特別展 夏目漱石展

日本近代文学館の創立 25 周年を記念して春に東京・伊勢丹で開催したものを受け、神奈川ゆかりの部分や新資料を増補して再構成した、これまでにない規模の漱石展。

期間 10月17日～11月15日(25日間)  
編集委員 小田切進、熊坂敦子、石崎等、中島国彦  
会場 第1・第2展示室・企画展示室  
入場者数 16,442人(658人/1日平均)  
後援 朝日新聞社、日本近代文学館  
○関連イベント  
10月24日 講演会「漱石と私」江藤淳、「いま読む漱石の魅力は」小島信夫 入場者数882人(会場 神奈川県立青少年センターホール)



10月24日 講演中の小島信夫氏

○刊行物  
『夏目漱石展』図録 判型：B5判／頁数：32頁／750円

○ビデオ制作  
「漱石と近代」（監修：江藤淳 18分）  
（担当 金田典子、安藤和重、高橋祐子、佐々木光）

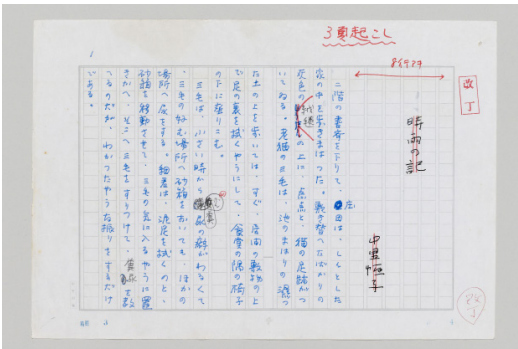
【その他の主なイベント】

○講座「文学・エンターテインメント'87—大衆文学の魅力—」  
9月5日「大衆文学の展開—白井喬二・直木三十五—」  
尾崎秀樹、「捕物帳の系譜—岡本綺堂・野村胡堂—」都筑  
道夫 入場者数 146 人／同 12 日「現代推理小説の傾向」  
山村正夫、「幻想と伝奇の世界—横溝正史・夢野久作・久  
生十蘭—」鈴木貞美 入場者数 114 人／同 19 日「ユー  
モア作家たち—佐々木邦・獅子文六・石坂洋次郎—」小松  
伸六、「武將列伝—海音寺潮五郎—」綱淵謙錠 入場者数  
105 人／同 26 日「山本周五郎の世界」伊藤桂一、「SF  
の魅力—小松左京・星新一・筒井康隆—」石川喬司 入場  
者数 120 人／10 月 3 日「女流の時代—有吉佐和子・曾  
野綾子・原田康子—」奥野健男、「戦後の展開—大衆社  
会現象との関連—」大岡昇平 入場者数 191 人

【主な寄贈資料】

・演劇資料：新劇 180 劇団、1,800 公演の上演パンフレット、台本

- ・中西悟堂文庫：蔵書のうち野鳥文学、詩歌集、詩歌雑誌 4,600 冊と窪田空穂、北原白秋他原稿 46 点
- ・中川孝収実篤文庫追加：自画像、実篤書日向堂看板、図書・雑誌 200 冊など
- ・中里恒子文庫：著書、近代文学作品、執筆誌など旧蔵書、原稿、執筆資料など 5,990 点



中里恒子『時雨の記』原稿

- ・岩上淑子氏寄贈：岩上順一著書、旧蔵書、淑子氏宛野上弥生子書簡など
- ・杉本三木雄文庫追加：同人歌誌、歌集など 3,291 冊、吉野秀雄書額など 3 点

【主な購入資料】

- ・斎藤緑雨 幸徳秋水宛書簡
- ・吉川英治「高山右近」原稿
- ・北原白秋 正富汪洋宛書簡、大手拓次宛書簡
- ・藤森成吉「少年水こ伝」原稿
- ・里見弴 色紙・短冊4点

### 【1987 年度の主なトピック】

- ・5月、初めての全館燻蒸を実施。
- ・7月24日から8月5日まで当財団と西武美術館の共催により「没後 15年 川端康成展」を大阪・西武百貨店高槻店に巡回（高槻展編集委員 小田切進、川端香男里）。
- ・「堀口大學展 詩の宝石箱」は、規模を縮小して8月29日から9月20日まで、長岡市ほかの共催、当財団の後援により長岡市美術センターで「長岡が生んだ世界の詩人 堀口大學展」として開催。
- ・1988年3月、「県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録4 木下李太郎文庫目録」刊行。

通常展 近代文学と神奈川展—現代の表現を求めて—

期間 11月21日～1988年1月24日(49日間)  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 3,703人(76人/1日平均)  
○刊行物  
リーフレット 判型:B6判/頁数:6頁/無料配布

特別展 神奈川文学散歩展 三浦半島の風土と抒情

県内の各地域と文学の関わりを探究し紹介するシリーズの第1回として、三浦半島の逗子、葉山、三浦、横須賀など各地域ゆかりの文学関係資料を展示。

期間 1月30日～3月6日(31日間)  
編集委員 野上義一、長島三芳、小玉晃一  
編集協力 石井茂、田中富、小林弘明、菊池幸彦、辻井善  
弥、田辺悟  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 6,419人(207人/1日平均)  
後援 神奈川県教育委員会、逗子市教育委員会、葉山町教  
育委員会、三浦市教育委員会、横須賀市教育委員会  
○刊行物  
『神奈川文学散歩展 三浦半島の風土と抒情』図録 判型：  
B5判/頁数：24頁/550円

○ビデオ制作  
「三浦半島—文学の風景を訪ねて」(監修:野上義一 18分)

○文学散歩  
第1回文学散歩〈三浦半島〉講師:小山文雄 11月26日  
参加者数 54人



11月26日 神奈川近代文学館友の会による三浦半島文学散歩集合写真（講師：小山文雄 解説：野上義一）  
（担当 斉藤由美子、和気純子）

通常展 近代文学と神奈川展—19 世紀から 20 世紀へ—

期間 3月12日～4月17日(32日間)  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 4,160人(130人/1日平均)  
○刊行物  
リーフレット 判型:A5判/頁数:6頁/無料配布  
(※以降の通常展リーフレットについては記載を省略。)

【常設展ビデオ制作】

「大衆文学のあゆみ—成立と展開」(監修:尾崎秀樹  
17分) / 「大衆文学のあゆみ—復興と発展」(同 14分)



4 月に職員採用を行い、職員数は 33 人となり、その後約 10 年の人員体制が固まった。

資料は中村光夫文庫、近藤東文庫、村井弦斎資料などを受贈、設立発起人の一人である中村光夫の文庫資料の記念室が設置された。開館以来の懸案だった電算化事業が本格的にスタートした。既成の図書館ソフトをもとにしてプログラム開発を行い、和書の情報入力から開始、平行して整理済みデータ 2 万件の遡及も進めた。資料の受入、整理の効率化を図るとともに、入力項目を増やすことで、それまでのカードによる整理に比べ、より細かい検索が可能になった。このほかそれまでは日本近代文学館に委託していた貴重資料のレプリカ製作を、この年から独自に行うようになった。

展示は漱石、芥川と並び人気のある太宰治の展覧会を開催した。前年、太宰夫人の津島美知子氏から日本近代文学館に寄贈された太宰治文庫資料を中心に構成された展覧会で、総観覧者数、一日平均観覧者数ともに歴代 3 番目の数字を記録した。企画普及では文学講座の新しいシリーズ「自作を語る」が始まった。その後「私の本について語ろう」に引き継がれ継続されている。また、「友の会」は順調に会員数を伸ばしこの年、千人の大台を超え、1,183 人を数えた。その後、バブル景気が終わりを迎える 92 年度まで千人台を維持した。

#### 特別展 太宰治展

没後 40 年を記念して、作家・太宰治の生涯と文学を編年的に構成し展示。企画展示室では阿部合成など太宰ゆかりの画家による美術作品も紹介。本展は一部資料を入れ替え同年 6 月 18 日から 7 月 17 日まで日本近代文学館でも巡回展示。



太宰治展会場風景

期間 4 月 23 日～5 月 29 日（31 日間）  
編集委員 奥野健男、小田切進  
編集協力 野原一夫、野平健一、相馬正一  
会場 第 1・第 2 展示室・企画展示室  
入場者数 17,072 人（551 人／1 日平均）  
後援 日本近代文学館

##### ○関連イベント

5 月 3 日 講演会「無頼とは何か―太宰治と今日―」阿部昭、「太宰文学の意義」奥野健男 入場者数 508 人（会場 神奈川県民ホール小ホール）

##### ○刊行物

『太宰治展』図録 判型：B5 判／頁数：46 頁／700 円

##### ○ビデオ制作

「太宰治―「東京八景」より」（監修：奥野健男 18 分）  
（担当 安藤和重、北村陽子、半田典子）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―20 世紀の幕あけ―

期間 6 月 4 日～7 月 17 日（38 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 3,386 人（89 人／1 日平均）

#### 特別展 神奈川文学散歩展 湘南の光と影

県内の各地域と文学の関わりを探索し紹介するシリーズの第 2 回として、藤沢、茅ヶ崎、寒川、平塚、大磯、二宮など、湘南各地域ゆかりの文学関係資料を展示。

期間 7 月 23 日～8 月 28 日（32 日間）  
編集委員 井上弘、小山文雄、山田宗睦  
編集協力 小奈晴夫、片岡懋、北沢瑞史、鬼頭麟兵、鈴木良昭  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 6,200 人（194 人／1 日平均）  
後援 神奈川県教育委員会、藤沢市教育委員会、茅ヶ崎市教育委員会、寒川町教育委員会、平塚市教育委員会、大磯町教育委員会、二宮町教育委員会

##### ○刊行物

『神奈川文学散歩展 湘南の光と影』図録 判型：B5 判／頁数：24 頁／550 円

##### ○ビデオ制作

「湘南の光と影―友ありて」（監修：小山文雄 16 分）  
○文学散歩  
第 2 回文学散歩〈湘南〉講師：小山文雄 5 月 27 日 参加者数 45 人  
（担当 金子美緒、和気純子、佐々木光）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―現代の表現を求めて―

期間 9 月 3 日～10 月 16 日（35 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 3,890 人（111 人／1 日平均）

#### 特別展 堀辰雄展―生涯と芸術―

没後 35 年を記念して堀家所蔵の資料を中心に、その生涯と文学活動を 2 部門に分けて構成し展示。

期間 10 月 22 日～11 月 27 日（30 日間）  
編集委員 中村真一郎  
編集協力 堀多恵、谷田昌平  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 10,152 人（338 人／1 日平均）

##### ○関連イベント

10 月 29 日 講演会「堀辰雄における〈小説〉について」中村真一郎 入場者数 273 人

##### ○刊行物

『堀辰雄展―生涯と芸術―』図録 判型：B5 判／頁数：32 頁／650 円

##### ○ビデオ制作

「堀辰雄―愛と死の世界」（監修：中村真一郎 20 分）  
（担当 高橋祐子、市野いづみ）



10 月 29 日 講演中の中村真一郎理事

#### 通常展 近代文学と神奈川展―19 世紀から 20 世紀へ―

期間 12 月 3 日～1989 年 2 月 12 日（55 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 4,214 人（77 人／1 日平均）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―20 世紀の幕あけ―

期間 2 月 18 日～4 月 9 日（43 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 4,392 人（102 人／1 日平均）

##### 【常設展ビデオ制作】

「武者小路実篤と神奈川」（監修：紅野敏郎 15 分）／「文学館の魅力―港の見える丘公園の神奈川近代文学館を訪ねる」（監修：小田切進 17 分）

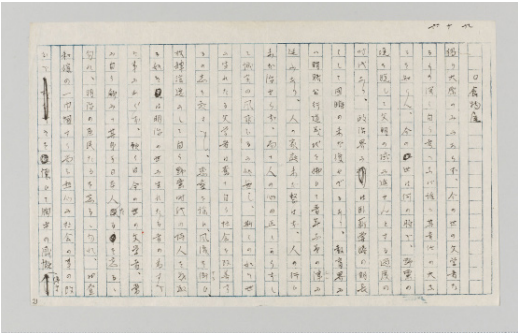
##### 【その他の主なイベント】

##### ○講座「自作を語る」

9 月 10 日「デイドリーム・ビリーバー」三田誠広 入場者数 81 人／同 17 日「武家女夫録」安西篤子 入場者数 82 人／同 24 日「太陽の便り鼻から昇る」青野聰 入場者数 59 人／10 月 1 日「蒼ざめた馬を見よ」五木寛之 入場者数 239 人／同 8 日「はみだした明日」中野孝次 入場者数 115 人

##### 【主な寄贈資料】

・村井弦斎資料：「子宝」「酒道楽」ほか草稿、原稿、「食道楽」「阿古屋」ノート、多嘉子夫人宛弦斎書簡、著書、関連資料など 2,100 点



村井弦斎「食道楽」原稿

・坂本一亀氏寄贈：川端康成、立原正秋、本多秋五らの書簡 289 点、旧蔵書 1,212 冊など  
・中村光夫文庫：著書、原稿、創作ノートのほか、二葉亭四迷「平凡」草稿ほか、自筆資料、書簡など二葉亭関係資料を含む 2,865 点  
・近藤東文庫：詩集、詩誌や国鉄勤労者文学関係資料など旧蔵書 18,456 冊、原稿、書簡など特別資料 3,428 点

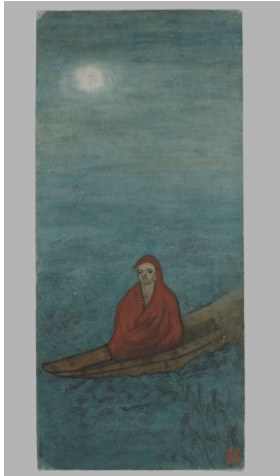


近藤東旧蔵の雑誌「青騎士」と「君と僕」

・今官一資料：太宰治はがき 2 点、吉田一穂原稿、書画  
・長島三芳評議員寄贈：詩集および雑誌「詩学」「日本未来派」「文芸汎論」など 1,860 冊

##### 【主な購入資料】

・夏目漱石 原稿、書画、文書など 87 点、林原耕三宛書簡 33 点



夏目漱石画「達磨渡江図」

・芥川龍之介 林原耕三宛書簡  
・内田百閒「鷹作吾輩は猫である」原稿  
・林芙美子「新イソップ 日本動物集（3）狐物語」原稿  
・直木三十五「乱髪巾双紙」「南国太平記梗概」原稿  
・子母沢寛「やくざ雑話」原稿  
・高浜虚子 色紙「石段に一步をかけぬ…」

##### 【1988 年度の主なトピック】

・1989 年 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 5 福本和夫文庫目録』刊行。  
・「太宰治展」は、6 月 18 日から 7 月 17 日まで日本近代文学館でも開催。



開館 5 年にして資料の収蔵率が 50％近くに達したこともあり、収蔵庫の増築に加え常設展示室、展示準備室など機能面の強化をめざす増改築の話が前年あたりから始まっていた。前提には港の見える丘公園を管轄する横浜市の建築基準の緩和があるが、9 月、小田切進理事長は長洲知事と 3 人の副知事を訪ね、文学館の増築を要請した。この後、92 年 10 月に着工する増改築工事に向け準備は進められていった。

資料では、楠本憲吉文庫、堀辰雄文庫のほか、作家の全体像を知る上で不可欠な一括資料である北原武夫資料、北村初雄資料、西脇順三郎資料をご遺族から、横浜演劇研究所からは同研究所が収集した戦後の演劇公演チラシ、パンフレットなどを受贈した。

展示では、横浜にゆかりの深い中里恒子、吉川英治の個人展を開催したほか、〈神奈川文学散歩展〉シリーズの第 3 回目として「横浜―文学の港」展を開催した。本展は横浜開港 130 年記念事業の一つでもあったが、観客が市内各所のイベントや、同年みなとみらい 21 地区で開催の横浜博覧会（3～10 月）に分散し、入場者数は伸びなかった。



来館したスクリプナー圭氏（中里恒子長女・中央）とそのご家族に中里恒子展を案内する小田切進理事長（左）

#### 特別展 中里恒子展―物語のころ―

ご遺族から寄贈された〈中里恒子文庫〉の資料を中心に、その生涯と文学を立体的に構成、展示。当館初の女性作家の個人展。

期間 4 月 15 日～5 月 21 日（31 日間）  
編集委員 宇野千代、永井龍男、巖谷大四  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 5,881 人（190 人／1 日平均）  
○刊行物  
『中里恒子展―物語のころ―』図録 判型：B5 判／頁数：32 頁／600 円  
○ビデオ制作  
「中里恒子―物語のころ―」（監修：巖谷大四 15 分）  
（担当 北村陽子、金子美緒）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―現代の表現を求めて―

期間 5 月 27 日～7 月 16 日（44 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 2,747 人（62 人／1 日平均）

#### 特別展 神奈川文学散歩展 横浜―文学の港

県内の各地域と文学の関わりを探求し紹介するシリーズの第 3 回として、横浜ゆかりの作家と作品の関係資料を展示。

期間 7 月 22 日～8 月 27 日（32 日間）  
編集委員 内田四方蔵、石井光太郎、伊豆利彦、川合澄男  
編集協力 山田今次、古沢太穂、葛原繁、小玉晃一  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 4,830 人（151 人／1 日平均）  
後援 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会  
○関連イベント

神奈川文学散歩展記念講演会「近代文学と横浜」  
7 月 29 日 「文学に見る横浜」中野孝次、「獅子文六と横浜」飯沢匡 入場者数 197 人  
神奈川文学散歩展記念「横浜映画祭」  
8 月 6 日 「午後の曳航」（三島由紀夫原作） 入場者数 43 人／同 13 日 「やささもっさ」（獅子文六原作） 入場者数 62 人／同 20 日 「どですかでん」（山本周五郎原作） 入場者数 64 人／同 27 日 「痴人の愛」（谷崎潤一郎原作） 入場者数 36 人

○刊行物  
『神奈川文学散歩展 横浜―文学の港』図録 判型：B5 判／頁数：32 頁／700 円  
○ビデオ制作  
「文学の港―横浜」（監修：内田四方蔵 15 分）  
○文学散歩  
第 3 回文学散歩〈横浜〉講師：小山文雄 5 月 18 日、同 30 日 参加者数 66 人  
（担当 安藤和重、高橋祐子、佐々木光）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―19 世紀から 20 世紀へ―

期間 9 月 2 日～10 月 15 日（36 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 2,920 人（81 人／1 日平均）

##### 特別展 吉川英治展

吉川家および吉川英治記念館の資料を中心に、横浜ゆかりの作家・吉川英治の生涯とその作品世界を総合的に構成、展示。

期間 10 月 21 日～11 月 26 日（31 日間）  
編集委員 尾崎秀樹、吉川英明  
編集協力 城塚朋和、清原康正  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 8,422 人（272 人／1 日平均）  
後援 吉川英治記念館  
○関連イベント

吉川英治展記念文芸講演会  
10 月 28 日 「歴史文学の魅力―吉川英治の場合」尾崎秀樹、「作家としての吉川先生」杉本苑子 入場者数 430 人（会場 神奈川県民ホール小ホール）

○刊行物  
『吉川英治展』図録 判型：B5 判／頁数：48 頁／700 円  
○ビデオ制作  
『「宮本武蔵」から『新平家物語』へ―吉川英治の時代を見る眼』（監修：尾崎秀樹 14 分）  
（担当 和気純子、市野いづみ、酒井妙子）



10 月 28 日 講演中の杉本苑子氏

#### 通常展 近代文学と神奈川展―20 世紀の幕あけ―

期間 12 月 2 日～1990 年 1 月 28 日（42 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 2,759 人（66 人／1 日平均）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―現代の表現を求めて―

期間 2 月 3 日～3 月 25 日（43 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 4,836 人（112 人／1 日平均）

【常設展ビデオ制作】  
「白樺派三兄弟の芸術」（監修：紅野敏郎 15 分）「谷崎潤一郎と神奈川」（監修：河野多恵子 15 分）

【その他の主なイベント】  
○講座「自作を語る」  
9 月 9 日 「故郷の水へのメッセージ」大岡信 入場者数 155 人／同 16 日 「月華の節」馬場あき子 入場者数 171 人／同 23 日 「氷輪」永井路子 入場者数 218 人／同 30 日 「錨のない船」加賀乙彦 入場者数 192 人／10 月 7 日 「アメリカひじき」野坂昭如 入場者数 251 人

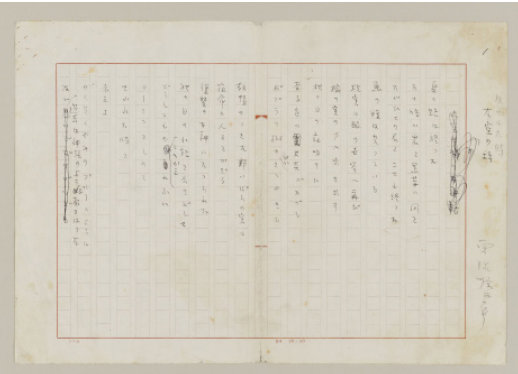


10 月 7 日 講演中の野坂昭如氏

○主な寄贈資料】

・演劇資料：劇団公演パンフレット、台本など 250 点、図書・雑誌 1,120 冊  
・楠本憲吉文庫：著書、正岡子規、高浜虚子、石田波郷、日野草城などの句集、俳書中心の 6,200 冊。雑誌「ほととぎす」（松山版）ほか 2,500 冊、句帖、山口誓子句稿などの肉筆資料 180 点  
・近藤東文庫追加：『軍艦』『風俗』『歳月』などの詩集原稿、

諸家書簡 200 点、詩誌 100 冊  
・中村光夫文庫追加：吉田建一ら諸家書簡、執筆切抜など 510 点  
・松野安男氏寄贈：雑誌「新青年」「新女苑」230 冊  
・西脇順三郎資料：詩集『失われた時』『壊歌』『人類』など原稿 8 点



西脇順三郎『失われた時』原稿

・岡鹿之助資料：中里恒子『わが庵』『まりあんぬ物語』の装幀原画など  
・北原武夫資料：原稿、書簡、著書など 420 点  
・山本周五郎資料 原稿など 10 点  
・北村初雄資料：遺稿集『樹』原稿、初雄宛の諸家書簡、遺品など 450 点  
・高垣眸資料：「紅玉の冠」「海賊どくろ号」原稿など 11 点、台本など  
・堀辰雄文庫：雑誌 126 冊やリルケ、プルストラの著書・研究書などを含む英独仏の旧蔵洋書 900 冊



堀辰雄旧蔵書から リルケの（左）“Requiem”と“Das Marien=Leben”

【主な購入資料】

・宮嶋資夫「坑夫」原稿  
・幸徳秋水 上司小剣宛書簡  
・高浜虚子句幅「鎌倉 秋天の下に浪あり…」  
・谷崎潤一郎 青山虎之助宛書簡  
・横光利一 岸田国土宛書簡  
・木下杢太郎 斎藤茂吉宛書簡  
・吉川英治色紙「父母の忌もおこたて…」  
・龍胆寺雄「黒檀の馬」原稿

【1989 年度の主なトピック】

・神奈川ゆかり作品の調査について県国語部会への調査委託終了。  
・1990 年 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 6 藤森成吉文庫目録』刊行。



本年度末に受贈した中島敦文庫は、1992年9月、この資料をもとに「没後50年 中島敦展」を開催し、展覧会終了後にはご遺族からの出品資料が追加で寄贈された。その後、2006年に日本大学法学部所蔵の中島旧蔵書を手入、09年には「中島敦文庫直筆資料画像データベース」をDVD－ROMで刊行。その刊行を記念して同年、中島敦の会の後援で2回目の展覧会「生誕100年記念 中島敦展」を開催した。資料の受贈を起点に展覧会の開催、文庫資料の充実、目録の刊行、関係団体との連携など広範な事業に発展している。

88年に受贈した近藤東文庫の詩雑誌は、研究者、出版関係者の閲覧が多数あり、資料課では近藤文庫の仮冊子目録を作成して対応した。87年に「新青年」の閲覧が多数あったケースと同様に、他の施設にはない資料を提供することが閲覧者の増加に繋がる。

展示では、「ドキュメント昭和の文学展」を朝日新聞社との共催で開催した。新聞社ならではの広報力で総合展としては多くの来館者を集めた一方で、新聞社が主体の展覧会は、展示運営手法に当館とは大きな違いがあり、マスコミとの共催展に課題を残した。神奈川に関する文学情報を発信していくことは、当館の大切な事業の一つであるが、開館展図録に収録された「神奈川近代文学年表」を増補した『神奈川近代文学年表 文学者たちの神奈川〈明治編〉』を刊行し、文学者の神奈川をめぐる動向の大枠を示すことができた。95年には「大正・昭和前期編」を刊行した。

#### 特別展 有島武郎・有島生馬・里見弴展―白樺派三兄弟の芸術―

有島家から日本近代文学館に寄贈された有島武郎関係資料を中心に、神奈川ゆかりの白樺派三兄弟の芸術とその歩みを立体的に構成し、展示。

期間 3月31日～5月6日（32日間）  
編集委員 本多秋五、紅野敏郎、小田切進  
編集協力 高原二郎  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 9,844人（308人／1日平均）  
後援 日本近代文学館  
協力 有島記念館、鎌倉文学館、清春白樺美術館、信州新町美術館・有島生馬記念館、財団法人北海道文学館

- 関連イベント
- 4月7日『『或る女』を中心に』小川国夫 入場者数270人
- 刊行物
- 『有島武郎・有島生馬・里見弴展―白樺派三兄弟の芸術―』図録 判型：B5判／頁数：40頁／700円
- ビデオ制作
- 「白樺派三兄弟の芸術」（監修：紅野敏郎 14分）  
（担当 金子美緒、北村陽子、佐々木光）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―19世紀から20世紀へ―

期間 5月12日～7月15日（55日間）  
編集委員 尾崎秀樹、小田切進、川西政明、紅野敏郎、保昌正夫、三好行雄（以下通常展は同）  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 4,725人（85人／1日平均）

#### 特別展 ドキュメント 昭和の文学展

激動の昭和を文学の分野から回顧し、原稿、初版本のほか、作品背景となった資料などをまじえてドキュメントタッチで構成、展示。

期間 7月21日～8月26日（32日間）  
監修 小田切進、高橋英夫、黒井千次、川西政明  
会場 第1・第2展示室・企画展示室  
入場者数 9,384人（293人／1日平均）  
共催 朝日新聞社  
後援 日本近代文学館  
○関連イベント  
7月27日 講演会「漱石の文庫発刊から昇平の死まで」大江健三郎、「小説と私」宮尾登美子 入場者数1,106人（会場 神奈川県立音楽堂）



「昭和の文学展」を観覧する小田切進理事長（左）と井上靖常務理事（右）

- 刊行物
- 「ドキュメント昭和の文学展」図録 判型：B5判変型／頁数：136頁／1,800円（編集発行 朝日新聞東京本社企画第一部）  
（担当 倉和男、石井久義）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―20世紀の幕あけ―

期間 9月1日～10月14日（36日間）  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 3,037人（84人／1日平均）

#### 特別展 神奈川文学散歩展 海辺のきらめき―小田原・真鶴・湯河原

県内の各地域と文学の関わりを探求し紹介するシリーズの第4回として、小田原、真鶴、湯河原ゆかりの作家と作品の関係資料を展示。

期間 10月20日～11月25日（32日間）  
編集委員 石井富之助、石井茂、近田茂芳、播摩晃一、川添猛  
編集協力 永田東一郎、島本恒、相沢栄一、立木望隆、鈴木貫介  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 5,698人（178人／1日平均）  
後援 神奈川県教育委員会、小田原市教育委員会、真鶴町教育委員会、湯河原町教育委員会

- 刊行物
- 『神奈川文学散歩 海辺のきらめき―小田原・真鶴・

- 湯河原』図録 判型：B5判／頁数：24頁／550円
- ビデオ制作
- 「海辺のきらめき―小田原 真鶴 湯河原」（監修：石井富之助 15分）
- 文学散歩
- 第4回文学散歩〈小田原・真鶴・湯河原〉講師：小山文雄 10月25日 参加者数67人  
（担当 高橋祐子、澤茂樹、竜野ゆき）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―現代の表現を求めて―

期間 12月1日～1991年1月27日（42日間）  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 2,817人（67人／1日平均）

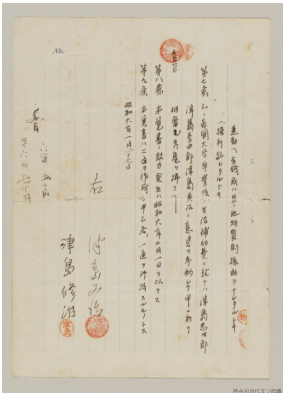
#### 通常展 近代文学と神奈川展―19世紀から20世紀へ―

期間 2月2日～3月31日（48日間）  
会場 第1・第2展示室  
入場者数 4,755人（99人／1日平均）

- 【ビデオ制作】
- 「大野林火と抒情の水脈」（監修：松崎鉄之助 15分）／「木下杢太郎とユマニテの精神」（監修：新田義之 15分）

- 【その他の主なイベント】
- 講座「自作を語る」
- 9月29日「桜田門外の変」吉村昭 入場者数198人／10月6日「寒雷」加藤楸邨 入場者数218人／同13日「白い手」椎名誠 入場者数236人／同21日「小春日和」金井美恵子 入場者数72人／同27日「人生余熱あり」城山三郎 入場者数208人

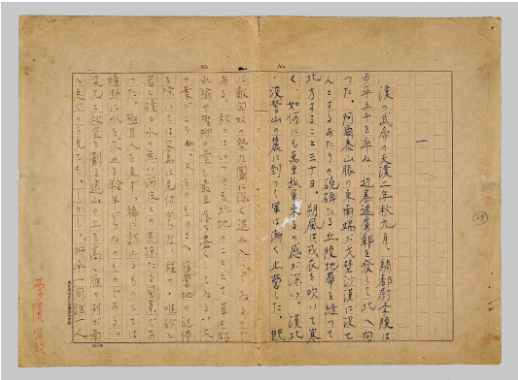
- =====
- 【主な寄贈資料】
- ・長篠康一郎収集太宰治文庫：書簡、津島家分家覚書など43点、私家版『駈込み訴へ』など図書378冊、初出誌・研究誌など雑誌296冊



津島文治、修治（太宰治）「覚」（部分）

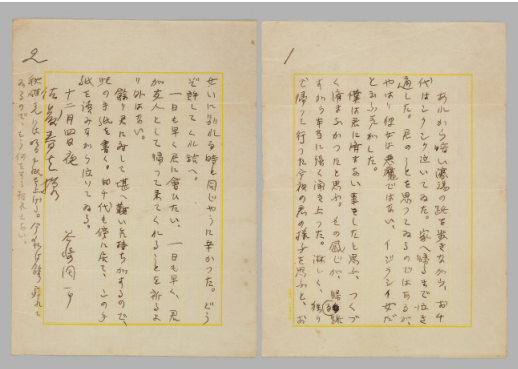
- 司馬遼太郎氏寄贈：「翔ぶが如く」原稿
- 尾崎一雄文庫追加：「梅干爺さん」「文芸随想」など原稿6点、書7点、図書350冊、雑誌120冊
- 獅子文六文庫追加：「あんとるめ」「町ッ子」など原稿18点
- 今井達夫資料：「曲軒・山本周五郎」原稿、周五郎書簡など8点

- 添田啞蟬坊・知道文庫追加：「空襲下日記」「敗戦日記」など14点
- 團伊玖磨氏寄贈：著書『パイプのけむり』19冊と原稿
- 青木雨彦評議員寄贈：戦後文学や内外の推理小説などを中心とした蔵書4,810冊
- 吉行淳之助資料：「砂の上の植物群」「長い崖道」原稿など24点
- 神西清文庫追加：「三島由紀夫―ナルシシズムの運命―」「白樺のある風景」原稿2点
- 土岐雄三資料：「小説山本周五郎」「かまきり」原稿など5点
- 石井光太郎評議員寄贈：歌集・句集中心の近代文学と、郷土史関係の図書・雑誌約5,200冊
- 中島敦文庫：原稿・草稿、日記・ノート・断片、水彩画、書簡など365点



中島敦「李陵」浄書原稿

- 【主な購入資料】
- ・幸田露伴「蝸牛庵聯話」原稿
- ・榊山潤「消えた女」原稿
- ・朝日新聞系列誌掲載諸家冒頭原稿
- ・斎藤緑雨 幸徳秋水宛書簡6点
- ・夏目漱石 野間真綱宛書簡31点
- ・谷崎潤一郎 佐藤春夫宛書簡



谷崎潤一郎 佐藤春夫宛書簡〔1920（大正9）年12月4日

- 【1990年度の主なトピック】
- ・8月、増改築工事設計調査に着手。
- ・10月、特別資料の電算入力開始。
- ・1991年2月、『神奈川近代文学年表 文学者たちの神奈川〈明治編〉』を刊行。



寄贈資料の急激な増加で開館 5 年目の 1989 年から県に要望してきた増改築への取り組みが公式に動き出した。5 月の理事会、評議員会で増改築の骨格が承認され、設計は本体と同じ浦辺設計があたり、94 年 10 月の再オープンを目指し準備がすすめられた。増築される新館の 1 階にはエントランスと常設展示室が、地下 1 階及び 2 階には収蔵庫、記念室のほか、展示準備室、撮影室など不足していた機能を補う部屋が設けられ、展示館 2 階の企画展示室兼会議室が固定席のホールにリニューアルされ、本館 1 階も電算化に伴って電算室が、特別資料閲覧の増加に伴って特別閲覧室の設置（2004 年 4 月）が盛り込まれた。また、収蔵庫は開館から 10 年の経験を集約し、ランニングコスト（電気代など）を抑えた温湿度管理ができ、軀体からの汚染因子の影響が最小限となるギャラリーボールド工法の採用を決めた。

常設展は、基本方針を決める展示設計委員会（委員長・保昌正夫、委員・藤木幸宏、山田宗睦）を設置、「神奈川の風光と文学」をテーマに県内各地の風土と作品との関わりに焦点を当てることになった。展示設計は丹青社のプロポーザルが委員会の推薦を受けて採用された。

資料では、収蔵する文庫資料の中で点数の最も多い野間宏文庫（1992 年度に文庫化）のほか、内田百閒資料、中野重治資料などが寄贈された。また、大手出版 7 社から新刊図書、雑誌の寄贈が開始され、その後、資料購入費が削減されていく中、資料購入を補うありがたい寄贈となっている。展示では、評議員会からかねて要望のあった詩歌ジャンルをテーマにした総合展「日本の詩歌展」を開催し、会期中に講座「日本の詩歌」を実施した。

#### 特別展 山本周五郎展

戦後、横浜に移住し、この地を愛し続けた作家・山本周五郎。ご遺族から寄贈された原稿をはじめ、初版本、書簡などを中心にその生涯を立体的に構成し、展示。

期間 4 月 6 日～5 月 12 日（32 日間）  
編集委員 木村久邇典、山田宗睦、早乙女貢  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 10,230 人（320 人／1 日平均）  
○関連イベント

4 月 7 日 映画会「椿三十郎」 入場者数 43 人／同 13 日 講演会「山本周五郎と私」早乙女貢、「山本周五郎の世界」山田宗睦 入場者数 265 人／同 14 日 映画会「ちいさこべ」 入場者数 41 人／同 20 日 映画会「赤ひげ」 入場者数 81 人／同 28 日 映画会「冷飯とおさんとちゃん」 入場者数 75 人／5 月 5 日 映画会「どですかでん」 入場者数 89 人／同 12 日 映画会「ひとごろし」 入場者数 79 人

○刊行物  
『山本周五郎展』図録 判型：B5 判／頁数：32 頁／600 円  
○ビデオ制作  
『「人間が書きたい」―山本周五郎の文学』（監修：木村久邇典 15 分）

（担当 市野いづみ、酒井妙子）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―20 世紀の幕あけ―

期間 5 月 18 日～7 月 14 日（49 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 4,704 人（96 人／1 日平均）

#### 特別展 神奈川文学散歩展 都市の叫び、水のささやき―川崎と文学

県内の各地域と文学の関わりを探索し紹介するシリーズの第 5 回として、川崎ゆかりの作家と作品の関係資料を展示。

期間 7 月 20 日～8 月 25 日（32 日間）  
編集委員 入谷清久、鳥居邦朗、池内輝雄  
編集協力 藤田親昌、杉山康彦  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 4,361 人（136 人／1 日平均）  
後援 神奈川県教育委員会、川崎市教育委員会

○刊行物  
「神奈川文学散歩展 都市の叫び、水のささやき」図録 判型：B5 判／頁数：24 頁／550 円  
○ビデオ制作  
「川崎―都市のさけび 水のささやき」（監修：馬場あき子 15 分）  
○文学散歩  
第 5 回文学散歩〈川崎〉講師：小山文雄 7 月 24 日、8 月 6 日 参加者数 86 人  
（担当 北村陽子、澤茂樹、中村敦）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―現代の表現を求めて―

8 月 31 日～10 月 13 日（36 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 3,022 人（84 人／1 日平均）

#### 特別展 日本の詩歌展―詩・短歌・俳句の 100 年

明治初年から昭和 40 年代まで、約 100 年間の近代日本の詩・短歌・俳句の発展の歴史を原稿・初版本・書・絵画などで構成、展示。

期間 10 月 19 日～11 月 24 日（32 日間）  
編集顧問 加藤楸邨、伊藤信吉、窪田章一郎  
編集委員 熊沢正一、古沢太穂、北村太郎、鷹羽狩行、大岡信、入沢康夫、佐佐木幸綱  
編集協力 山田今次、長島三芳、松崎鉄之介、葛原繁、草間時彦、馬場あき子、島田修二、星野椿、小海永二  
会場 第 1・第 2 展示室、企画展示室  
入場者数 9,155 人（286 人／1 日平均）  
○関連イベント

講座「日本の詩歌」  
9 月 21 日 「日本の詩歌―その美と力」大岡信 入場者数 259 人／9 月 28 日 「子規・虚子と『ほととぎす』」稲畑汀子、「俳句の伝統と現代」金子兜太 入場者数 270 人／10 月 5 日 「短歌の芸術性―『赤光』を中心に」佐佐木幸綱、「与謝野晶子と『明星』の歌人たち」尾崎左永子 入場者数 270 人／10 月 12 日 「近代文学に於ける詩の役割」中村真一郎、「昭和詩の人々―朔太郎・犀星・重治」伊藤信吉 入場者数 221 人

○刊行物  
『日本の詩歌展―詩・短歌・俳句の 100 年』図録 判型：B5 判／頁数：56 頁／800 円  
○ビデオ制作  
「詩人たちのふるさと」「近代詩人の恋愛歌」（監修：伊藤信吉 各 15 分）  
（担当 高橋祐子、竜野ゆき、古川左映子）

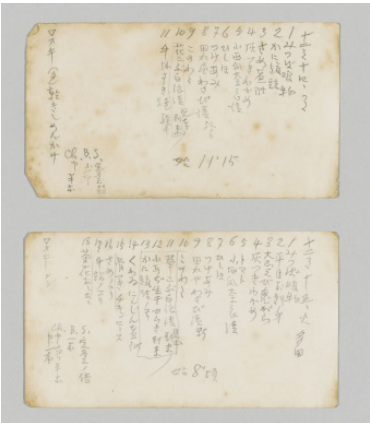
#### 通常展 近代文学と神奈川展―19 世紀から 20 世紀へ―

期間 11 月 30 日～1992 年 1 月 26 日（42 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 2,465 人（59 人／1 日平均）

#### 通常展 近代文学と神奈川展―20 世紀の幕あけ―

期間 2 月 1 日～3 月 29 日（49 日間）  
会場 第 1・第 2 展示室  
入場者数 4,894 人（100 人／1 日平均）

=====
【主な寄贈資料】  
・内田百閒資料：著書、芥川龍之介署名本『湖南の扇』などを含む旧蔵書、お膳日誌ほか自筆資料、印など 320 点



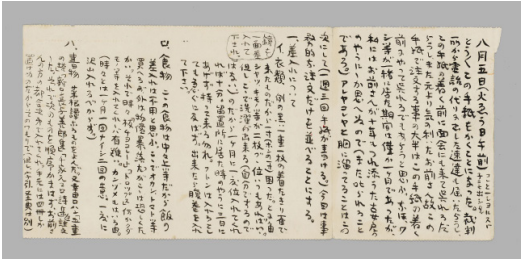
内田百閒 お膳日誌

・村越龍男氏寄贈：近代文学書 74 冊と文芸誌 8 冊、高浜虚子添削・松本翠濤自筆句稿帖 1 冊  
・土居良三氏寄贈：志賀直哉署名献呈本を含む図書 15 冊  
・中島敦文庫追加：原稿、色紙など 6 点と図書、雑誌、新聞切抜など  
・八木義徳資料：「夕虹」原稿  
・中村光夫文庫追加：「妄想」原稿  
・小島政二郎氏寄贈：自筆書き込み訂正本『眼中の人』1 冊  
・栗原幸夫氏寄贈：小林多喜二遺稿「文化サークルの正しき理解のために」、プロレタリア関係資料 9 点、雑誌 66 冊  
・生田長江資料：原稿、創作ノート類、日記、書、著書ほか旧蔵書など 350 点  
・野間宏資料：「暗い絵」「真空地帯」など原稿 96 点、図書 28,390 冊、雑誌など 43,125 点  
・山本周五郎資料：「続樅ノ木は残った」原稿  
・佐多芳郎資料：「樅ノ木は残った」（山本周五郎著）挿絵原画 267 点



佐多芳郎画「樅ノ木は残った」挿絵原画

・中野重治資料：書簡集『愛しき者へ』収録の家族宛書簡 654 点



中野重治 原泉宛書簡 1930（昭和5）年8月5日

【主な購入資料】  
・森嶋外「クライスト集中に見えたる奇怪なる決闘の話」「三越」原稿  
・富田常雄「姿三四郎」原稿  
・西脇順三郎「青春の療養」原稿  
・子母沢寛「愛猿記」原稿  
・永井荷風ほか「木曜会第四回六句集」肉筆回覧集  
・夏目漱石 野間真綱宛書簡 46 点  
・小山内薫 川田順宛書簡 15 点  
・夏目漱石「それから」大阪朝日新聞社 社内版

【1991 年度の主なトピック】  
・4 月、増改築工事基本設計に着手。  
・1992 年 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 7 高木健夫文庫目録』刊行。  
・所蔵雑誌の電算入力開始。  
・日本近代文学館からの出版社寄贈図書・雑誌の移管に伴い、この年度から岩波書店、角川書店、講談社、新潮社、筑摩書房、中央公論社、文藝春秋の 7 社から新刊文芸書の寄贈が始まる。



増改築工事は 4 月に実施設計が開始され、10 月には着工された。常設展示も実施設計が始まり中野孝次常務理事と保昌正夫理事が常設作品選定委員となって、県内を 5 地区に分け、25 の文学作品が選ばれた。このように再オープンに向け順調に準備が進む中、これまで神奈川近代文学館のみならず、わが国の文学館運動を先頭に立って推進してきた小田切進理事長が 12 月 20 日急逝した。小田切氏の遺志を継ぐべく中野孝次常務理事が翌年 2 月の臨時理事会で理事長に選任された。

野間宏文庫の資料搬入は 5 月でひとまず終了し、文庫受贈の記者会見が行われた。野間氏の小石川の自宅の資料搬出に要したダンボールは、その後の追加寄贈も含め 2,000 箱に及んだ。

展示は生誕 100 年を記念して「芥川龍之介展」を開催した。中村真一郎編集委員の独自の構想が話題を呼び、観覧者は 2 万人を初めて突破した。総観覧者数 21,065 人、一日平均 680 人はいずれもこの 30 年を通じて最高の数字である。また、中島家からの寄贈資料をもとに開催した「没後 50 年 中島敦展」が 9,000 人に近い観覧者を集め好評裡に終了（11 月 8 日）した後、増改築工事のため展示館は休館した。増改築による収蔵スペースの拡大や常設展示室の新設など機能面での充実に向け準備をすすめた。企画普及では文学講座の新しいシリーズとして「文学の風景―神奈川ゆかりの作品を味わう」がスタートした。



これまでの館主催文学展で最多の来場者を記録した芥川龍之介展の会場風景

### 特別展 生誕 100 年 芥川龍之介展

一時期横須賀や鎌倉に住み、神奈川にゆかりの深い作家・芥川龍之介の生誕 100 年を記念し、生涯と作品を 10 のテーマ（中村真一郎編）に沿って多角的に構成、国際的作家としての芥川像を探求。

期間 4 月 4 日～5 月 10 日（31 日間）

編集委員 中村真一郎

会場 第 1・第 2 展示室

入場者数 21,065 人（680 人／1 日平均）

後援 日本近代文学館

○関連イベント

4 月 16 日 講演会「芥川における反復概念」吉本隆明、「国際的作家としての芥川」中村真一郎 入場者数 1,106 人（会場 神奈川県立音楽堂）

○刊行物

『生誕 100 年 芥川龍之介展』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円（付録：「東京日日新聞」複製）

○ビデオ制作

「国際作家アクタガワ」（監修：中村真一郎 16 分）



4月16日 講演会当日の吉本隆明氏（左）と中村真一郎顧問

（担当 酒井妙子、藤木尚子）

### 通常展 近代文学と神奈川展―現代の表現を求めて―

期間 5 月 16 日～7 月 12 日（49 日間）

会場 第 1・第 2 展示室

入場者数 4,960 人（101 人／1 日平均）

### 通常展 近代文学と神奈川展―19 世紀から 20 世紀へ―

期間 7 月 18 日～9 月 20 日（55 日間）

会場 第 1・第 2 展示室

入場者数 4,728 人（86 人／1 日平均）

### 特別展 没後 50 年 中島敦展―一閃の光芒―

33 年の短い生涯のうち、8 年間を横浜の地で教師として過ごし、横浜を愛した作家・中島敦の生涯と文学をたどる初の本格的展示。一括寄贈された主要原稿をはじめ貴重資料を中心として展観。

期間 9 月 26 日～11 月 8 日（37 日間）

編集委員 田鍋幸信

会場 第 1・第 2 展示室

入場者数 8,969 人（242 人／1 日平均）

後援 中島敦の会

○関連イベント

9 月 27 日 講演会「中島敦・文学の世界」中野孝次 入場者数 247 人

○刊行物

『没後 50 年 中島敦展―一閃の光芒―』図録 判型：B5 判／頁数：32 頁／600 円

○ビデオ制作

「中島敦 一閃の光芒」（監修：中野孝次 15 分）

（担当 竜野ゆき、中村敦、古川左映子）

【ビデオ制作】

「中西悟堂 高貴な無頼と落莫たる重さ」（監修：永田龍太郎 15 分）

【その他の主なイベント】

○文学散歩

第 6 回文学散歩〈横須賀・三浦〉講師：小山文雄 5 月 20 日 参加者数 83 人

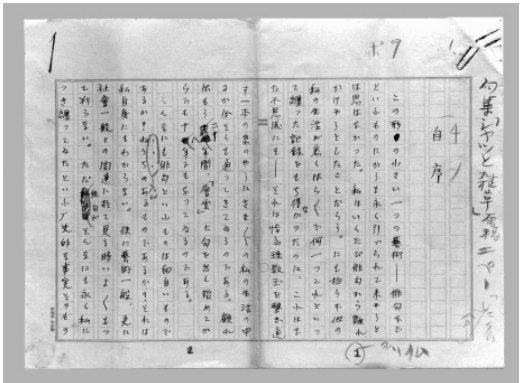
【その他の主なイベント】

○講座「文学の風景―神奈川ゆかりの作品を味わう 1」

10 月 10 日「夏目漱石『門』」島田雅彦 入場者数 259 人／同 17 日「大佛次郎『霧笛』『幻燈』」尾崎秀樹 入場者数 107 人／同 24 日「北原白秋『雲母集』」島田修二 入場者数 132 人／同 31 日「中里恒子『乗合馬車』『まりあんぬ物語』」木崎さと子 入場者数 109 人／11 月 7 日「島崎藤村『夜明け前』」小島信夫 入場者数 107 人

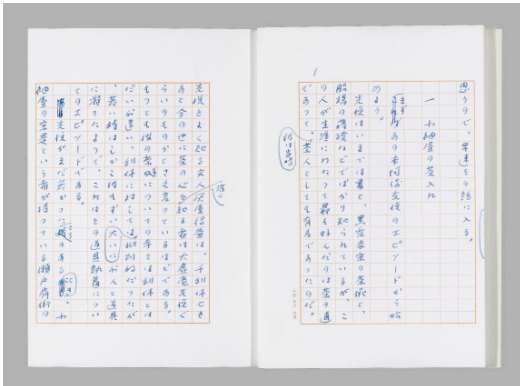
【主な寄贈資料】

・水田洋氏寄贈：高浜虚子『鶏頭』、中江兆民『三酔人経綸問答』など図書 46 冊、雑誌 3 冊  
・村井弦斎資料追加：村井米子旧蔵書 80 冊、書簡、執筆資料 50 点  
・栗林一石路資料：俳句関係図書 1,000 冊、雑誌 1,000 冊、原稿類 1,500 点



栗林一石路『シャツと雑草』原稿

・中野孝次資料：「清貧の思想」「ハラスのいた日々」「苦い夏」など原稿 50 点、諸家書簡 150 点



中野孝次「清貧の思想」原稿

・伊東極浦資料：『残紅第二篇』稿本、短冊など 22 点、図書 1 冊、雑誌 12 冊  
・川口敏男資料：原稿、訳稿、宛書簡など 400 点、旧蔵図書・雑誌 1,620 冊  
・丸山順太郎資料：仏文学者・丸山順太郎宛の芥川龍之介、谷崎潤一郎、志賀直哉、岸田国士ら諸家書簡 39 点  
・中島敦文庫追加：諸家書簡、訳詩稿、書、遺品など 520 点  
・松崎鉄之介評議員寄贈：俳句関係の書籍を中心に図書

2,800 冊、「濱」など雑誌 360 冊

・龍胆寺雄資料：原稿、戦中日記などの自筆資料、執筆切抜、書簡、著書など 380 点  
・山下陸奥資料：歌集など図書 1,980 冊、歌誌 3,000 冊  
・蘭郁二郎資料：原稿・校正刷類など 100 点、著書・旧蔵書 80 冊、「シュビオ」など探偵雑誌と蘭編集の同人誌 100 冊、小野燕子書画 4 点、遺品など  
・司馬遼太郎資料：「千葉周作」「義経」「きつね馬」「殉死」「最後の将軍」原稿  
・鮎川信夫・森川義信資料：鮎川らの森川宛書簡など 60 点

【主な購入資料】

・西脇順三郎「シュルレアリスムと私」原稿、室生犀星宛書簡  
・古屋信子「貞操」原稿  
・川田順「宿命」原稿  
・久米正雄句稿  
・寺田寅彦、橋口五葉、小宮豊隆、佐藤春夫ほか 野間真綱宛書簡 39 点  
・北原白秋 鈴木三重吉宛書簡  
・木下利玄 川田順宛書簡

【1992 年度の主なトピック】

・4 月、増改築工事実施設計に着手。  
・10 月、増改築工事に着手。翌月から増改築工事のため全面休館となる。展示館休館は 11 月～1994 年 9 月（10 月 1 日再開館）。



増改築工事中の展示館と新館地下部分



展示館の休館（92 年 11 月～）に続き、10 月から閲覧室も閉室した。休館中の事業として展示は、平塚市美術館と共催で同美術館において『「湘南の文学と美術」展』を開催した。これはその後の類似施設ほか外部団体との連携事業の魁とも言える展覧会で、翌年は神奈川県立近代美術館との共催で「生誕 100 年 西脇順三郎展」を同美術館で開催した。両展とも文学資料を当館、絵画資料を美術館が分担し、文学、美術の両面からのアプローチを試みた。

また、日頃文学館を利用しにくい県民のために真鶴、津久井、茅ヶ崎、松田、厚木、横須賀の 6 地区で「県内巡回文芸講演会」を開催した。文学講座「文学の風景―神奈川ゆかりの作品を味わう 2」を 5 回、友の会会員に人気の文学散歩を 3 回実施した。翌年 3 月までの休室期間に閲覧室では、閲覧者用検索プログラムの開発を行い、閲覧者用端末の導入に向け準備をすすめた。この他、常設展オープンに向け細部の微調整を行う一方、通常展はそれまでの明治以降、3 つの時代区分をローテーションで展示していたものを、明治、大正、昭和戦前期、昭和戦後期の 4 区分とし、グラフィックなどをリニューアルした。

### 特別展 「湘南の文学と美術」展

〈描かれた湘南〉を基本テーマに、各地域ゆかりの文学資料 370 点、美術作品 80 点を展示。土地ごとの〈芸術散歩〉が体験できる構成に加え、文学と美術の接点に関わる『『白樺』創刊』『鎌倉文庫』など重要事項のスポットコーナーを設けた。

期間 9 月 18 日～10 月 17 日（26 日間）  
編集委員 紅野敏郎、匠秀夫、中野孝次、原田実  
会場 平塚市美術館  
入場者数 7,995 人（308 人／1 日平均）  
共催 平塚市美術館  
○関連イベント

9 月 23 日 講演会「湘南の文学と美術 国木田独歩・有島武郎・黒田清輝・岸田劉生」紅野敏郎（会場 平塚市美術館講堂 共催 平塚市美術館、湘南地区行政センター）

○刊行物  
『湘南の文学と美術』展図録 判型：29cm × 23cm／頁数：96 頁／1,800 円（平塚市美術館での販売）

○文学散歩  
第 7 回文学散歩〈大磯〉講師：小泉浩一郎 5 月 26 日 参加者数 58 人



「湘南の文学と美術」展会場風景

（担当 藤木尚子、中村敦、野見山陽子）

【ビデオ制作】  
「牧野信一 夢と花びら」（監修：保昌正夫 14 分）

【その他の主なイベント】

○尾崎一雄没後 10 年記念文芸講演会  
4 月 4 日「尾崎一雄の文学」中野孝次（会場 小田原市梅の里センター 共催 小田原市教育委員会）  
○文学散歩  
第 7 回文学散歩〈大磯〉講師：小泉浩一郎 5 月 26 日 参加者数 58 人  
第 8 回文学散歩〈横須賀・葉山・逗子〉講師：堀口すみれ子 11 月 11 日 参加者数 91 人  
第 9 回文学散歩〈曾我の里〉講師：小山文雄 1994 年 2 月 10 日 参加者数 111 人

### 神奈川近代文学館県内巡回文芸講演会

1993 年度・1994 年度



5月22日 県内巡回文芸講演会①で講演中の阿川弘之理事

① 5 月 22 日「美とユーモア―中川一政生誕 100 年によせて」阿川弘之 入場者数 220 人（会場 真鶴町民センター 共催 西湘地区行政センター、真鶴町立中川一政美術館）／② 6 月 20 日「自作を語る」松谷みよ子 入場者数 250 人（会場 津久井町文化福祉会館 共催 津久井地区行政センター、津久井町、城山町、相模湖町、藤野町）／③ 10 月 16 日「現代文明の転換期か」中野孝次 入場者数 293 人（会場 茅ヶ崎市民文化会館 共催 茅ヶ崎市教育委員会）／④ 1994 年 3 月 5 日「物語の喜び」山田太一 入場者数 120 人（会場 松田町民文化センター 共催 松田町、松田町教育委員会）／⑤ 同 26 日「人間は最高の風景」村松友視 入場者数 170 人（会場 厚木市文化会館 共催 厚木市教育委員会）／⑥ 5 月 21 日「歴史と小説の間」早乙女貢 入場者 194 人（会場 ヴェルクよこすか 共催 横須賀市、横須賀・三浦地区行政センター）



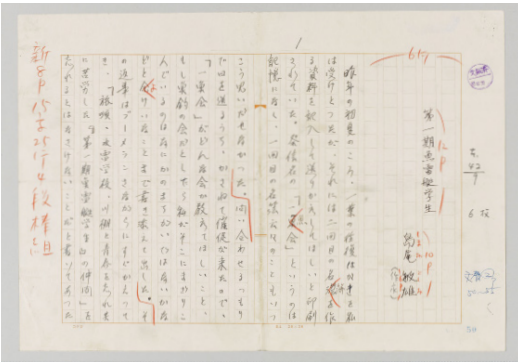
1994 年 3 月 26 日 県内巡回文芸講演会⑤で講演中の村松友視氏

【その他の主なイベント】

○講座「文学の風景―神奈川ゆかりの作品を味わう 2」  
10 月 2 日「泉鏡花『春昼』『草迷宮』 鈴木貞美 入場者数 78 人（会場 神奈川県民ホール 6 階大会議室）／同 10 日「有島武郎『或る女』 中沢けい 入場者数 112 人／同 17 日「獅子文六『父の乳』 清原康正 入場者数 50 人／同 23 日「高見順『死の淵より』 栗津則雄 入場者数 73 人／同 31 日「尾崎一雄『まぼろしの記』 坂上弘 入場者数 73 人

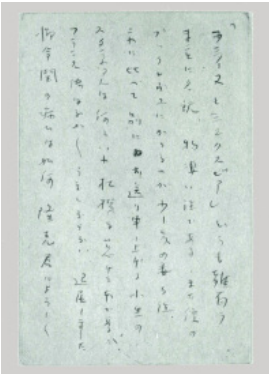
【主な寄贈資料】

・野村忠男氏寄贈：花田清輝ほか原稿 60 点、諸家書簡 33 点、図書 51 冊、雑誌 15 冊  
・安西篤子理事寄贈：「隠しごと」「朝焼け」「冬の匂い」「龍を見た女」など原稿 22 点  
・村上元三監事寄贈：「貴船の鬼」「宝の泥船」「浜田騒動」など原稿 6 点  
・子母沢寛資料：「香亭先生伝」「雨の音」「盲目の刺客」など原稿 6 点  
・楠本憲吉文庫追加：「黒人兵」と「聖者の行進」「わが遊びも終わりぬ」など原稿 6 点  
・窪田空穂資料：「優越感」「蒼空の下」「友雀」「郷愁」原稿  
・島尾敏雄資料：「或る光景」「第一期魚雷艇学生」など原稿 5 点



島尾敏雄 「第一期魚雷艇学生」原稿

・佐藤正彰資料：井伏鱒二色紙、斎藤茂吉「幸田露伴」原稿、大岡昇平ほか諸家書簡など 200 点



大岡昇平 佐藤正彰宛はがき 1939（昭和 14）年 4 月 18 日消印

・中村草田男資料：「新婚旅行とその前後」「葎切出没」など原稿 6 点  
・三好達治資料：「燈下言」「室生さんの詩」「水を渡り」

など原稿 7 点  
・川田順資料：「遠妻」「太平洋」歌稿  
・高田保資料：「大磯ばなし」「瀧の白糸余譚」など原稿 6 点  
・葛原繁資料：「梅雨深む」「洋上唱」歌稿  
・野間宏文庫追加：図書 800 冊、雑誌 200 冊、自筆資料・遺品など 1,500 点  
・添田啞蟬坊・知道文庫追加：「教育者」第四部原稿など  
・花田清輝資料：「短篇の効用」「傍観者と実行者」など原稿 4 点  
・林房雄資料：「創刊号の頃」「息子の世代」など原稿 3 点  
・山岡莊八資料：「黒船懐胎」「文壇青春記一～五」など原稿 12 点

【主な購入資料】

・野村胡堂「銭形平次捕物控」原稿  
・里見淳「風炎」原稿  
・邦枝完二「南北の蚊帳」原稿  
・土師清二「娘風土記」原稿  
・長塚節 岡麓宛書簡  
・平田杢木 星野天知宛書簡 3 点  
・楠木清方ほか画 明治期小説表紙・口絵原画 193 点

【1993 年度の主なトピック】

・1994 年 3 月、増改築工事竣工。展示館の改築に伴い、それまで多目的用途のホールであった企画展示室を催事専用ホールに改めた。また増築された新館地下には地下 2 層の収蔵庫 4 室、撮影室、展示準備室、展示関連倉庫などが設けられた。  
・94 年 3 月、県立神奈川近代文学館条例一部改正（管理運営を財団法人神奈川文学振興会で受託。これにより業務の全面受託となる）。4 月 1 日に施行。



増改築直後の展示館 2 階ホール（旧企画展示室）220 席の椅子席が固定され、後部に映写室が新設された。



新館収蔵庫 増築により収蔵面積が 765.7㎡分増え、収蔵冊数も推計で約 31 万 5 千点分増加した。



1992 年 10 月以来進めていた増改築工事が 1994 年 3 月末に竣工した。開館から数えて 10 年の節目となるこの年、まず本館の閲覧業務を、5 月からは会議室貸出業務を順次再開し、10 月 1 日開幕の「収蔵コレクション展」により全面リニューアルオープンとなった。

増築部分の地下 1 階には、館の設立に尽力した尾崎一雄、中村光夫の各旧蔵資料を個別の記念室で保管する貴重資料庫を設けた。後に井上靖記念室が追加されたが、現在、3 つの記念室以外にも、夏目漱石、中島敦、木下杢太郎などのまとまった資料を保存している。収蔵庫の他に常設展示室、エントランスホール、燻蒸室、さらに撮影室等の準備スペースも増設し、延床面積は 30% 余り増えて 7285.3 m<sup>2</sup> となった。再オープン時に収蔵能力は開館時に比べて約 50% 増の 91 万 5 千点と算定していたが、2014 年時点ですでに 120 万点近い所蔵数となっている。

新常設展示場では神奈川と特にゆかりの深い作家 25 人の作品をビジュアル面に配慮した固定展示として製作した。また展示ホールの導線を左回りに変更し、第 3 展示室の最終部分にビデオブースを設け観覧者が自由にビデオを鑑賞できるコーナーとした。そして展示館 2 階ホールには新しく 220 席の固定椅子を設置し講演会等を開くのにより適した形へと改装した。さらに閲覧室もカード目録を廃し、コンピュータ検索へと転換した。

開館以来、建物の維持管理は県が直接行っていたが 4 月から館運営はすべて財団が担うこととなり、組織内の意思疎通がより円滑に行えるようになった。

ハード面での大規模な強化を終え、さらなる内容の充実に向けて次のステップを踏み出していくこととなる。

### 特別展 馥郁タル火夫ヨ 生誕 100 年 西脇順三郎 その詩と絵画

増築工事期間中に県立近代美術館と共催し、同美術館で開催。西脇順三郎の生誕 100 年を記念して、生涯を編年体でたどりながら文学と美術の領域にわたるその芸術世界を展観。

期間 5 月 28 日～7 月 3 日（32 日間）  
展覧会委員 ＊粟津則雄、安東伸介、飯島耕一、＊飯田善國、池田満寿夫、大岡信、岡田隆彦、渋谷孝輔、那珂太郎、中村真一郎、＊新倉俊一、西脇順一（＊は実行委員）  
会場 神奈川県立近代美術館  
入場者数 15,835 人（495 人／1 日平均）  
共催 神奈川県立近代美術館  
後援 小千谷市教育委員会、朝日新聞社、神奈川新聞社



馥郁タル火夫ヨ 生誕 100 年西脇順三郎展会場風景

- 関連イベント  
5 月 22 日 講演会「西脇先生と私」池田満寿夫 入場 117 人
- 刊行物  
『馥郁タル火夫ヨ 生誕 100 年西脇順三郎 その詩と絵画』図録 判型：A4 判変型／頁数：136 頁／神奈川県立近代美術館での販売
- ビデオ制作  
「馥郁タル火夫―西脇順三郎」（監修：新倉俊一 15 分）（担当 小原由美子、古川左映子）

展示館 1 階に固定常設展示の第 1 展示室を新設。  
注）以後特に断りがない場合、第 1 室ではすべて「常設展（1）神奈川の風光と文学」を開催。

### 特別展 開館 10 周年・増築落成記念 収蔵コレクション展

開館 10 周年と増築落成を記念して、これまでに収集された 50 万点に及ぶ館蔵資料の中から、原稿、書簡、書画などの肉筆資料を中心に、約 500 点の代表的資料を紹介。

期間 10 月 1 日～11 月 27 日（48 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 9,726 人（203 人／1 日平均）  
○関連イベント  
10 月 23 日 講演会「暗愁のゆくえ」五木寛之 入場者数 220 人／11 月 13 日 講演会「この頃思うこと」水上勉 入場者数 220 人



10 月 23 日 講演中の五木寛之理事



11 月 13 日 講演のため来館した水上勉氏（左）と中野孝次理事長

- 刊行物  
『開館 10 周年・増築落成記念 収蔵コレクション展』図録 判型：AB 判／頁数：72 頁／1,000 円（担当 藤野正、藤木尚子、野見山陽子）

### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 12 月 3 日～1995 年 2 月 5 日（47 日間）  
担当編集委員 十川信介（以下同）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,758 人（59 人／1 日平均）

### 常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで

期間 2 月 11 日～4 月 16 日（54 日間）  
担当編集委員 中野孝次（以下同）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 4,546 人（84 人／1 日平均）

- 【その他の主なイベント】  
○文学散歩  
第 10 回文学散歩〈横浜〉講師：内田四方蔵 11 月 16 日、同 19 日 参加者数 141 人
- 講座「文学の風景―神奈川ゆかりの作品を味わう 3」  
7 月 2 日「立原正秋『剣ヶ崎』」岡松和夫 入場者数 138 人／同 9 日「岡本かの子『川』」尾崎左永子 入場者数 101 人／同 16 日「北村透谷『内部生命論』」富岡幸一郎 入場者数 78 人／同 23 日「中山義秀『華燭』」安西篤子 入場者数 83 人／同 30 日「三島由紀夫『午後の曳航』」三浦雅士 入場者数 98 人

- 【主な寄贈資料】  
・前川佐美雄資料：「人間界」「冬の日」原稿など 3 点  
・佐藤正彰資料：田辺元の唐木順三宛書簡、三好達治「感懐」「片影」原稿  
・藤田圭雄文庫追加：大佛次郎、岸田国士、竹山道雄ら諸家原稿 28 点、挿絵原画 193 点、図書 500 冊、雑誌 200 冊



竹山道雄「ビルマの堅琴」原稿

- ・井上ひさし資料：自筆「吉里吉里国地図」と「吉里吉里人」創作ノート
- ・島尾敏雄資料：「さらばワルシャワ」「人形劇場」「カレメグダン城址」原稿
- ・森川義信資料：森川義信宛諸家書簡 70 点、森川義信書簡 4 点、手帳 1 点、「椎の木」「詩法」「20 世紀」など
- ・中里恒子文庫追加：原稿・草稿類、川端康成ら諸家書簡など 227 点
- ・矢代幸雄資料：大佛次郎、川端康成、志賀直哉、原三溪、梅原龍三郎らの矢代宛書簡、自筆資料、印刷物など 2,600 点、画集、美術書など図書 3,360 冊、雑誌 600 冊（2004

- 年 1 月、神奈川県立近代美術館に移管）
- ・林京子理事寄贈：「青春」原稿
- ・藤森成吉文庫追加：斎藤茂吉、志賀直哉、広津和郎らの藤森宛書簡 434 点
- ・真尾悦子氏寄贈：志賀直哉「兎」原稿、井伏鱒二「峠の雪の朝」詩稿、丸山薫「雪蟲」詩稿など 10 点、太宰治ら諸家の真尾倍弘宛書簡など 67 点
- ・日本近代文学館寄贈：岩波書店、角川書店、講談社、新潮社、筑摩書房、中央公論社、文藝春秋の 7 社寄贈の図書 13,000 冊、雑誌 2,500 冊の副本を移管（その後 5 回程度に分けて全移管）。
- ・小巻豆城資料：短冊、色紙のほか、伊東月草ら諸俳人の書画など 1,000 点
- ・横山健堂資料：「新人国記」草稿、執筆資料、書簡など 80 点

- 【主な購入資料】  
・横光利一「殺人者」「芋」「順番」「ドストエフスキー論」（メレンゴコフスキー）など原稿 5 点



横光利一「殺人者」原稿

- ・広津和郎「秋の一夜」「災後雑記」原稿
- ・高垣眸「豹の眼」原稿
- ・邦枝完二「職人」原稿
- ・吉屋信子「一つの貞操」原稿
- ・島木健作「昭和二十年日記」（鎌倉の日記）

- 【1994 年度の主なトピック】  
・4 月、閲覧室業務再開。再オープンを機に閲覧室内に利用者専用の検索端末を設置、整理済の図書、雑誌の検索が可能になる。
- ・5 月、貸会議室供用再開。
- ・7 月 15 ～ 17 日、「生誕 100 年記念（小千谷市市制 40 周年記念）幻影の人 西脇順三郎 詩・書・絵画」（主催 小千谷市ほか 会場 小千谷市民会館、小千谷市立図書館）が開催、当財団が後援。
- ・7 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 8 添田啞蟬坊・知道文庫目録』刊行。
- ・10 月、『神奈川近代文学館 10 年史』刊行。
- ・10 月、展示室を一般公開。第 1 展示室では「常設展（1）神奈川の風光と文学」の固定展示がスタートした。同展示は県内ゆかりの 25 作家とその作品を横浜、川崎、鎌倉、三浦など地区ごとに分け、立体的に構成。
- ・11 月、第 1 回「資料委員会」開催。
- ・1995 年 3 月、『神奈川近代文学年表 文学者たちの神奈川〈大正・昭和前期編〉』を刊行。



本年は、前年終了した大規模な増改築工事の余韻が残る中、新しいハードに合わせて内部の整備を進めた。まず書庫内にある資料の大きかりな移動を行った。雑誌をすべて本館 B1 階書庫から B2 階に移し、これにより雑誌書架の収蔵能力が大幅に向上した。また、それに伴い B1 階の排架レイアウトを全面的に変更し将来の資料増加に対応するスペースを確保した。

展示では増設した常設展示室の入口付近に「神奈川文学散歩地図」を新たに設置した。県内の各地域が地図上にランプで区切られ、同時に両サイドの画面に文学事項が画像で映し出されるという仕組みで、常設展導入部としての概説的な役を担うものである（現在はエントランスの一角に移動）。

総務関連としては、相続人のなかった評議員の故広津桃子氏と父・和郎の資料と著作権が、祖父・柳浪の資料も併せて 12 月、当振興会に寄贈された。その後、金達寿、中野孝次らの著作権も寄贈された。そこから生じる著作権料は基金として積み立て、館の事業運営に役立てている。

雑誌は最も頻繁に利用される資料だが、外部からの利用促進のためにほぼ 4 年がかりで準備を進めてきた『県立神奈川近代文学館収蔵新聞・雑誌目録』を 96 年 3 月に刊行し類縁施設に配布した。2000 年 4 月に所蔵資料の検索をインターネットへ公開するまでの間、検索ツールとして広く活用された。

#### 特別展 泉鏡花展―水の迷宮―

泉鏡花の生涯を編年的な流れで展観。幻想的な文学世界のキーワード〈水〉と〈迷宮〉にスポットをあてたほか、「春屋」「草迷宮」といった鏡花の逗子時代の作品を大きく紹介。

期間 4 月 22 日～5 月 28 日（32 日間）  
編集委員 村松定孝、川村二郎、種村季弘、松村友視  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 8,728 人（273 人／1 日平均）  
後援 慶應義塾大学

○関連イベント

4 月 23 日 映画会「滝の白糸」 入場者数 56 人／同 30 日 映画会「湯島の白梅」 入場者数 106 人／5 月 7 日 映画会「日本橋」 入場者数 125 人／同 13 日 講演会「主として『緋紅新草』に関し」高橋治 入場者数 160 人／同 14 日 映画会「白鷺」 入場者数 117 人

○刊行物

『泉鏡花展―水の迷宮―』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

○ビデオ制作

「鏡花と逗子―泉鏡花」（監修：川村二郎 15 分）  
（担当 鎌田邦義、古川左映子）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 6 月 3 日～7 月 16 日（38 日間）  
担当編集委員 高橋英夫（以下同）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,101 人（55 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 7 月 22 日～8 月 27 日（32 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,055 人（64 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで

期間 9 月 2 日～10 月 15 日（36 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,396 人（67 人／1 日平均）

#### 特別展 神奈川文学散歩展 鎌倉 文学の理想郷

県内を 7 地域に分けて展観する〈文学散歩〉シリーズの 6 回目。今なお文学者を魅了する鎌倉という特徴ある土地での交友関係や生活、作品を明治期以降の鎌倉の変貌を追いながら展観。

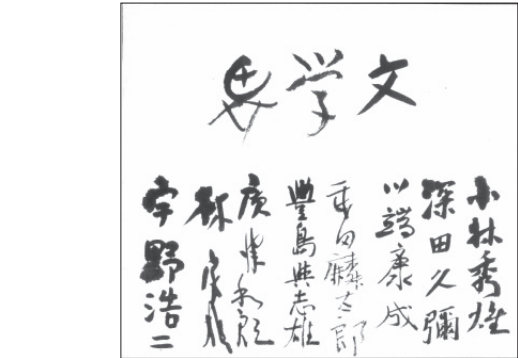
期間 10 月 21 日～11 月 26 日（31 日間）  
編集委員 安西篤子、伊藤海彦、岡松和夫、尾崎左永子、富岡幸一郎、三木卓、村上光彦  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 6,555 人（211 人／1 日平均）  
後援 神奈川県教育委員会、鎌倉市教育委員会、鎌倉文学館  
協賛 神奈川県書店商業組合  
○関連イベント

10 月 22 日 映画会「麦秋」 入場者数 66 人／同 28 日 講演会「西田幾多郎・和辻哲郎をめぐる―一東慶寺の文人・思想家たち」山田宗睦 入場者数 201 人／11 月 19 日 映画会「千羽鶴」 入場者数 125 人



講座「鎌倉の作家」  
9 月 16 日 「澁澤龍彦『都心ノ病院ニテ幻覚ヲ見タルコト』」池内紀 入場者数 95 人／同 23 日 「吉屋信子『安宅家の人々』を中心に」駒尺喜美 入場者数 85 人／10 月 1 日 「尾崎喜八 紀行作品をめぐるって」伊藤信吉 入場者数 73 人／同 7 日 「永井龍男『青梅雨』」石版東京

関連資料。江戸川乱歩、谷崎潤一郎ら諸家書簡、「文学界」同人の寄せ書き色紙など 420 点

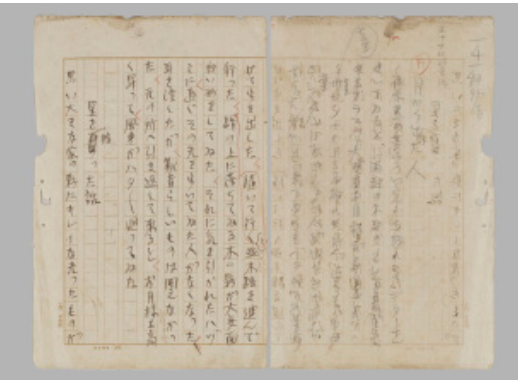


「文学界」同人寄書色紙  
[1933（昭和 18）～1934 年]

- 山崎方代資料：書 11 点、「方代研究」など雑誌 6 冊、図書 2 冊
- 中勘助資料：南谷清親、行宏氏宛書簡 55 点、色紙 1 点
- 神西清文庫追加：堀辰雄の神西清宛書簡 181 点
- 重富昭夫資料：重富宛の中河与一、丸尾長顕書簡 18 点
- 木下李太郎文庫追加：図書 64 冊、古経残簡ほか書幅 4 点
- 李如雲資料：原稿、書など 110 点
- 藤森成古文庫追加：藤森宛諸家書簡 114 点

【主な購入資料】

- 泉鏡花「婦系図」原稿
- 稲垣足穂「一千一秒物語」草稿



稲垣足穂「一千一秒物語」草稿

- 大岡昇平「渡辺華山」冒頭原稿
- 神崎清「日記」（昭和 14 年）

【1995 年度の主なトピック】

- 8 月 30 日、神奈川県博物館協会創立 40 周年記念「神奈川ゆかりの文学展」開催（～9 月 10 日 会場 横浜そごう）。当財団事務局長が実行委員長をつとめる。
- 1996 年 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵 新聞・雑誌目録 1995 年版』刊行。

図絵』など）三木卓 入場者数 90 人／同 14 日 「川端さんにまつわること」大庭みな子 入場者数 136 人

○刊行物

『神奈川文学散歩展 鎌倉 文学の理想郷』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

○ビデオ制作

「文士の町鎌倉―戦中戦後の文士の群像」（監修：富岡幸一郎 15 分）

○文学散歩

第 11 回文学散歩〈鎌倉〉講師：村上光彦 11 月 3 日 参加者数者 72 人、講師：安西篤子 同 8 日 参加者数者数 110 人  
（担当 小原由美子、野見山陽子、斎藤泰子）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 12 月 2 日～1996 年 1 月 21 日（35 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,634 人（47 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 1 月 27 日～3 月 3 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,732 人（56 人／1 日平均）

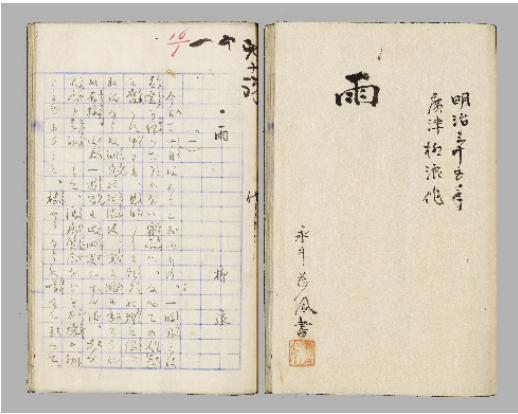
#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで

期間 3 月 9 日～4 月 14 日（30 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 3,050 人（102 人／1 日平均）

\*\*\*\*\*

【主な寄贈資料】

- 広津柳浪・和郎・桃子文庫：作家三代にわたる原稿、日記、書簡、図書、雑誌など計 6,424 点



広津柳浪「雨」原稿

- 井上光晴資料：「他国の死」「地の群れ」など作品の創作ノート類 196 冊、原稿 5 点、新聞小説切り抜きスクラップブック 2 冊など
- 田中直樹資料：雑誌「文学界」「犯罪公論」「犯罪科学」



増築により収蔵スペースに多少の余裕は出来たものの、本年度末の所蔵総数は 66 万点余を数え、机上の計算では収蔵能力の 70％を超えた数字となっている。このため将来の増加に備え、本年から 3 冊目以降の副本は原則として外部施設などへ移管出来るようにした。また従来、未発表の所蔵資料は当館が発表したものに限り利用できたが、このままでは膨大な未発表資料が蓄積してしまうことになるので、登録を終えた資料は、発表の有無にかかわらず権利関係・プライバシーのクリアを条件に利用可能とした。

展示では、明治、大正、昭和の 3 本立てで順次開催している常設展のうち「昭和の文学」のパートを再編して 2 部構成とし、後半部にあたる「戦後の文学」を新たに制作した。そのお披露目となる本年は、夏に特別展に準じた形で開催した。1987 年以来継続してきた神奈川文学散歩展はその最後となる 7 回目の「箱根・県央―緑と文学と」を春に開催し、神奈川全域に渉るゆかり文学の紹介という当館の大きな使命にひと区切りをつけた。秋には「大岡昇平展」を開催、それに併せて大岡資料が一括寄贈され「大岡昇平文庫」として保存されることとなった。ほかに関英雄、西條八十の旧蔵資料がこの年新たに館蔵文庫に加わった。また 8 月からホームページを開設し広報面を主体とした運用を始めた。サイトには以後資料検索、会議室予約などの機能が付加されていく。

## 特別展 神奈川文学散歩展 箱根・県央―緑と文学と

県内を 7 地域に分けて展観する〈文学散歩〉シリーズの最終回。宿場、温泉として独自の文化を育てた箱根と、従来文学的には注目されることの少なかった県央の両地域の文学を、民俗資料などにも配慮しつつ展観。

期間 4 月 20 日～5 月 26 日（32 日間）  
編集委員 石井茂、清原康正、脇坂茂樹  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 5,830 人（182 人／1 日平均）  
後援 神奈川県教育委員会  
協賛 小田急電鉄、神奈川県書店商業組合



4 月 6 日 講演中の早乙女貢理事

### ○関連イベント

4 月 6 日 講演会「中里介山『大菩薩峠』を中心に―歴史と文学について」早乙女貢 入場者数 295 人（会場相模原市立あじさい会館ホール）／同 21 日 映画会「箱根風雲録」 入場者数 91 人／同 28 日 映画会「安宅家の人々」 入場者数 171 人

### ○刊行物

『神奈川文学散歩展 箱根・県央―緑と風と文学と』図録 判型：B5 判／頁数：48 頁／700 円

### ○ビデオ制作

「緑と風の散歩道 箱根 県央」（監修：脇坂茂樹 15 分）

### ○文学散歩

第 12 回文学散歩〈箱根〉講師：石井茂 5 月 21 日、同 24 日 参加者数 134 人  
（担当 高橋祐子、古川左映子、高橋聖美）

## 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 6 月 1 日～7 月 14 日（37 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,393 人（65 人／1 日平均）

## 新展示 戦後の文学―新世代の登場まで

太平洋戦争終了直後から中上健次ら戦後生まれの作家たちが登場する 1970 年代までの戦後の文学の流れを、エンターテインメント、女流文学も視野に入れながら総合的に構成。本展は次回から「近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②」として常設展に組み込んだ。

期間 7 月 20 日～9 月 1 日（38 日間）  
編集委員 川西政明  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 3,070 人（81 人／1 日平均）  
○関連イベント  
8 月 4 日 映画会「太陽の季節」 入場者数 86 人／同 25 日 映画会「燃えつきた地図」 入場者数 111 人  
（担当 高橋祐子、斎藤泰子）

## 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 9 月 7 日～10 月 13 日（30 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,961 人（65 人／1 日平均）

## 特別展 大岡昇平展

大岡昇平の文学世界を、複数の主題を追究したその作家活動が俯瞰できるよう、作品ジャンルごとに構成して展観。戦後とは何かを問い直すと共に、大岡の文業を集大成した初の機会となった。

期間 10 月 19 日～11 月 24 日（32 日間）  
編集委員 秋山駿、加賀乙彦、中野孝次、吉田■生  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 6,367 人（199 人／1 日平均）  
○関連イベント

文学講座「大岡昇平」  
9 月 28 日 「大岡昇平、中原中也、小林秀雄をめぐって」秋山駿、『俘虜記』を出発点として」澤地久枝 入場者数 220 人／10 月 5 日 「一兵士に徹した生涯―『成城だより』など」城山三郎、「小説家・大岡昇平」菅野昭正 入場者数 123 人／同 12 日 「大岡と映画『パンドラの箱』」四方田犬彦、『『事件』をめぐって」佐木隆三 入場者数 81 人

### 大岡昇平展映画会

10 月 20 日 「パンドラの箱」 入場者数 134 人／同 27 日「事件」 入場者数 163 人／11 月 3 日 「野火」 入場者数 208 人

### ○刊行物

『大岡昇平展』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

### ○ビデオ制作

「大岡昇平」（監修：吉田■生 15 分）



（上）9 月 28 日 講演に来館した澤地久枝氏  
（下）10 月 5 日 講演中の城山三郎理事

（担当 鎌田邦義、斎藤泰子、浅野千保）

## 常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで

期間 11 月 30 日～1997 年 1 月 19 日（35 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,677 人（48 人／1 日平均）

## 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 1 月 25 日～3 月 2 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,360 人（76 人／1 日平均）

## 常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ

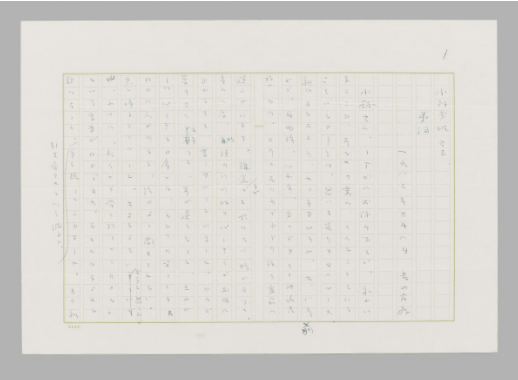
期間 3 月 8 日～4 月 6 日（25 日間）  
担当編集委員 川西政明（以下同）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,782 人（71 人／1 日平均）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

### 【主な寄贈資料】

・川西政明元理事寄贈：中本達也画『他国の死』（井上光晴著）装幀原画

- ・黒井千次理事寄贈：「眠れる霧に」原稿と手入校正刷
- ・藤田圭雄文庫追加：児童関係図書、雑誌 250 冊、野上弥生子、草野心平らの氏宛書簡 90 点
- ・日本ペンクラブ寄贈：山本健吉、川端康成、草野心平、吉田精一ら諸作家がハワイ大学客員教授として赴任した際の講義テープ 123 点
- ・関英雄文庫追加：小川未明、千葉省三、与田準一らの諸家書簡、ノート、アルバムなど 280 点、児童文学関係雑誌 1,200 冊、著書ほか図書 2,900 冊
- ・井上靖資料：著書 660 冊、作品収録図書 300 冊、井上研究や人物評掲載の図書、雑誌、作品執筆資料など
- ・古沢太穂評議員寄贈：俳句関係図書 400 冊、雑誌 300 冊
- ・大岡昇平文庫：原稿、草稿類 160 点のほか創作ノート、メモ、取材ノート、蔵書 5,000 冊など



大岡昇平 小林秀雄への弔辞（部分）

- ・林邦夫氏寄贈：大岡昇平「愛について」原稿
- ・天沢退二郎氏寄贈：詩集を中心に図書 1,200 冊、雑誌 300 冊
- ・西條八十文庫：著書、詩集、童話童謡関係図書、洋書、雑誌など旧蔵書 6,160 冊と遺品類 50 点

### 【主な購入資料】

- ・内田百閒「松笠鳥」原稿
- ・川崎長太郎「夏から秋へ」原稿、「新潮」編集者宛書簡 28 点
- ・川田順 中河与一宛書簡 29 点
- ・和田伝 川上喜久子宛書簡 3 点

### 【1996 年度の主なトピック】

- ・8 月 10 日、インターネット上に館のホームページを開設。
- ・11 月 30 日、高橋和巳資料を日本近代文学館へ移管。
- ・1996 年度の当館主催「文学講座」の行事から、聴講が有料となった。なお、補助金事業の一つである文芸講演会は 1998 年度までは無償の行事として開催したが、1999 年度から有料化された。また、1997 年度から本格的に始まった文芸朗読会は、当初から有料行事として実施し、多くの著名俳優、女優の方々に出演を頂き、好評を得た。



所蔵資料が質量共に充実していくのにあわせて、より利用しやすい環境の整備を着々と進めていった。まず自筆資料を中心とする「特別資料リスト」の刊行を開始した。館蔵特別資料の書誌データを受入先別と作家別の 2 本立てで編集したもので、この年から 8 年間かけて毎年遡及刊行し、ネット上での検索が開始された 2004 年に終了した。同リストはこの間、外部からの資料調査ツールとしての役割を担った。また閲覧室では未整理の図書及び特別資料データも検索できるようになり、利便性が大きく向上した。

展示では「立原正秋展」と「文学の挿絵と装幀展」を開催した。立原展では、展示終了後ご遺族から主要な資料が寄贈され「立原正秋文庫」として保存されることとなった。前年の「大岡昇平文庫」に続いて、特別展の開催が大きな寄贈に繋がったものである。また同じく「大岡展」での出品を契機として「富永太郎資料」が一括寄贈された。また各文庫をはじめとする所蔵資料を紹介する収蔵コレクション展も 98 年 3 月に「神西清文庫」を第 1 回として始まり、以後シリーズ化して現在に至っている。いずれも当館における展示事業と資料収集の密接な関係を示している。

さらに資料関係では寺田透資料が一括寄贈され、31 番目の「寺田透文庫」となった。
  
本年は新たなイベントとして、岸田今日子、高橋長英両氏をそれぞれ招いて文芸朗読会を開催した。朗読は根強い人気を持っており、これ以降集客力のあるイベントとして定着している。

#### 特別展 立原正秋展

神奈川にゆかりの深い作家、立原正秋の生涯を編年的に構成して展観。独自の美意識に基づいた作品世界を紹介すると共に、最新の調査をもとに、作家立原の素顔も浮かび上がらせた。

期間 4 月 12 日～5 月 18 日（31 日間）  
編集委員 岡松和夫、小川国夫、高井有一  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 10,281 人（332 人／1 日平均）  
○関連イベント  
4 月 19 日 講演会『『冬の二人』の頃』小川国夫 入場者数 220 人／5 月 4 日 朗読会「八月の午後」「薪能」岸田今日子 入場者数 219 人／同 11 日 映画会「非行少年若者の砦」 入場者数 128 人



4 月 19 日 講演に来館した小川国夫氏（右）と懇談する岡松和夫理事

○展示説明会  
4 月 26 日、5 月 3 日の 2 回実施／計 86 人  
○刊行物  
『立原正秋』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／ 900 円  
○ビデオ制作  
「立原正秋―無常と美を見つめて」(監修:岡松和夫 15 分)  
○文学散歩  
第 13 回文学散歩〈鎌倉〉 5 月 15 日 講師：金子昌夫 参加者数 54 人／同 16 日 講師：安西篤子 参加者数 80 人（担当 古川左映子、野見山陽子）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 5 月 24 日～6 月 29 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,101 人（68 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで

期間 7 月 5 日～8 月 17 日（37 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,211 人（60 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 8 月 23 日～9 月 28 日（30 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,609 人（54 人／1 日平均）

#### 特別展 文学の挿絵と装幀展

文学作品と不可分に結びつき読者を惹きつけてきた挿絵と装幀の世界を、明治初期から昭和戦前までに年代をしばり概観。華やかな挿絵や装幀原画に加え、文学者との間に交わされた書簡等の文学資料も展示。

期間 10 月 4 日～11 月 9 日（32 日間）  
編集委員 安野光雅、尾崎秀樹、酒井忠康、槌田満文  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 6,714 人（210 人／1 日平均）  
○関連イベント  
10 月 10 日 映画会「ショッキング・オ・ジャポーン―ビゴーの見た明治の日本―」 入場者数 45 人／同 12 日 講座「ささやかな体験から」大岡信、「さしえについて」出久根達郎 入場者数 156 人／同 18 日 映画会「竹久夢二物語 恋する」 入場者数 89 人／同 19 日 講座「挿絵・装幀の文化史」栗津潔、「装幀の現場から」司修 入場者数 114 人  
○展示説明会  
10 月 11 日、同 25 日の 2 回実施／計 35 人  
○刊行物  
『文学の挿絵と装幀展』図録 判型：AB 判／頁数：76 頁／ 1,000 円（担当 鎌田邦義、市野いづみ、浅野千保）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ

期間 11 月 15 日～1998 年 1 月 18 日（46 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,927 人（42 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

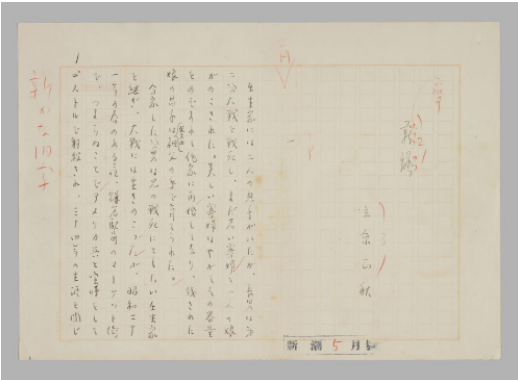
期間 1 月 24 日～3 月 1 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,541 人（50 人／1 日平均）  
○関連イベント  
2 月 8 日 文芸朗読会―鷗外を読む―「山椒大夫」高橋長英 入場者数 219 人

#### 収蔵コレクション展 1 神西清文庫

期間 3 月 7 日～4 月 5 日（25 日間）  
〔同時開催：常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで〕  
会場 第 3 展示室  
入場者数 1,595 人（64 人／1 日平均）  
○刊行物  
「収蔵コレクション展 1 神西清文庫」リーフレット 判型：B6 判／頁数：8 頁／無料配布（担当 藤木尚子、藤野正）

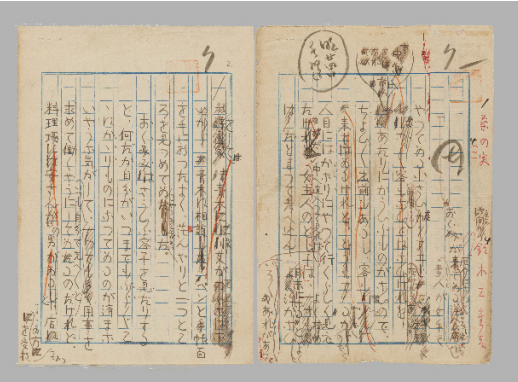
【ビデオ制作】  
「文学館の魅力―一港の見える丘公園の神奈川近代文学館を訪ねる」(財団監修 15 分)

【主な寄贈資料】  
・藤田圭雄文庫追加：草野心平、阪田寛夫、谷崎潤一郎、野上弥生子、横光利一、古屋信子、与田準一などの作家や童謡関係者からの宛書簡 1,683 点  
・立原正秋文庫：「剣ヶ崎」「冬のかたみに」「舞いの家」ほかの原稿、小川国夫、藤枝静男、本多秋五ほかの立原宛書簡、「春の鐘」「残りの雪」ほか挿絵原画、執筆誌や関連記事の切り抜き、木刀ほかの遺品など 450 点、執筆誌 400 冊、愛用の辞書類など蔵書 400 冊



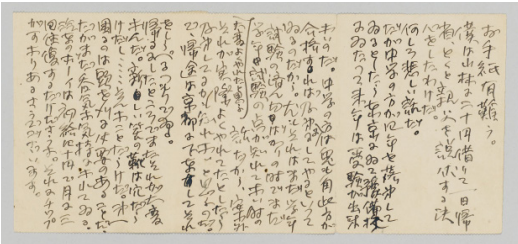
立原正秋「薪能」原稿

・谷田昌平・牟礼慶子資料：谷崎潤一郎「鴨東綺譚」原稿、中野重治書額、鮎川信夫、伊藤整、佐多稲子、丹羽文雄、野間宏、福永武彦、堀田善衛、堀辰雄ほか 85 作家からの夫妻宛書簡 539 点  
・鈴木三重吉・「赤い鳥」文庫追加：「赤い鳥」掲載三重吉原稿 100 点、処女童話「湖水の女」「桑の実」など初期小説の原稿、執筆誌切抜、「赤い鳥」掲載の清水良雄、深沢省三、鈴木淳らの表紙画、口絵、挿画 11 点、三重吉の書 23 点、家族宛書簡など 150 点、「赤い鳥」掲載楽譜原譜ほか



鈴木三重吉「桑の実」原稿

・富永太郎資料：自画像、原稿、画帳、ノート、富永宛諸家書簡など 150 点



中原中也 富永太郎宛書簡 1925（大正 14）年 4 月 7 日

・寺田透文庫：著書、文学作品、美術書、哲学、仏教、歴史関係など旧蔵書 9,540 冊、「万葉の女流歌人」原稿など 260 点

【主な購入資料】  
・大岡昇平「野火」原稿  
・長田秋濤「鯛なし記」原稿  
・加藤武雄「新生」原稿  
・邦枝完二「御殿女中」原稿  
・番伸二「還かなる朱唇」原稿  
・広津和郎「一時期」「春の落葉」原稿  
・阪井久良伎 中河与一宛書簡  
・広津柳浪 角田浩々歌客宛書簡

【1997 年度の主なトピック】  
・4 月、館報リニューアル。  
・7 月、『県立神奈川近代文学館収蔵 特別資料リスト 1995～1996 年度受入』刊行。  
・11 月、閲覧室での蔵書検索用に Telnet-OPAC システムを導入、検索対象に未整理図書も加えた。また特別資料についても検索が可能になった。



当財団では 1995 年に広津柳浪、和郎、桃子の作家三代にわたる資料と、和郎、桃子の著作権を受贈しているが、この資料を公開すると同時に、ともすれば過去の作家として扱われがちなこの作家一族に光を当てる展示を春に開催した。

ある作家のまとまった資料を所蔵し、館運営において大きな力となっている場合は、その業績の顕彰に努めており、本展もそのような当館の役割を果たすものとして開催した。同様の趣旨により前年度から始めた収蔵コレクション展の 2 回目として「近藤東文庫」の紹介を行った。

資料関係での顕彰という観点からは、当館で「文庫」としてまとまった形で保存している資料について、その公開のために目録を継続的に刊行している。本年度はその 9 冊目として『中川孝収集実篤文庫目録』を刊行した。同文庫は実篤に関する資料が網羅的に集められたコレクションで、目録も詳細な記述としたため 622 頁という、それ以降刊行されたものも含め最大の文庫目録となった。

秋の特別展は、神奈川とのゆかりも深く、文学史上においてもひとときわ大きな存在である谷崎潤一郎の足跡をたどった。

本年度から館外施設への資料貸出が目に見えて増加しているが、リニューアルオープン以後、各種目録リストの刊行や検索機能の強化など、館蔵資料の公開に力を入れていることの効果もあると考えられる。

また館に隣接する港の見える公園の一角の整備工事が終了し、「ローズガーデン」としてオープンした。

#### 特別展 広津柳浪・和郎・桃子展―広津家三代の文学

親友社の一員として活躍した柳浪、その次男で松川事件裁判批判でも知られる和郎、祖父や父への追憶を作品に残した桃子。広津家三代のドラマを、桃子没後、当館に寄贈された 6,400 点に及ぶ文学資料をもとに紹介。

- 期間 4 月 11 日～5 月 17 日（31 日間）  
編集委員 阿川弘之、中島国彦、橋本迪夫、松原新一  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 5,133 人（166 人／1 日平均）  
○関連イベント  
4 月 18 日 講演会「志賀直哉と広津家の人々」阿川弘之 入場者数 220 人／同 26 日 映画会「晩春」入場者数 179 人／5 月 3 日 映画会「松川事件」入場者数 197 人／同 9 日 朗読会「金魚」「雨」寺田農 入場者数 142 人  
○展示説明会  
4 月 25 日、5 月 2 日の 2 回実施／計 20 人  
○刊行物  
『広津柳浪・和郎・桃子展』図録 判型：B5 判／頁数：68 頁／900 円  
○ビデオ制作  
「人間の悲しみをみつめて 広津柳浪・和郎・桃子 文学者三代の歩み」（監修：松原新一 15 分）  
○後援事業  
4 月 26 日、5 月 9 日 松川事件関連行事 講演等：中田直人ほか（会場 中会議室 主催 松川運動記念会）  
（担当 野見山陽子、中村敦、斎藤泰子）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 5 月 23 日～6 月 28 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,989 人（64 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ

期間 7 月 4 日～8 月 16 日（37 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,842 人（50 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 8 月 22 日～9 月 27 日（30 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,595 人（53 人／1 日平均）

#### 特別展 谷崎潤一郎展

谷崎潤一郎の生涯と、その華麗で官能的な作品世界を、代表作の原稿・装幀原画、書簡などによって総合的に展観。また、横浜、湯河原、小田原など神奈川とのゆかりについても紹介。

- 期間 10 月 3 日～11 月 8 日（31 日間）  
編集委員 河野多恵子  
編集協力 千葉俊二  
会場 第 2・第 3 展示室  
後援 中央公論社  
入場者数 6,023 人（194 人／1 日平均）  
○関連イベント



10 月 17 日 講演中の種村季弘氏

10 月 10 日 映画会「細雪」 入場者数 195 人／同 17 日 講座「戦略としてのエロス」佐伯彰一、「光学装置としての谷崎作品」種村季弘 入場者数 111 人／同 24 日 講座「性転換する語り手」島田雅彦、「映画と谷崎と…」川本三郎 入場者数 193 人／同 25 日 映画会「春琴物語」（原作「春琴抄」） 入場者数 213 人／同 31 日 講座「谷崎潤一郎と身体」三浦雅士、「谷崎文学の予言力」河野多恵子 入場者数 148 人



10 月 31 日 講演のため来館した河野多恵子氏と三浦雅士氏

- 展示説明会  
10 月 11 日、同 18 日の 2 回実施／計 45 人  
○刊行物  
『谷崎潤一郎展』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円  
○ビデオ制作  
「谷崎潤一郎作品を聴く『卍』『細雪』『瘋癲老人日記』（監修：河野多恵子 15 分）  
○文学散歩  
第 14 回文学散歩〈横浜・小田原〉講師：千葉俊二  
10 月 8 日 横浜方面 参加者 49 人／同 15 日 小田原方面 参加者 46 人  
（担当 半田典子、浅野千保）

#### 収蔵コレクション展 2 近藤東文庫

戦前モダニズム詩の旗手として知られ、戦後横浜を中心に地域文化活動にも貢献した近藤東の生涯を紹介。詩稿、創作ノート、書簡のほか、貴重な戦前の詩誌コレクションなど、資料約 150 点を展示。

- 期間 11 月 14 日～1999 年 1 月 10 日（42 日間）  
〔同時開催：常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで〕  
会場 第 3 展示室  
入場者数 1,766 人（42 人／1 日平均）  
○刊行物  
「収蔵コレクション展 2 近藤東文庫」リーフレット 判型：B6 判／頁数：8 頁／無料配布  
（担当 古川左映子、佐々木光、北村陽子）

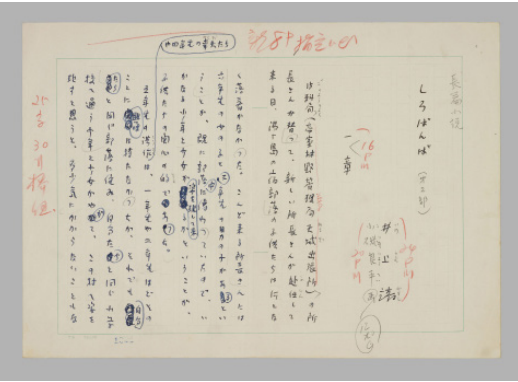
#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

- 期間 1 月 15 日～2 月 14 日（26 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,116 人（44 人／1 日平均）  
○関連イベント  
2 月 6 日 文芸朗読会―太宰治を読む―「お伽草子」から「カチカチ山」山本學 入場者数 210 人

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ

期間 2 月 20 日～4 月 4 日（37 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 2,081 人（1 日平均 56 人）

- =====
- 【主な寄贈資料】  
・中島可一郎資料：飯島耕一、宗左近、辻井喬、壺井繁治、三好達治、鷺巣繁男などの詩集 1,200 冊、「ホトトギス」「火牛」など雑誌 1,000 冊  
・牟礼慶子資料：著書『鮎川信夫』の推薦文原稿（埴谷雄高筆）と、北村太郎、三好豊一郎、本多秋五ら「荒地」「近代文学」関係者からなどの書簡 89 点  
・藤田圭雄文庫追加：戯曲「赤い鳥」ほか原稿 5 点、諸家書簡 138 点、石井鶴三、伊藤薫朔、清水崑、茂田井武らの挿絵原画、舞台・放送台本 25 点、日記 2 点など  
・佐多芳郎資料：「天地静大」（山本周五郎著）などの新聞小説挿絵原画、下絵、校正刷、掲載紙誌切抜、舞台・テレビ台本など 207 点  
・木下李太郎文庫追加：「百花譜」原画、大同石仏寺仏像などの絵画、色紙、短冊、スケッチブックなど書画関係 1,160 点、「日本遣欧使者記」訳稿など原稿 13 点、ノート 16 点、手帳 55 点、書簡 298 点、遺品など計 3,000 点  
・福田正夫資料追加：原稿、百田宗治、北原白秋ら諸家書簡 70 点、色紙、芳名帖、書画、図書、雑誌など  
・吉野秀雄資料：会津八一ほか日本近代文学作品、万葉集・良寛・本居宣長など古典文学、歴史、美術関係書など旧蔵書・雑誌 7,000 冊  
・井上靖資料追加：「しろばんば」「花壇」「孔子」「城砦」「額田王女」「風濤」「本覚坊遺文」などの草稿・原稿のほか、詩、随筆、自作解題、各種選評原稿など



井上靖「しろばんば」原稿

- 【主な購入資料】  
・石塚友二「鎌倉の秋」原稿  
・尾崎一雄「冬眠居日録」原稿  
・高橋新吉「佐藤春夫のこと」原稿  
・内藤千代子「毒蛇」原稿  
・和田伝「蜂竜の盃」「処女作と自信作」など原稿 7 点  
・岸田劉生 長谷川録郎宛書簡 6 点  
・山宮允 能村潔ほか宛書簡 11 点  
・堀辰雄、神西清ほか寄書き色紙
- 【1998 年度の主なトピック】  
・4 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 9 中川孝収集実篤文庫目録』刊行。  
・9 月、『県立神奈川近代文学館収蔵 特別資料リスト 1994・1997 年度受入』を刊行。  
・12 月、広津和郎、桃子父子の著作権料収入を原資として広津基金預金が創設された。



夏目漱石資料は当館の所蔵する重要資料のひとつであるが、その核となる遺品を中心とする漱石資料が6月、漱石長男・純一氏の夫人嘉米子氏から寄贈され、保昌正夫常務理事が臨席し記者会見を行った。2月に亡くなった純一氏の遺志に基づいたものである。漱石資料の最初の寄贈は文学館が建設される以前の1981年に遡る。漱石の三女・故夏目栄子氏から書画などをいただいた。その後寄託された資料なども含めて夏目漱石資料として一括保存しており、この資料群は現在すべてデジタル画像化され、閲覧室の端末で自由に見ることが出来る。また2015年中にネット上でも公開する予定である。

受贈資料のうち質量共に重要なものを「文庫」として保存しているが、その数は1999年度末の時点で31を数える。各文庫やその他の寄贈に対しては一括寄贈の後も継続して追加寄贈をいただくことが多い。本年も「鈴木三重吉・赤い鳥文庫」などへの大きな追加があり一層の充実をみた。その他、正岡容、吉田満、山田今次など諸家旧蔵の特色ある資料を相次いで受贈した。

春に「開高健展」を開き、展覧会終了後、夫人の牧羊子氏から開高の原稿など関連資料が寄贈された。また本年は館設立に際し大きく貢献された尾崎一雄の生誕100年にあたり、これを記念して収蔵コレクション展「尾崎一雄文庫」と講演会さらに朗読会も開催した。

#### 特別展 開高健展

作家・開高健の行動と創作の軌跡を展観する初の試み。自筆原稿、書簡等の文学資料、豊富な写真資料等、総点数約500点で構成。

期間 4月10日～5月16日（31日間）  
編集委員 加賀乙彦、黒井千次、高橋英夫、辻邦生  
会場 第2・第3展示室  
入場者数 8,796人（284人／1日平均）  
○関連イベント

4月17日 講座「作家にとっての冒険」高樹のぶ子、『『外へ』と開高健は言った』大岡玲 入場者数220人／同24日 講座「開高健と小説（対談）」黒井千次、増田みず子 入場者数113人／同25日 映画会「証人の椅子」入場者数195人／5月1日 講座「開高健と躁鬱」加賀乙彦、「開高健とアジア」川村湊 入場者数220人



5月1日 牧羊子氏（開高健夫人・中央）を囲んで歓談する川村湊氏（左）と加賀乙彦氏（右）

○展示説明会  
4月18日、5月2日の2回実施／計63人

○刊行物  
『開高健展』図録 判型：B5判／頁数：72頁／900円  
○ビデオ制作  
「開高健 「疾走」する生涯」（監修：高橋英夫15分）  
（担当 市野いづみ、中村敦、和田明子）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 5月22日～6月27日（31日間）  
会場 第2・第3展示室  
入場者数 2,008人（65人／1日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで 併設 夏目漱石資料コーナー

常設展の一角に、夏目嘉米子氏寄贈の漱石資料約350点の中から「文学論」原稿をはじめとした10数点を選び、コーナーを設けて展示した。

期間 7月3日～8月15日（37日）  
会場 第2・第3展示室  
入場者数 3,008人（81人／1日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 8月21日～9月26日（30日間）  
会場 第2・第3展示室  
入場者数 1,598人（53人／1日平均）  
○関連イベント  
川端康成生誕100年記念映画会 8月28日「伊豆の踊子」入場者数228人／講演会 9月11日「短篇小説の川端康成」竹西寛子 入場者数147人／映画会「古都」入場者数183人

#### 特別展 永井荷風展

生誕120年・没後40年を記念し、生涯と作品を編年的に展示。新発見の家族・友人宛絵はがき、木村荘八の挿絵原画、「断腸亭日乗」など貴重資料約500点を展示。

期間 10月2日～11月7日（31日間）  
編集委員 近藤信行、竹盛天雄、安岡章太郎  
会場 第2・第3展示室  
入場者数 6,485人（209人／1日平均）  
○関連イベント



10月11日 講演に来館した永井路子理事と中野孝次理事長

10月11日 講演会「母・智子と荷風」永井路子 入場者数201人／10月16日 朗読会「狐」『湊東綺譚（第1章、9章）』大和田伸也 入場者数158人  
○展示説明会  
10月24日、同30日の2回実施／計87人  
○刊行物  
『永井荷風展』図録 判型：B5判／頁数：64頁／900円  
○ビデオ制作  
「永井荷風 その反俗と孤高」（監修：近藤信行15分）  
（担当 斎藤泰子、浅野千保）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ

期間 11月13日～12月12日（25日間）  
会場 第2・第3展示室  
入場者数 1,714人（69人／1日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 12月18日～2000年2月13日（42日間）  
会場 第2・第3展示室  
入場者数 1,577人（38人／1日平均）

#### 収蔵コレクション展3 尾崎一雄文庫

小田原・下曽我に生まれ、心境小説や自伝的小説の名作を数多く残し、当館の設立にも多大な貢献のあった尾崎一雄の生誕100年を記念し、〈尾崎一雄文庫〉として当館で一括保存する約4万6千点の中から原稿、初版本、同時代作家からの書簡など貴重資料約120点を展示。

期間 2月19日～4月16日（49日間）  
〔同時開催：常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで〕  
会場 第3展示室  
入場者数 2,534人（52人／1日平均）  
○関連イベント  
尾崎一雄生誕100年記念講演会 2月26日「尾崎一雄の贅沢なる人生」中野孝次 入場者数220人／朗読会 3月11日「玄関風呂」「芳兵衛」「虫のいろいろ」米倉倉加年 入場者数179人  
○刊行物  
「収蔵コレクション展3 尾崎一雄文庫」リーフレット 判型：B6判／頁数：8頁／無料配布  
（担当 鎌田邦義）

【その他の主なイベント】  
○文学散歩  
第15回文学散歩〈平塚〉 講師：井上弘 10月21日、同26日 参加者数97人

#### 【主な寄贈資料】

・鈴木三重吉・赤い鳥文庫追加：三重吉の「手紙に代へて」ほか原稿19点、夏目漱石をはじめ、芥川龍之介、北原白秋、小宮豊隆、高浜虚子らの三重吉宛書簡246点、虚子書のほか久保田万太郎らの俳句短冊25点、坪田譲治書ほか色紙5点など  
・福田美鈴評議員寄贈：著書『父福田正夫』の川崎長太郎

序文原稿、川崎長太郎からの書簡3点など  
・関英雄文庫追加：書簡、写真など特別資料89点、著書、執筆誌を含む図書16冊、雑誌20冊  
・尾崎左永子評議員寄贈：原稿、草稿類900点、「花の章七首」など自詠自筆書幅3点  
・夏目漱石資料：「文学論」原稿、正岡子規の朱筆入り「正岡子規へ送りたる句稿」や漢詩稿、「あかざと黒猫図」「秋景山水図」などの書画、印、文具や机などの遺愛品、旧蔵の安井曾太郎油彩画など特別資料290点、著書初版本など図書59冊



（上）漱石山房書斎の絨毯、文机、机上の品々  
（右）「漱石山房」印  
  
・井伏鱒二資料：井伏宛開高健書簡4点  
・開高健資料：「珠玉」「私の大学」原稿、司馬遼太郎の弔辞、井伏鱒二書「鮎釣り秘伝書」  
・正岡容資料：「雲右衛門前後」「円朝」ほか原稿や創作ノート、吉井勇、木村荘八ら諸家書簡、書画、旧蔵書など2,250点  
・山田今次資料：著書、詩集など旧蔵書3,390冊、「書燈」「歷程」など雑誌約4,580冊、特別資料約1,258点  
・岡松和夫常務理事寄贈：「峠の棲家」など原稿300点、旧蔵書・雑誌350冊  
・吉田満資料：「戦艦大和ノ最期」など原稿、取材ノート、作品関連資料、初出掲載誌、吉川英治、三島由紀夫らの跋文原稿、旧蔵書・雑誌など1,660点

#### 【主な購入資料】

・内田百閒「ノラや」原稿  
・里見弴「安城家の兄弟」（部分）原稿  
・尾崎一雄「冬眠居日録」（最終回）原稿  
・永井荷風 菅原明朗宛書簡  
・仮名垣魯文書幅「哥沢芝千師の熊本え行を送る」  
・芥川龍之介 松岡譲宛はがき3点  
・尾崎紅葉 内田魯庵宛書簡  
・坪田譲治「兄の折り」原稿  
・久保田万太郎戯曲「或る女」原稿

#### 【1999年度の主なトピック】

・4月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録10 中里恒子文庫目録』刊行。  
・7月、『県立神奈川近代文学館収蔵 特別資料リスト1993・1998年度受入』刊行。  
・12月、1997年から参加している国立国会図書館・国際子ども図書館の「児童書総合目録」事業にデータの提供を行った。



所蔵資料をいかに広く公開していくかは常に念頭にある課題である。検索は、カード方式から 1994 年のリニューアルオープンと共に電算端末に移行した。その後も改良を重ね、閲覧室内で自筆資料の検索が可能というところまで来ていた。そしてようやくこの 4 月に図書約 24 万件、雑誌約 25 万件のネット上での蔵書検索を可能とした。当館で所蔵する多くの貴重雑誌を館外から検索できるメリットは大きく、これにより郵送コピーの件数が飛躍的に伸びた。

春に開催した特別展「司馬遼太郎が愛した世界展」は朝日新聞社、NHK 横浜放送局、NHK プロモーションとの共催で行ったもので、当館は 5 部構成のうち 3 つの部門を担当し、全国 8 ヲ所のデパートを巡回した。司馬の人気と巨大メディアの発信力を背景に多くの入館者を集めた。秋には「原爆文学展」を開催。20 世紀最後の年の展示として、今世紀にもたらされた未曾有の惨禍を描いた文学作品を後世に伝えるため、「神奈川ゆかり」という枠を超えて企画したものである。また、広報面、資金面を中心に当館を外部から支援する組織である「神奈川近代文学館を支援（サポート）する経営者の会」（現在は「神奈川近代文学館を支援（サポート）する会」）が発足し、5 月に設立総会を開いた。

施設関連では本館と展示館の間にある崖面に崩落の危険性があったため県からの予算措置によって補強工事を実施、併せて館内の内装等も一部刷新した。

#### 特別展 司馬遼太郎が愛した世界展

歴史小説や独自の歴史観に基づく文化・文明論で多くの読者を惹きつけた司馬遼太郎。彼が愛し、語り続けた世界を「歴史」「原点」「旅」「美術」「未来」の 5 つのキーワードを柱に構成し、自筆資料のほか、歴史資料や美術作品などで紹介。（本展は当館の企画協力のもと前年 9 月から全国 8 会場を巡回し、最終会場として当館で開催。）

期間 4 月 22 日～5 月 28 日（32 日間）  
監修 井上ひさし、安野光雅、青木彰、木村重信  
企画委員 松本健一、清原康正、中塚宏行  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 13,484 人（421 人／1 日平均）  
共催 NHK 横浜放送局、NHK プロモーション、朝日新聞社  
後援 文化庁  
協力 財団法人司馬遼太郎記念財団



5 月 14 日 講演中の鶴見俊輔氏

○関連イベント

4 月 29 日 映画会「尻啖え孫市」 入場者数 210 人／  
5 月 14 日 講座「司馬先生と『翔ぶが如く』」小山内美江子、「司馬史観にふれて」鶴見俊輔 入場者数 220

人／同 21 日 講座「司馬文学の魅力」出久根達郎、「司馬さんと昭和史」半藤一利 入場者数 202 人

○展示説明会

5 月 6 日、同 20 日の 2 回実施／計 93 人

○刊行物

『司馬遼太郎が愛した世界展』図録 判型：A4 判変型／頁数：224 頁／2,000 円（NHK・NHK プロモーション・朝日新聞社の編集・刊行。当館編集協力）

○文学散歩

第 16 回文学散歩「横須賀文学散歩」（横須賀市内の司馬ゆかりの地を訪問）講師：藤谷宏樹 5 月 17 日、同 24 日 参加者数 91 人

○後援事業

4 月 25 日、5 月 7 日 「司馬遼太郎の世界をたずねて『横浜文学散歩』！」（主催 横浜シティガイド協会）  
（担当 石井久義、半田典子、中村敦）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 6 月 3 日～7 月 9 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,627 人（52 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ

期間 7 月 15 日～8 月 20 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,516 人（49 人／1 日平均）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 8 月 26 日～10 月 1 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,174 人（38 人／1 日平均）

#### 特別展 原爆文学展 ヒロシマ・ナガサキ―原民喜から林京子まで―

記憶の風化に抗すべく書き継がれ、読者に感銘を与えてきた「原爆文学」を、20 世紀を締めくくる特別展として開催。被爆直後に作品を綴った原民喜らの文学から林京子ら現代作家の文学までを総合的に展観。

期間 10 月 7 日～11 月 12 日（32 日間）  
編集委員 中野孝次  
編集協力 黒古一夫  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 4,513 人（141 人／1 日平均）  
協力 中国新聞社、長崎原爆資料館、長崎大学医学部原研施設、財団法人広島原爆障害対策協議会、広島市立中央図書館、広島平和記念資料館

○関連イベント

10 月 8 日 朗読会「原民喜『夏の花』、栗原貞子『生ましめん哉』ほか」加賀美幸子 入場者数 184 人／同 15 日 映画会「八月の狂詩曲」 入場者数 95 人／同 29 日 講演会「被爆とわたくし」林京子 入場者数 212 人／11 月 3 日 映画会「黒い雨」 入場者数 129 人

○展示説明会

10 月 14 日、同 21 日の 2 回実施／計 29 人

○刊行物

『原爆文学展 ヒロシマ・ナガサキ―原民喜から林京子まで―』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

○ビデオ制作

「原爆文学の誕生から林京子まで」（監修：黒古一夫 18 分）  
（担当 安藤和重、斎藤泰子、和田明子）

#### 収蔵コレクション展 4 木下杢太郎文庫―「百花譜」の世界へ

医学者であると同時に、詩、小説、劇作、評論等、多岐にわたる才能を発揮した木下杢太郎。その美術面での業績にスポットをあて、「百花譜」を中心とした約 80 点の作品で構成。

期間 11 月 18 日～2001 年 1 月 14 日（41 日間）  
〔同時開催：常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで〕  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,723 人（42 人／1 日平均）  
○刊行物  
「収蔵コレクション展 4 木下杢太郎文庫」リーフレット 判型：B6 判／頁数：8 頁／無料配布  
（担当 高橋祐子、野見山陽子）

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 1 月 20 日～2 月 25 日（31 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,055 人（34 人／1 日平均）  
○関連イベント  
2 月 24 日 文芸朗読会 山本周五郎作「松の花」「しぐれ傘」津嘉山正種 入場者数 177 人

#### 常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ

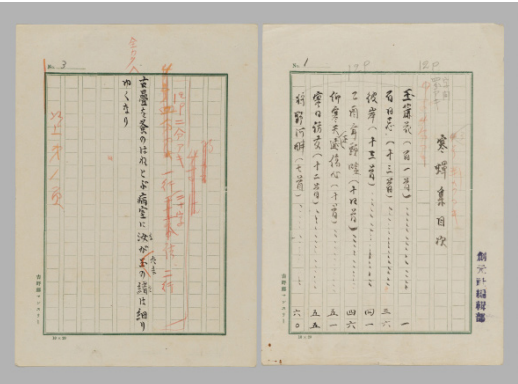
期間 3 月 3 日～4 月 1 日（25 日間）  
会場 第 2・第 3 展示室  
入場者数 1,232 人（49 人／1 日平均）

~~~~~

【主な寄贈資料】

・金石範資料：『火山島』第 4～7 巻刊行のための手入れ原稿及び校正刷 16 点
・立原正秋文庫追加：立原原作「舞いの家」「薪能」など舞台・ドラマ台本 45 点、著書 125 冊、小川国夫、藤枝静男ら諸家署名献呈本など 273 冊、執筆誌を含む雑誌 42 冊
・中野孝次理事長追加寄贈：「良寛」「南チロルの夏」「大岡邸の正月」「犬のいる暮らし」などの原稿、本多秋五、埴谷雄高、永井路子ら諸家書簡など 350 点
・野上透氏寄贈：阿川弘之、井上靖、開高健、高見順、三島由紀夫、安岡章太郎ら作家の肖像写真 96 点
・藤田圭雄文庫追加：大佛次郎「何処までも（氷の階段）」、里見淳「荊棘の冠」、野上弥生子「こころ」などの原稿、川端康成、谷崎潤一郎、横光利一ら諸家書簡、出開美千子画「赤とんぼ」創刊号表紙原画など特別資料 300 点、図書 14,000 冊、雑誌 5,000 冊
・長崎源之助評議員寄贈：「童話集ながればし」など平塚武二原稿 4 点

・椿貞雄資料：椿画『赤い靈魂』（倉田百三著）装幀原画 2 点、『菜種圃』（長与善郎著）装幀原画と試し刷各 1 点
・宮田重雄資料：宮田画「自由学校」「但馬太郎治伝」「箱根山」（獅子文六著）挿絵原画 3 点
・花田清輝資料：「泥棒論語」「群猿図」「随筆三国志」などの原稿、佐々木基一、野間宏、埴谷雄高らの弔辞、安部公房、埴谷ら諸家書簡ほか特別資料 400 点
・阿川弘之顧問寄贈：「魔の遺産」浄書原稿、「志賀直哉」原稿
・粉山梓月資料：高浜虚子、永井荷風、夏目漱石らの梓月宛書簡、荷風宛梓月書簡、日記、短冊など 800 点
・中尾進資料：中尾画「西郷隆盛」（海音寺潮五郎著）、「俄」「北斗の人」（司馬遼太郎著）、「おとこ鷹」（子母沢寛著）などの挿絵原画や『眠狂四郎』（柴田錬三郎著）シリーズほかの装幀原画計 85 点、印刷物 5 点
・吉野秀雄文庫追加：『寒蟬集』『苔径集』などの原稿、日記、ノート、書簡のほか墨・硯などの遺愛品を含む特別資料 800 点、著書 18 冊、雑誌 12 冊



吉野秀雄『寒蟬集』原稿

・吉田■生資料：旧蔵図書・雑誌 5,100 冊
・吉田満資料：島尾敏雄、曾野綾子ら諸家書簡、自筆短冊など 100 点
・中蘭英助理事寄贈：「烙印」をはじめとする著作原稿、執筆資料など 400 点

【主な購入資料】

・二葉亭四迷「平凡（六十一）」原稿
・橋口五葉考案の「漱石山房」原稿用紙下図、五葉画『虞美人草』（夏目漱石著）装幀・口絵図案、「ホトトギス」表紙図案
・小山内薫 川田順祝書簡 10 点
・金達寿「玄海灘」原稿

【2000 年度の主なトピック】

・4 月、web-OPAC の導入によりインターネット上で図書、雑誌の検索が可能になった。
・5 月、「神奈川近代文学館を支援（サポート）する経営者の会」第 1 回総会を開催（2006 年度に「神奈川近代文学館を支援（サポート）する会」と改称）。
・7 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 11 中村光夫文庫目録』『県立神奈川近代文学館収蔵 特別資料リスト 1992・1999 年度受入』を刊行。

再オープン後も資料の寄贈は進み、井上靖資料と埴谷雄高資料がそれぞれ33番目、34番目の文庫として一括保存されることとなった。このうち「井上靖文庫」は新館地下1階に、尾崎一雄、中村光夫に次ぐ3番目の記念室を設置して収蔵された。

増加する資料に対応するため、地下3階と新館地下1階書庫内の空きスペースに書架を増設した。また特別資料庫と記念室内にも収蔵架を増設し、同時に落下防止ネットをはじめとする耐震対策も強化した。この収蔵能力アップにより利用可能な空間は、ほぼ使い切ったこととなり、今後収蔵容積の増加は望めなくなった。

12冊目の目録として『近藤東文庫目録』を刊行した。同文庫は貴重な詩誌、詩集を多数含み、当館の近現代詩資料の中核を成すもので、目録の完成によりその全貌を知ることが出来るようになった。

展示では21世紀の幕開けの年ということで、これからの時代を生きていく子どもたちに向けて「子どもの本の世界展」を開催した。当館は設立の趣意に児童文学資料の収集、展観を謳っており、過去にも2回児童文学の特別展を開催しているが、本展もこの方針に沿うものである。当館で終了後、茨城県古河市へ巡回、また小規模に再構成したものを小田原市立図書館、相模原市立橋本図書館に提供した。

秋は「野間宏文庫」の資料を中心に構成した「野間宏と戦後派の作家たち展」を開催、野間と同時代に活躍した大岡昇平らも併せて紹介した。館蔵資料において戦後文学が充実していることを示す展示となった。

特別展 子ども本の世界展 20世紀から21世紀への贈り物

20世紀の日本児童文学の名作の数々を、21世紀の子どもたちへの贈り物として位置づけ、装幀・挿絵の原画作品を重視して展示。

期間 4月7日～5月13日（32日間）
編集委員 上笙一郎、司修、三木卓
編集協力 佐藤宗子
会場 第2・第3展示室
入場者数 9,634人（301人／1日平均）
○関連イベント



5月5日 対談中の工藤直子氏（左）と谷川俊太郎氏

4月15日 人形劇「三人よればトンチンカン」人形劇サークルまいまい 入場者数129人／同22日 講座「2001年夢の旅―ファンタジイ文学の力」舟崎克彦、「たのし

みとしての読書―子どもと大人・同時代を生きる」落合恵子 入場者数108人／同30日 人形劇「三つのねがい」ほか人形劇団どろんこ 入場者数144人／5月3日 映画会「はれときどきぶた」「チョコレート戦争」 入場者数152人／同4日 映画会「鬼の眼」 入場者数92人／同5日 講座「子ども・ことば・いのち」（対談）谷川俊太郎、工藤直子 入場者数235人

- 展示説明会
4月21日、同28日の2回実施／計49人
- 刊行物
『子どもの本の世界展 20世紀から21世紀への贈り物』図録 判型：B5判／頁数：64頁／1,000円
- ビデオ制作
「日本の児童文学 1960 その飛躍の時代」（監修：三木卓 16分）
- 巡回展等
①古河文学館 展覧会名：子どもの本の世界展 会期：7月28日～9月2日 観覧者数：2,070人（第1部のみを共催展示）／②小田原文学館 展覧会名：20世紀の子どもの本とうた展 会期：7月28日～9月2日 観覧者数：794人（小中学生53人 大人741人）（一部を再構成した小展巡回）／③相模原市立橋本図書館 展覧会名：子どもの本の世界展 会期：12月15日～2002年1月14日 観覧者数：24,941人（期間内資料利用者数）（一部を再構成した小展巡回）
（担当 北村陽子、渡邊明子、浅野千保）

常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 5月19日～7月1日（37日間）
会場 第2・第3展示室
入場者数 2,054人（56人／1日平均）
○関連イベント
5月27日 「明治の文学」朗読会 樋口一葉作「十三夜」 藤村志保 入場者数216人

常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで

期間 7月7日～8月19日（37日間）
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,733人（47人／1日平均）

常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①―震災後から敗戦まで

期間 8月25日～9月30日（31日間）
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,176人（38人／1日平均）

特別展 野間宏と戦後派の作家たち展

没後10年を記念し、館蔵の〈野間宏文庫〉資料を中心に開催。野間文学の世界を紹介するとともに、その枠に収まりきらない野間の活動の全体像を紹介。併せて戦後派作家11人を選び彼らの足跡もたどった。

期間 10月6日～11月11日（32日間）
編集委員 黒井千次

編集協力 紅野謙介
会場 第2・第3展示室
入場者数 3,268人（102人／1日平均）
後援 野間宏の会、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、TVKテレビ

- 関連イベント
10月14日 映画会「真空地帯」 入場者数153人／11月10日 講演会「戦後文学の光景」立松和平 入場者数156人
- 展示説明会
10月13日、同27日の2回実施／計25人
- 刊行物
『野間宏と戦後派の作家たち展』図録 判型：B5判／頁数：64頁／900円
- ビデオ制作
「野間宏 廃墟からのまなざし」（監修：紅野謙介 17分）
（担当 中村敦、安藤和重）

企画展 神奈川文化賞50年の文学者たち展

神奈川文化賞制定50年を記念し、歴代の受賞作家たちの実績を紹介。2001年希望の年記念事業。

期間 11月17日～2002年1月20日（46日間）
〔同時開催：常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②―敗戦から現代へ〕
会場 第3展示室
入場者数 1,720人（37人／1日平均）
（担当 藤野正）

常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 1月26日～3月3日（31日間）
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,345人（43人／1日平均）
○関連イベント
2月24日 「明治の文学」朗読会 泉鏡花「夜行巡査」 児玉清 入場者数220人

収蔵コレクション展5 藤森成吉文庫

プロレタリア文学全盛時に戯曲「何が彼女をさうさせたか」で一世を風靡した藤森成吉の文学と社会的活動の軌跡を、〈藤森成吉文庫〉資料によって紹介。

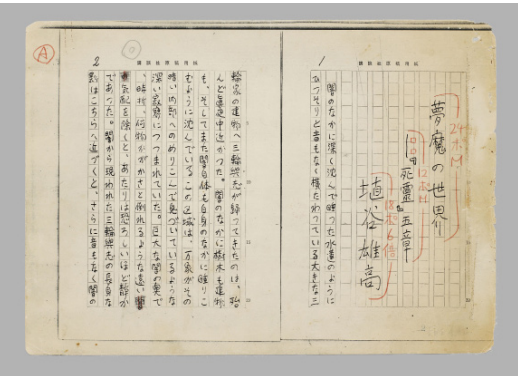
期間 3月9日～4月21日（37日間）
〔同時開催：常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで〕
会場 第2展示室
入場者数 1,746人（47人／1日平均）
○刊行物
「収蔵コレクション展5 藤森成吉文庫」リーフレット 判型：B6判／頁数：8頁／無料配布
（担当 斎藤泰子、浅野千保）

【ビデオ制作】
「横浜文学散歩―山手元町」（財団監修 16分）

【その他の主なイベント】
○文学散歩

第17回文学散歩〈真鶴・湯河原〉講師：武田弘之 11月1日、同9日 参加者数82人

- 【主な寄贈資料】
・岡松和夫常務理事寄贈：兵藤正之助宛本多秋五書簡47点と兵藤の創作メモ1点
・大岡昇平文庫追加：『『猫』と『塔』と『館』と』原稿、執筆資料など100点と旧蔵の図書、雑誌1,850冊
・竹西寛子資料：「管絃祭」「山河との日々」「日本の文学論」「山川登美子」原稿など141点
・武田八洲満資料：「海の国」「箱館戦争」原稿、創作ノートなど150点
・中蘭英助理事追加寄贈：「炎の中の鉛（無国籍者）」「密告者」などの原稿、「密航定期便」創作ノート、島尾敏雄ら諸家書簡など特別資料970点、図書、雑誌30冊
・山本七平資料：著書213冊、「小林秀雄の流儀」「日本資本主義の精神」原稿、安野光雅の描いた七平のデスマスク、愛用の眼鏡などの資料300点
・田中俊子氏寄贈：西島麦南『人音』初版本、雑誌「雲母」など田中鬼骨旧蔵書640冊
・野間宏文庫追加：戦中日記、「狭山裁判」原稿、「青年の環」草稿（部分）など100点
・野村忠男氏寄贈：野村氏宛の埴谷雄高書簡2点
・井上靖文庫追加：初期詩稿、「猟銃」「闘牛」草稿、「孔子」創作ノート、シルクロード取材ノート、諸家書簡など特別資料5,000点、図書1,400冊、雑誌200冊
・藤森成吉文庫追加：窪田空穂、鈴木三重吉、中野重治ら諸家書簡など79点
・埴谷雄高文庫：「死霊」草稿、原稿をはじめ「闇の中の思想」などの原稿120点、創作メモ、日記、遺品、埴谷宛書簡など特別資料12,600点



埴谷雄高「夢魔の世界 『死霊』五章」原稿

- ・中島敦文庫追加：南洋諸島赴任中に息子たちへ送った書簡など56点、横浜高等女学校からの辞令、自筆の履歴書、身体検査書など61点
- ・神西清文庫追加：中里恒子書簡をはじめ有島生馬、日夏耿之介書簡など49点

【主な購入資料】
・小林秀雄「ドストエフスキイの生活（三）」原稿
・永井龍男「時計」原稿
・開高健「日本三文オペラ」原稿
・「少年少女」掲載原稿、挿絵原画254点

【2001年度の主なトピック】
・7月、『県立神奈川近代文学館収蔵 特別資料リスト1991・2000年度受入』刊行。
・3月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録12 近藤東文庫目録』刊行。

大きな寄贈が3件あった。堀田善衛、中蘭英助、荻原井泉水の各旧蔵資料が寄贈され、いずれも文庫として保存されることとなった。これで館蔵文庫の数は37に達する。堀田は財団の評議員、中蘭は理事をそれぞれ務めた。また東京都立近代文学博物館の閉館に伴い、同館が所蔵していた野村傳四郎資料が、ご遺族の意向により当館に寄託された。漱石の原稿や多数の書簡が含まれる貴重なもので、館蔵の漱石資料が一層充実することとなった。春には「夏目漱石展—21世紀へのことば—」を開催し、この館蔵漱石資料から多数出品した。漱石展は15年前の1987年に開催して以来2度目となるが、前回同様1日平均500人を超える入館者が詰めかけ、衰えない漱石人気を改めて示すこととなった。この展示に合わせて、常設展示室の冒頭に漱石資料を常時鑑賞できるコーナーを設けた。秋は館蔵の「吉野秀雄文庫」を紹介する「生誕100年記念展 歌びと 吉野秀雄」を開催。その後同展は吉野の生まれ故郷である高崎市に巡回した。



常設展示室（第1展示室）の入口の「漱石山房」
復元展示コーナー

特別展 夏目漱石遺品受贈記念 夏目漱石展—21 世紀へのことば—

寄贈された遺愛品をはじめ直筆原稿、書画、書簡等によって、朝日新聞社入社から漱石山房時代の生活と作品をたどった。また、前半生、作品を顧みる形で生涯を概観し、教え子、友人たちとの交流も紹介。

期間 4月27日～6月9日（38日間）
編集委員 岡松和夫、石崎等
会場 第1～3展示室
入場者数 20,094人（529人／1日平均）
共催 朝日新聞社
後援 岩波書店、NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、TVK
テレビ
協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する経営者の会
○関連イベント

文学講座「漱石文学の魅力」
4月28日「漱石を読み直す」井上ひさし 入場者数 220人
5月12日「僕の個人主義」(対談) 夏目房之介・嵐山光三郎 入場者数 220人／同19日『『猫』と私』久世光彦 入場者数 220人
「夏目漱石展—21世紀へのことば—」映画会
6月2日「こころ」(夏目漱石原作) 入場者数 220人
○展示説明会
5月11日 26人／同26日 43人
○刊行物
「夏目漱石展—21世紀へのことば—」図録 判型：B5

判／頁数：64 頁／ 900 円



5月28日 講演中の井上ひさし理事

○展示説明会
開催期間中の金曜日に計 6 回実施／計 262 人
(担当 和田明子、北村陽子、渡邊明子)

常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①—震災
後から敗戦まで

期間 6月15日～8月4日(43日間)
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,890人(44人／1日平均)

常設展 近代文学と神奈川Ⅳ 昭和の文学②—敗戦から現代へ

期間 8月10日～10月6日(48日間)
会場 第2・第3展示室
入場者数 2,009人(42人/1日平均)
○関連イベント
10月5日「昭和の文学②」朗読会 中里恒子作「百萬」
北村和夫 入場者数 187人

特別展 生誕 100 年記念展 歌びと 吉野秀雄

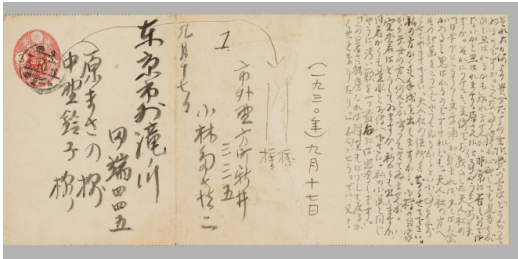
生誕 100 年を記念して、〈吉野秀雄文庫〉の資料を中心に歌人・吉野の生涯を紹介。書家としても知られる吉野の愛用した数々の印、遺愛の筆や硯なども書と共に展示した。

期間 10月12日～11月24日(38日間)
編集委員 島田修二、中野孝次
会場 第2・第3展示室
入場者数 5,144人(135人/1日平均)
後援 NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、TVKテレビ
協賛 神奈川近代文学館を支援(サポート)する経営者の
会、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄

- 関連イベント
- 10月20日 映画会「わが恋わが歌」入場者数 132人
／同26日 講演会『『寒蟬集』の挽歌』馬場あき子 入
場者数 220人
- 展示説明会
- 11月3日 6人／同9日 32人
- 刊行物
- 「生誕100年記念展 歌びと吉野秀雄」図録 判型：B5
判／頁数：64頁／900円
- ビデオ制作
- 「吉野秀雄 愛・生・歌」（監修：島田修二 15分）
- 文学散歩

【主な寄贈資料】

- ・古沢太穂資料：諸家書簡など特別資料 450 点、旧蔵図書 1,500 冊、雑誌 1,200 冊
- ・吉野秀雄文庫追加：「天井凝視」歌稿、日記など特別資料 745 点、図書 129 冊、雑誌 535 冊
- ・宮尾登美子資料：「蔵」原稿
- ・菅原克己資料：「遠い城」原稿、詩稿、自筆パステル画など 440 点
- ・中園英助文庫追加：「烏居龍蔵伝」原稿など特別資料 1,800 点、蔵書 2,000 冊、雑誌 800 冊
- ・安岡章太郎氏ほか寄贈：「毎日新聞」掲載原稿 110 点を各著者、著作権継承者から受贈
- ・前田夕暮資料：高松光代宛書簡 150 点
- ・佐々木信雄氏寄贈：井上ひさし「花川戸」自筆プロット、氏宛梅崎春生書簡など 27 点
- ・尾崎秀樹資料：著書とゾルゲ関連、上海・満州関連図書 2,000 冊、雑誌 1,300 冊
- ・堀田善衛文庫：「広場の孤独」「ゴヤ」などの原稿ほか特別資料 5,000 点と図書 1,500 冊、雑誌 600 冊
- ・中村真一郎資料：「文学は死なず」原稿のほか訳稿、肖像写真など 97 点
- ・荻原井泉水文庫：日記 200 冊、句稿、原稿、書画、愛用品、河東碧梧桐、種田山頭火書簡など特別資料 9,000 点と旧蔵の図書 400 冊、雑誌 1,500 冊
- ・中野重治資料：小林多喜二、島木健作、宮本顯治、宮本百合子、室生犀星ほか（家族宛を含む）宛書簡 2,000 点



小林多喜二 原泉・中野鈴子宛書簡
1930（昭和5）年9月17日

- ・西脇順三郎資料：『壤歌』函絵原画、「漢希ノート」、北川冬彦ほか諸家書簡、肖像写真、遺愛品など 60 点
- ・佐江衆一理事寄贈：「捨剣 夢想権之助」原稿

【主な購入資料】

- ・『ともだち文庫』収録作品原稿、挿絵原画 87 点
- ・阿部昭「巢を出る」原稿
- ・木村莊八『霧笛』（大佛次郎著）表紙原画
- ・鈴木三重吉 中川芳太郎宛書簡
- ・中岡英助「黒いしるぶぎ」原稿
- ・川端康成 石塚喜久三宛書簡
- ・永井龍男色紙「谷戸谷戸に友どち住みて…」

【2002 年度の主なトピック】

- ・6月、特別展「夏目漱石展—21世紀へのことば—」の終了後、漱石山房展示ケースを第1展示室に固定常設として展示。
- ・7月、『県立神奈川近代文学館収蔵 特別資料リスト 1990・2001年度受入』刊行。
- ・特別展「生誕100年記念展 歌びと吉野秀雄」を吉野の出生地・高崎市で共催巡回（12月3日～2003年1月13日／会場 高崎市タワー美術館／入場者数2,758名）。
- ・2003年3月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 13 鈴木三重吉・赤い鳥文庫目録』刊行。
- ・この年度から友の会家族会員制度を開始。5月1日、第1回「友の会の集い」を開催（参加者数38人）。

第19回文学散歩「鎌倉―吉野秀雄の面影を訪ねて―」講
師：山本陽一 11月8日 参加者63名／同14日57人
(担当 藤木尚子、藤野正)

〔同時開催：収蔵コレクション展6 中島敦文庫〕
中島敦没後60年にあわせ、原稿、日記、書画など約180点により生涯と文学世界をたどった。さらに、新たに発見され〈中島敦文庫〉に加わった南洋諸島からの書簡を初公開。

○刊行物
「収蔵コレクション展6 中島敦文庫」リーフレット 判型：B6判／頁数：8頁／無料配布
(担当 中村敦)

○共催行事
中島敦の会 中島敦没後60年記念行事(主催 中島敦の会)
10月14日 特別講演会「養老先生、敦を語る。」養老孟司／同19日、11月2日 朗読会「児玉朗かたりよみ」児玉朗／11月16日 朗読会「吉行和子ひとり語り」吉行和子(以上 会場 展示館ホール)／同27日 特別朗読会「萬籟、敦を語り読む。」野村萬斎、観世榮夫(会場 横浜能楽堂)

常設展 近代文学と神奈川 I 明治の文学—開港から日露戦争講和まで

期間 11月30日～2003年1月19日(36日間)
会場 第2・第3展示室
入場者数 937人(26人／1日平均)

常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学—日露戦
後から関東大震災まで

期間 1月25日～3月9日(37日間)
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,195人(32人／1日平均)

常設展 近代文学と神奈川Ⅲ 昭和の文学①—震災
後から敗戦まで

期間 3月15日～4月20日（31日間）
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,290人（42人／1日平均）

【その他の主なイベント】

[illegible]

1993 年以来 11 年にわたり館運営を担われた中野孝次理事長が 7 月 16 日に逝去され、9 月 25 日の臨時理事会で安西篤子常務理事が後任の理事長（館長）に推挙された。また、2006 年度から文学館の運営に指定管理者制度が導入されることが確定し、5 年ごとに選定を受けることとなった。

資料関係では中山義秀、黒岩重吾資料が各々一括寄贈され、年間で約 35,000 点増加。これに対応して一部資料棚の拡幅を実施した。また、1997 年から毎年度刊行してきた特別資料リストは遡及を完了し、データの整理を終えた資料から順次ネットでの所蔵情報の公開が始まった。

春は特別展「芥川龍之介展」を開催し、12,000 を超える観覧者を集め、講演会など関連行事も大変な盛況となった。また、開催にあわせて館蔵の「蜘蛛の糸」原稿の販売用複製品を製作した。夏には鎌倉女学院の創立百周年記念行事「神奈川の文学 鎌倉女学校と作家たち」展を共催で開催。学校と連携した新たな試みは会期中に生徒、関係者が数多く観覧し、若年層の動員に成果を上げた。秋は「開館 20 周年記念収蔵コレクション展 作家の筆跡。作家の逸品。」を開催し、館蔵貴重資料約 500 点を一堂に集めて紹介したほか、開館記念日には安西理事長と役員によるリレートークが行われた。

この年、開館以来修正を加えながら 20 年間継続してきた常設展（通史）を刷新。神奈川ゆかりの作家 42 人を 3 期に分けた 3 部構成で紹介する形に改めた。

特別展 21 世紀文学の預言者 芥川龍之介展

彫琢された作品群をはじめ、芸術家としての高い見識、家庭人としての愛情細やかな芥川の姿を、原稿、書簡、自筆資料、書画など多彩な資料を交え約 500 点で紹介。また 21 世紀に通じる箴言・警鐘となる言葉をとりあげ、その先見性、普遍性に注目。

期間 4 月 24 日～6 月 6 日（38 日間）
編集委員 川本三郎 宮坂覺
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 12,770 人（336 人／1 日平均）
後援 日本近代文学館 山梨県立文学館 NHK 横浜放送局 神奈川新聞社 TVK テレビ
協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する経営者の会
○関連イベント

文学講座 5 月 1 日「私と芥川龍之介」北村薫 入場者数 213 人／同 8 日「鶴沼と芥川龍之介」佐江衆一 入場者数 103 人／同 15 日「田端の王子さま」森まゆみ 入場者数 187 人／朗読会 同 29 日「蜘蛛の糸」「蜜柑」「点鬼簿」「藪の中」夏八木勲 入場者数 220 人

○展示説明会
4 月 29 日 39 人／5 月 5 日 36 人

○刊行物
「21 世紀文学の預言者 芥川龍之介展」図録／判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

○後援行事
芥川龍之介展映画会（主催 中央興業（有） 会場 文学館ホール）5 月 22 日、同 23 日「羅生門」

○文学散歩
第 23 回文学散歩〈田端・両国〉2004 年 3 月 26 日、同 30 日 参加者数 113 人
（担当 半田典子、和田明子）

常設展 近代文学と神奈川Ⅰ 明治の文学―開港から日露戦争講和まで

期間 6 月 12 日～8 月 1 日（42 日間）
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 1,517 人（36 人／1 日平均）

企画展 神奈川の文学 鎌倉女学校と作家たち

創立 100 周年を迎え、「鎌女」の愛称で親しまれる鎌倉女学院の歩みを紹介すると共に、学校ゆかりの文学者の実績を併せて展観。

期間 8 月 7 日～9 月 26 日（42 日間）
会場 第 2 展示室
〔同時開催：常設展 近代文学と神奈川Ⅱ 大正の文学―日露戦後から関東大震災まで〕
入場者数 3,553 人（85 人／1 日平均）
共催 学校法人鎌倉女学院
○関連イベント
「神奈川の文学 鎌倉女学校と作家たち展」講演会
8 月 8 日「母 岸田麗子を語る」岸田夏子、酒井忠康 「父 大佛次郎を語る」野尻政子、安西篤子 入場者数 206 人
○刊行物
「神奈川の文学 鎌倉女学校と作家たち」リーフレット
判型：B6 判／頁数：8 頁／無料配布
（担当 藤野正、池上聡）

特別展 開館 20 周年記念収蔵コレクション展 作家の筆跡。作家の逸品。

開館 20 周年を迎え、原稿、書簡、創作ノートやメモ、日記、作家の身の回りの品、書画、稀覯本など、所蔵資料約 94 万点のなかから約 500 点を精選して公開。

期間 10 月 2 日～11 月 28 日（48 日間）
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 5,115 人（107 人／1 日平均）
後援 NHK 横浜放送局 神奈川新聞社 t v k（テレビ神奈川）
協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する経営者の会
○関連イベント

開館 20 周年記念リレートーク「文学・おもしろさへの誘い」



10 月 2 日 講演中の（左上から）紀田順一郎常務理事、安西篤子理事長、尾崎左永子理事、三木卓常務理事

10 月 2 日「思い出の作家たち」安西篤子、「ペンネームの終焉」紀田順一郎、「作歌の現場」尾崎左永子、「白

秋 三崎の恋」三木卓 入場者数 188 人
○刊行物
「開館 20 周年記念収蔵コレクション展 作家の筆跡。作家の逸品。」図録／判型：AB 判／頁数：80 頁／1,000 円
○展示説明会
10 月 30 日 21 人／11 月 13 日 28 人
○後援行事
「巨匠による文豪傑作映画 上映会」（開館 20 周年記念編）10 月 16 日、同 17 日 「ビルマの竖琴」（竹山道雄原作）／11 月 27 日、同 28 日 「赤西蠣太」（志賀直哉原作）（主催 中央興業（有） 会場 文学館ホール）
○共催行事
10 月 20 日～10 月 27 日 「近藤東生誕 100 年メモリアル展」（共催 横浜詩人会 会場 小会議室）同会編集発行の「近藤東生誕 100 年メモリアル展 栞」（判型：A5 判／頁数：12 頁）を無償配布。
（担当 藤本尚子、古川左映子、渡邊明子）

新常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第 1 部― 夏目漱石から萩原朔太郎まで

期間 12 月 4 日～2005 年 2 月 13 日（53 日間）
編集委員 富岡幸一郎（以後新常設展同）
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 2,174 人（41 人／1 日平均）

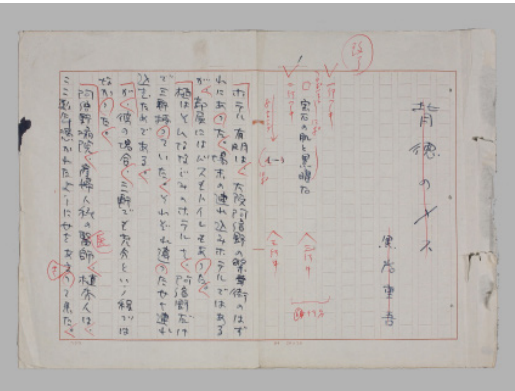
新常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第 2 部― 芥川龍之介から中島敦まで

期間 2 月 19 日～4 月 17 日（49 日間）
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 2,415 人（49 人／1 日平均）

【その他の主なイベント】
○講演会「私の本について話そう」
⑥ 6 月 12 日 『宇田川心中』小林恭二 入場者数 81 人／⑦ 10 月 9 日 『千の風になって』新井満 入場者数 129 人／⑧ 同 31 日 『コロボックル物語』佐藤さとる、『ざわざわ森のがんこちゃん』末吉暁子 入場者数 168 人／⑨ 11 月 20 日 『掌編 源氏物語』馬場あき子 入場者数 166 人／⑩ 12 月 4 日 『『会津土魂』作家生活 50 年』早乙女貢 入場者数 98 人
○秋の文化講演会
9 月 18 日 「いま、人間の魅力について」城山三郎 入場者数 450 人（共催 はまぎん産業文化振興財団 会場 はまぎんホールヴィアマーレ）
○文芸朗読会
2 月 20 日 吉川英治作「宮本武蔵」から 加藤武 入場者数 177 人
=====

【主な寄贈資料】
・岡松和夫常務理事寄贈：平井呈一の書と書簡、細田源吉短冊など
・金達寿文庫追加：「朴達の裁判」ほか原稿、「太白山脈」創作ノート、金史良ほか諸家書簡など特別資料 1,200 点
・中勘助資料：「肩すそさせのこぼろぎは…」「雨もかなし…」詩稿
・芥川龍之介資料：室生犀星宛書簡
・埴谷雄高文庫追加：小田切秀雄、高井有一など諸家書簡 50 点
・中山義秀文庫：「咲庵」「露命」「芭蕉庵桃青」ほか原稿、

日記、川端康成、横光利一ら諸家書簡、遺品など 1,330 点
・風間寛資料：「遠い崖」（萩原延寿著）挿絵原画 1,496 枚
・田邊孝治氏寄贈：吉行淳之介「湿った空乾いた空」、丹羽文雄「有情」原稿
・富永太郎資料：「火葬場」「門番さん」「上海の思い出」などの自筆画 18 点ほか
・神西清文庫追加：「鉢の木会」連歌帖 3 点、「チェーホフの芝居」など原稿 30 点、三島由紀夫、堀辰雄、川端康成初版本（署名本を含む）100 冊など
・夏目漱石資料：中川芳太郎筆 漱石「文学論」草稿ほか
・横山隆雄氏寄贈：横山隆一旧蔵の丹羽文雄「頂門の一針」、徳川夢声「鉢合せ」原稿、西條八十書など 29 点
・吉野秀雄資料：宮崎甲子衛宛書簡、歌誌「砂丘」掲載の原稿など 246 点
・島木健作資料、相沢良関連資料：島木健作書、表札、写真など 47 点
・黒岩重吾資料：「背徳のメス」「天の川の太陽」「闇の左大臣」などの原稿、創作ノートや江戸川乱歩、源氏鶏太、胡桃沢耕史らの書簡、遺品など 1,000 点、旧蔵書 2,150 冊



黒岩重吾『背徳のメス』原稿

・荻原井泉水文庫追加：草稿、日記、書画など 300 点、安斎桜碗子ら諸家書簡 85 点
・尾崎秀樹資料追加：旧蔵図書 250 冊と「苦楽」「シュビオ」など雑誌 600 冊、書簡など特別資料 300 点

【主な購入資料】
・林不忘「親分お眠り」原稿
・武田鶯塘作・尾崎紅葉筆「唐櫃」草稿
・尾崎秀樹「白川次郎のこと」原稿
・秋田雨雀「箱根日記」原稿
・古屋信子「昌徳宮の石人」原稿
・金達寿「濁酒の乾杯」原稿
・広津和郎「心臓の問題」原稿

【2004 年度の主なトピック】
・4 月、OPAC による特別資料所蔵情報の公開を開始し、原稿、印刷物、レプリカについてインターネット上で検索が可能になった。それに伴って特別資料専用の閲覧ブースを設置した。
・7 月、『県立神奈川近代文学館収蔵 特別資料リスト 1983 ～ 1989 年度受入』刊行。
・2005 年 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 14 楠本憲吉文庫目録』刊行。
・館紹介ビデオ「文学館の魅力」（16 分）をリニューアル製作。
・日本近代文学館と共同で夏目漱石展パッケージを制作。
・雑誌内容書誌の遡及を開始。

次年度以降の文学館運営について指定管理者制度による公募プロポーザルが行われた。7 月 20 日に指定管理者評価会議が開催され、当財団が 2006 年度から 5 年間の指定管理者に選定された。また制度導入に伴い、11 月の県監査で寄贈資料の帰属の明確化について指摘があり、協議を重ねた結果、従来の県と財団の共有財産という解釈を改め、寄贈資料を全て県財産に登録した上で、その利活用は県、財団双方の合意が必要となる協定を締結した。これにより所蔵資料の 8 割以上が協定の対象となり、今後の指定管理者公募における留意点となると思われる。資料の面では年間で約 41,000 点の寄贈があり、前年度に寄贈された黒岩重吾資料が 40 番目の文庫となった。

春の特別展「三島由紀夫展」は観覧者数が 15,000 を超え、若年層の動員などに成果をあげた。また、秋は「日本の童謡展」を開催して 8,600 人超の入場者があった。さらに常設展と併設の小規模企画展「島木健作展」「伊藤信吉展」を開催した。また、文字・活字文化振興法の施行に伴い、10 月 27 日の「文字・活字文化の日」を中心に講演会など各種行事を実施したほか、閲覧室で貴重書籍のミニ展示を行い、閲覧利用の促進をはかった。

またこの年度から、年ごとの新収蔵資料を展示室で一般公開するようになった。

財団運営では、年度末の理事会で安西篤子理事長（兼文学館館長）が顧問となり、新たに紀田順一郎常務理事が理事長に就任した。



三島由紀夫展会場風景

特別展 生誕 80 年・没後 35 年記念展 三島由紀夫 ドラマティックヒストリー

三島由紀夫の生涯と作品を、山中湖文学の森・三島由紀夫文学館所蔵の資料を核として、近年発見された数多くの新資料も加えて、編年体で総合的に紹介。

期間 4 月 23 日～6 月 5 日（37 日間）

編集委員 佐伯彰一

編集協力 井上隆史、佐藤秀明

会場 第 2・第 3 展示室

入場者数 15,028 人（406 人／1 日平均）

共催 山中湖文学の森・三島由紀夫文学館

後援 新潮社、NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）

協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する経営者の会
○関連イベント

4 月 30 日 朗読会「海と夕焼」「橋づくし」「女方」岸田

今日子 入場者数 494 人（会場 はまぎんホールヴィア
マーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）／5 月 4 日、
同 5 日 映画会「炎上」（三島由紀夫原作）入場者数 4
回上映計 706 人（共催 文芸映画を観る会）／同 8 日
講座「多面体・三島由紀夫」島田雅彦 入場者数 224 人
／同 15 日 講座「三島由紀夫と私」辻井喬 入場者数
236 人／同 22 日 講座「小説家三島由紀夫の死の意味」
高橋睦郎 入場者数 223 人／同 29 日 講座「三島由紀
夫という作家」猪瀬直樹 入場者数 228 人



5 月 15 日 講演中の辻井喬氏

○ギャラリートーク

開催期間中の土曜日に計 2 回実施／計 77 人

○刊行物

『生誕 80 年・没後 35 年記念展 三島由紀夫 ドラマティッ
クヒストリー』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

○ビデオ制作

「三島由紀夫と『午後の曳航』」（監修：井上隆史 17 分）
（担当 半田典子、池上聡）

新常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第 3 部 一太宰治、三島由紀夫から現代まで

期間 6 月 11 日～7 月 31 日（42 日間）

編集委員 富岡幸一郎

会場 第 2・第 3 展示室

入場者数 2,207 人（53 人／1 日平均）

企画展 没後 60 年 島木健作展

農民運動、獄中生活など過酷な体験をもとに数々の作品を選
し、42 歳で早世した神奈川ゆかりの作家・島木健作の生涯
と文学を没後 60 年を記念して紹介。

期間 8 月 6 日～9 月 25 日（43 日間）

会場 第 3 展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 1 部〕
入場者数 2,110 人（49 人／1 日平均）

○関連イベント

8 月 13 日 講演会 「わたしと鎌倉そして島木健作」
永井路子、「島木健作・北方の魂」新保祐司 入場者数
170 人

（担当 藤野正、池上聡）

特別展 日本の童謡 白秋、八十ーそしてまど・ みちおと金子みすゞ展

北原白秋、西條八十、まど・みちお、金子みすゞの 4 詩人を中心
に日本の童謡の世界を紹介。没後 60 年を迎える詩人・野口雨情
や、山田耕筰、成田為三、本居長世、中山晋平、團伊玖磨ら童謡
の代表的な作曲家たちにもスポットをあてた。

期間 10 月 1 日～11 月 13 日（37 日間）

編集委員 上笙一郎、三木卓

会場 第 2・第 3 展示室

入場者数 8,663 人（234 人／1 日平均）

共催 朝日新聞社、神奈川新聞社

後援 社団法人日本国際児童図書評議会（J B B Y）、社
団法人日本童謡協会、NHK 横浜放送局、t v k（テレビ神奈川）

協力 金子みすゞ著作保存会、金子みすゞ顕彰会、J U L
A 出版局

協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する経営者の会
○関連イベント

10 月 8 日、同 9 日 映画会「みすゞ」入場者数計 245
人／同 10 日 講演会「白秋、八十、雨情の童謡」三木
卓 入場者数 165 人／同 16 日 童謡のつどい（第 1 部・
おはなし／第 2 部・童謡ミニコンサート）鈴木すず、フェ
リス女学院大学音楽学部大学院生 入場者数 200 人／同
29 日 講演会（「私の本について話そう」⑬）『童謡詩
人 金子みすゞの生涯』矢崎節夫 入場者数 214 人



10 月 10 日 講演中の三木卓常務理事

○ギャラリートーク

開催期間中の土曜日・日曜日に計 2 回実施／計 58 人

○刊行物

『「日本の童謡 白秋、八十ーそしてまど・みちおと金子
みすゞ」展』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円
（担当 北村陽子、古川左映子、渡邊明子）

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第 2 部ー 芥川龍之介から中島敦まで

期間 11 月 19 日～2006 年 1 月 15 日（41 日間）

会場 第 2・第 3 展示室

入場者数 1,819 人（44 人／1 日平均）

企画展 生誕 100 年 伊藤信吉展

2003 年に群馬県立土屋文明記念文学館で開催された「伊藤
信吉展」を圧縮して構成、神奈川ゆかりの詩人としての業績
も紹介。

期間 1 月 21 日～3 月 5 日（38 日間）

会場 第 3 展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 3 部〕

入場者数 1,655 人（44 人／1 日平均）

共催 群馬県立土屋文明記念文学館

○関連イベント

2 月 12 日 講演会「伊藤信吉と横浜ー『現代詩の鑑賞』
と『詩のふるさと』」暮尾淳、千早耿一郎、龍沢友子（詩
朗読）入場者数 79 人

（担当 藤野正、池上聡）

新収蔵資料展 2005 年度

期間 3 月 11 日～4 月 16 日（31 日間）

会場 第 3 展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 1 部〕
入場者数 1,412 人（46 人／1 日平均）

【その他の主なイベント】

○講演会「私の本について話そう」

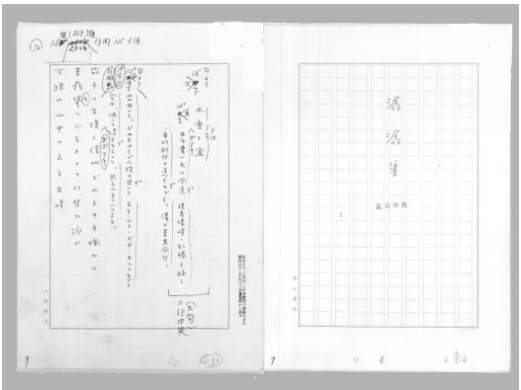
⑪ 6 月 25 日 『ヴィーナス★ゴールド』山崎洋子 入
場者数 92 人／⑫ 9 月 23 日 『枯葉の中の青い炎』辻
原登 入場者数 123 人／⑬ 12 月 4 日 『帰宅の時代』
林望 入場者数 136 人

○文芸朗読会

2 月 25 日 開高健「日本三文オペラ」永井一郎 入
場者数 104 人

【主な寄贈資料】

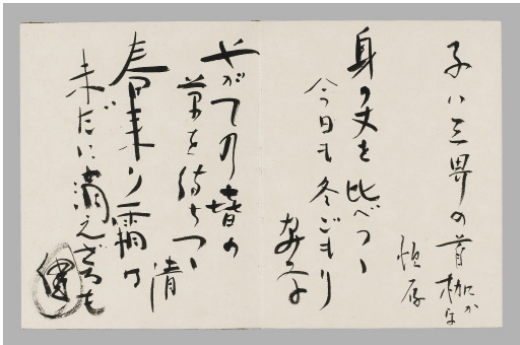
・大野林火文庫追加：『青水輪』原稿や書など 221 点、「浜」
など雑誌 1,610 冊、図書 1,526 冊



大野林火『潺潺集』原稿

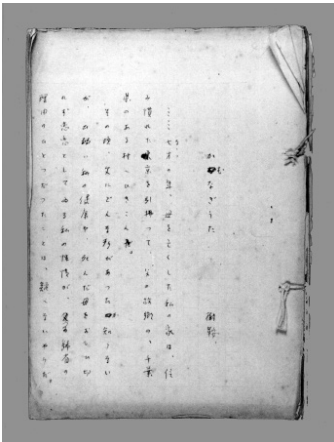
・尾崎左永子理事寄贈：『源氏の明り』『竹久夢二抄』『源
氏の恋文』ほか原稿や書など 300 点

- 松永浩介資料：『一兵士の戦中通信』所収の書簡 200 点、小熊秀雄『飛ぶ櫓』の伏字部分を小熊自身が起こし書き入れたものや壺井繁治書など
- 神西清文庫追加：ツルゲーネフ「けむり」ほかロシア・フランス文学の翻訳・脚色原稿、書評や解説原稿、日記、創作ノート、折口信夫らの色紙など 250 点、著訳書ほか旧蔵書 700 冊



神西清ほか「鉢の木会」連歌帖

- 吉田■生資料：大岡昇平、江藤淳、中村光夫書簡や研究メモなど 145 点、小林秀雄著書や関連の図書 382 冊、雑誌 146 冊
- 谷田昌平資料：堀辰雄書き込みの「堀辰雄年譜稿」原稿、文壇関係アルバムなど 16 点
- 新井満評議員寄贈：『千の風になって』ほか原稿、著書など 170 点
- 堀田善衛文庫追加：「鶴のいた庭」「満開の花の下に」、絶筆「故園風来抄」第 32 回原稿、開高健、川端康成、中野重治、埴谷雄高らの書簡、平野謙宛書簡下書きなど 80 点
- 西條八十資料：児島喜久雄画『一握の玻璃』装幀原画、雑誌「紺青」や図書、写真など西條八十資料 39 点
- 日影丈吉資料：「かむなぎうた」初稿、「海辺の町の話」「蜃気楼」など草稿、「Arrangement」などの創作ノート、スケッチブックなど 300 点



日影丈吉「かむなぎうた」原稿

- 西條八十文庫追加：詩、翻訳、少女小説、歌謡などの原稿、仏文学講義などのノート、家族宛書簡、日夏耿之介や堀口大率らの書簡、色紙、遺品類など 5,000 点、旧蔵図書雑誌 400 冊
- 尾崎一雄文庫追加：「すみっこ」「虫も樹も」原稿、戦中

- のものを含む手帳、書・色紙、落款印ほか遺品など 150 点
- 南谷行宏氏寄贈：中勘助著書初版本 28 冊、佐藤春夫、伊藤左千夫、吉井勇の書幅 4 点
- 尾崎秀樹資料追加：「現代挿絵考」『鲁迅との対話』ほか原稿 500 点、大原富枝、高垣眸、吉村昭ほか諸家書簡 4,000 点
- 富士川英郎資料：「菅茶山」ほか原稿、創作ノート、日記、色紙、執筆関連資料など 218 点、著書や旧蔵書など図書・雑誌 667 冊

【主な購入資料】

- 北原白秋「鷺ペン」原稿
- 西條八十短冊「人去れりとてなに寂しからむ…」
- 吉屋信子「贖罪」原稿、「潮音頭」草稿、句稿
- 尾崎士郎 坂口安吾宛書簡
- 島木健作 木内高音宛、三宅正太郎宛、桤崎勤宛書簡
- 雑誌 「黒潮」6 冊（1917（大正 6）～1918）

【2005 年度の主なトピック】

- 7 月、特別資料のうち書画、旧蔵品についてインターネット上での検索が可能になった。
- 10 月、閲覧室で館蔵の稀覯本を展示。以後 2009 年度まで、様々なミニ展示を企画。
- 2006 年 3 月、「新収蔵資料展」として、新資料の一般公開を開始。
- 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 15 藤田圭雄文庫目録〈特別資料〉』刊行。

2006（平成 18）年度

紀田順一郎新理事長のもとで指定管理者制度の初年度が始まり、従来以上に事業収入、利用者数に配慮し、集客や収益性を重視した運営を心懸けた。

春の特別展は「吉屋信子展」を開催し、館蔵の吉屋資料を中心に幅広い交友関係进行展示。展示準備の過程で「良人の貞操」全原稿を収集した。秋は荻原井泉水資料の受贈を記念し、短詩型文学初の総合展「俳句 その魅力展」を開催。俳句人口の動員を期待したが、65 歳以上の比率が高く収益面では伸び悩んだ。会期中に参加型イベントの投句大会を開催した。作品募集、選考など、事業の継続性、周知のためのネットワークの重要さなどのポイントが浮き彫りになった。本年度は特別展以外に 2 つの企画展「中野孝次展」「露伴、茂吉、寅彦と小林勇展」を開催した。

文字・活字文化の日を記念して、荒俣宏評議員と紀田理事長が対談し、書物に関する該博な知識を披露。また、はまぎんホールヴィアマーレで講演会を 2 回実施、新井満理事を講師として湘南国際村センターで文学散歩兼講演会を開催した。



10 月 27 日 文字・活字文化の日記念対談に出演した紀田順一郎理事長（左）と荒俣宏評議員

資料に関しては中島家遺族、中島敦の会、故田鍋幸信氏の遺族の尽力により、日本大学法学部所蔵の中島敦旧蔵書が当館の中島文庫に合体され、中島資料がほぼすべて当館に集結した。ほかに櫻井書店資料、福田恆存資料など特色ある資料が館蔵に加わった。また、段階的に進めてきたネット公開では、自筆資料と書簡類が加わり、ほぼすべての特別資料が検索対象となった。

特別展 生誕 110 年 吉屋信子展－女たちをめぐる物語

少女小説の第一人者で鎌倉ゆかりの作家・吉屋信子。その生涯を約 500 点の原稿、書簡、自筆資料、遺愛品などの貴重な資料で展示するとともに、近代女性史に足跡を残した女性たちとの多彩な交流も併せて展示。

- 期間 4 月 22 日～6 月 4 日（39 日間）
- 編集委員 安西篤子、岩淵宏子
- 会場 第 2・第 3 展示室
- 入場者数 7,488 人（192 人／1 日平均）
- 後援 NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
- 協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する会、国書刊行会
- 関連イベント
4 月 30 日 朗読会『徳川の夫人たち』より 五大路

子 入場者数 206 人／5 月 3 日 講演会「吉屋信子の少女小説－『花物語』を中心に」 嶽本野ばら 入場者数 218 人／同 6 日 朗読会『鬼火』『童貞女昇天』新井純 入場者数 116 人／同 13 日 朗読会『あの道この道』より 伊藤かずえ 入場者数 118 人

- ギャラリートーク
開催期間中の土曜・日曜日に計 2 回実施／計 82 人
- 刊行物
『生誕 110 年 吉屋信子展－女たちをめぐる物語』図録 判型：B5 判／頁数：52 頁／700 円
(担当 半田典子、池上聡)

企画展 中野孝次展－今ここに生きる

磯子区洋光台に居を構えた神奈川ゆかりの作家で、2004 年 7 月に逝去するまで 11 年間にわたり財団法人神奈川文学振興会理事長を務めた中野孝次の生涯と作品を概観。

- 期間 6 月 10 日～7 月 30 日（44 日間）
- 会場 第 3 展示室
- [同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 2 部]
- 入場者数 5,339 人（121 人／1 日平均）
- 後援 NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
- 協賛 岩波書店、海竜社、講談社、集英社、草思社、文藝春秋、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
- 関連イベント
7 月 1 日 講演会「作家・中野孝次の生き方－担当編集者 28 年の思い出」高橋一清 入場者数 294 人
- 刊行物
『中野孝次展－今ここに生きる』図録 判型：B5 判／頁数：36 頁／600 円
- 共催行事（共催 文芸映画を観る会）
文芸映画を観る会 中野孝次展映画会 7 月 15 日、同 16 日「ハラスのいた日々」 入場者数計 452 人
(担当 鎌田邦義、藤野正)

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第 3 部－太宰治、三島由紀夫から現代まで

- 期間 8 月 5 日～9 月 24 日（45 日間）
- 会場 第 2・第 3 展示室
- 入場者数 2,176 人（48 人／1 日平均）

特別展 俳句 その魅力展—子規 漱石 虚子 井
泉水 山頭火 (荻原井泉水文庫受贈記念)

「萩原井泉水文庫」受贈を記念し、当館初の本格的な俳句文学の展覧会として開催。前半では、近代俳句の黎明期から現代に至る伝統俳句の系譜を紹介。後半では「井泉水文庫」資料を軸に井泉水の生涯と自由律俳句の歴史をたどり、門下の尾崎放哉、種田山頭火の業績とともに展示した。

期間 9月30日～11月12日(39日間)
編集委員 鷹羽狩行、村上護
会場 第2・第3展示室
入場者数 6,154人(158人／1日平均)
後援 社団法人俳人協会、現代俳句協会、社団法人日本伝統俳句協会、角川書店・角川学芸出版、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k(テレビ神奈川)
協賛 神奈川近代文学館を支援(サポート)する会
○関連イベント

10月14日 講演会「闘う人、虚子」長谷川耀 入場者数286人／同20日「俳句 その魅力展」記念俳句大会「一般の部 投句選評会・講話」星野椿 入場者数93人／同21日 講演会「山頭火の旅と俳句」村上護 入場者数192人／同22日「俳句 その魅力展」記念俳句大会「ジュニアの部 投句選評会・講話」復本一郎 入場者数48人



10月20日 俳句大会一般の部受賞者との記念撮影 選者の星野椿氏(前列中央左)と紀田順一郎理事長(中央右)

○ギャラリートーク
開催期間中の土曜・日曜日に計 2 回実施／計 46 人

○刊行物
『俳句 その魅力展—子規 漱石 虚子 井泉水』図録
判型：B5判／頁数：64頁／900円
(担当 古川左映子、野見山陽子)

企画展「露伴、茂吉、寅彦と小林勇展 一本の道
ある出版人の軌跡」

岩波書店創設者・岩波茂雄の薫陶を受けた出版人・小林勇の足跡を幸田露伴、斎藤茂吉、寺田寅彦との交流を交えて展示。

期間 11月18日～2007年1月14日(44日間)
会場 第3展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部]
入場者数 3,427人(78人／1日平均)
後援 岩波書店、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v
k(テレビ神奈川)
協賛 神奈川近代文学館を支援(サポート)する会、東京
急行電鉄

○関連イベント
11月19日 講演会「小林勇さんのこと」青木玉、「一本の道」小松美沙子 入場者数227人／露伴、茂吉、寅彦と小林勇展」展記念岩波映画上映会 11月30日「或る出版社五十年」ほか、12月1日「教室の子供たち 学習指導への道」ほか 入場者数計67人



11月19日 講演中の青木玉氏

○刊行物
『露伴、茂吉、寅彦と小林勇展』図録 判型：B5判／頁
数：24頁／600円

(担当 半田典子、藤野正)

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第2部
ー芥川龍之介から中島敦まで

期間 1月20日～3月4日(39日間)
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,618人(41人／1日平均)

新収蔵資料展 2006 年度

期間 3月10日～4月15日(32日間)
会場 第3展示室
〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部〕
入場者数 1,407人(44人／1日平均)

【文字活字文化振興事業などその他のイベント】

○子ども読書活動推進フォーラム
4月23日 講演会（「私の本について話そう」⑤）『あ
らしのよるに』きむらゆういち 入場者数236人
10月28日 『子ども、遊び、絵本』かこさとし 入場
者数402人（会場 はまぎんホールヴィアマール）共
催 はまぎん産業文化振興財団

○春の文化講演会
4月29日「誰かとどこかで」永六輔 入場者数478人（会場 はまぎんホールヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）

○講演会「私の本について話そう」
 ⑬ 9月18日『孫が読む漱石』夏目房之介 入場者数
 231人／⑭ 2007年3月3日『ニューヨーク地下共和
 国』梁石史 入場者数118人／⑮ 同18日『湘南太平
 記』斎藤栄 入場者数185人

○文字・活字文化の日記念対談
10月27日「東西読書文化考」荒俣宏、紀田順一郎
入場者数 124人

○文学散歩と湘南国際村・講演会
2007年2月25日「いのちについて」新井満 入場者
数人 127人（会場・共催 湘南国際村）

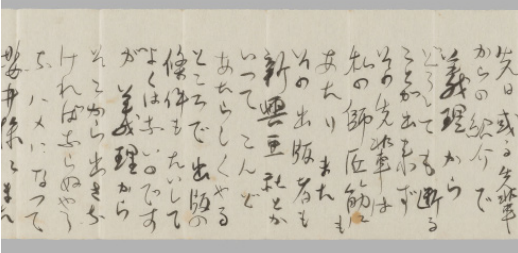
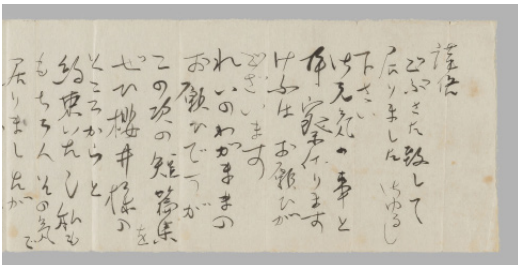


2007年2月25日 湘南国際村との共催講演会で講演中の新井満理事

○朗読会
12月24日「網走まで」「或る朝」(志賀直哉著)篠田三郎 入場者数 227人

【主な寄贈資料】

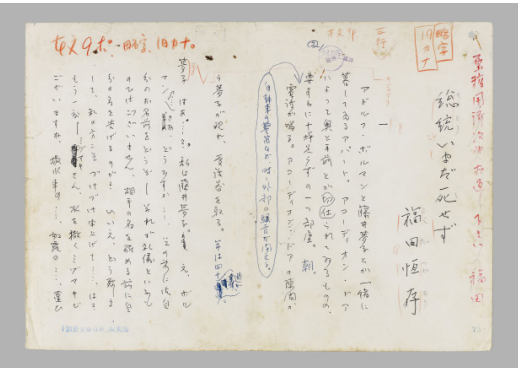
- ・中野孝次文庫追加：日記、「はみだした明日」などの創作ノートや読書ノート、初期草稿、「季節の終り」「ガン日記」など原稿、大岡昇平ら諸家書簡、「我が愛スル唐詩抄」ほか書、文書類、遺品、愛読書など 400 点
- ・吉野秀雄文庫追加：登美子夫人宛書簡、最晩年の日記帳、会津八一朱墨入「詠草」原稿など 24 点、旧蔵書 26 冊
- ・櫻井書店関係資料：石川清「義貞記」、稲垣足穂「彼等」「古典物語」、大木実「遠雷」、田中英光「われは海の子」「鈴の音」、吉井勇「旅塵」などのほか、佐藤春夫、里見弴、近松秋江、室生犀星らの原稿 40 点、猪熊弦一郎、鈴木信太郎、寺田政明、野間仁根、古沢岩美らの装幀原画 40 点、三好十郎、淡路呼潮、太宰治、原保雄二郎、中川一政からの書簡 170 点、版木、図書など 300 点



太宰治 櫻井均宛書簡 1943 (昭和 18) 年 1 月 30 日 (部分)

- ・久保寺洋子氏寄贈：浜田広介色紙、東本春水著書の序文原稿など 15 点

- ・吉屋信子資料追加：「空の彼方へ」創作ノート、句帖、石塚友二、久保田万太郎、女学正雄らの短冊、宇野千代、塚田たまけらの書簡、小学校時代の作文、小学校卒業証書、奥村博史作指輪、執筆誌など
- ・斎藤茂吉資料：野崎富美枝氏斎藤茂吉書簡 4点、終戦前後の茂吉の動向などを伝える斎藤茂吉書簡（代筆）、茂吉発行の野崎青三男宛貸家料領収証など 12点
- ・寛楨二評議員寄贈：「石女の肌の白さよ…」色紙、加藤楸邨書「天の川鷹は飼はれて睡りを…」色紙、檀一雄書「日向なる大淀川や寄る波に…」色紙など
- ・福田恆存資料：評論「一度は考へておくべき事」「常識に還れ」、戯曲「総統はまだ死せず」、シェイクスピア作品や「老人と海」などの翻訳、小説「由香子の秘密」など原稿 50点、チャタレイ裁判関係資料、愛用の弓具一式など



福田恆存「総統いまだ死せず」原稿

- ・唐沢隆三氏寄贈：「奥の細道ノート」ほか原稿、荻原井泉水ら「層雲」同人の句稿、井泉水、栗林一石路、河東碧梧桐書簡 14 点、種田山頭火、青木此君楼、秋山秋紅蓼らの書画 12 点、「層雲」関連印刷物、俳誌「初雁」「骨」など
- ・新井満理事寄贈：「カフカの外套」ほか原稿 5 点、校正刷、執筆・関連誌 60 冊など
- ・小川国夫資料：原稿、書、書簡、肖像写真、限定本など 70 点

【主な購入資料】

- ・金達寿「密航者」原稿
- ・島木健作「一風景」原稿
- ・吉屋信子「良人の貞操」原稿
- ・中島敦旧蔵書一括 3,774 冊

【2006年度の主なトピック】

- ・7月、特別資料のうち日記、ノート類など自筆資料、書簡について OPAC 公開し、収蔵する特別資料のほぼ全てがインターネット上で検索が可能となった。
- ・2007年3月、「県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録16 滑川道夫文庫目録-1〈特別資料・雑誌〉」刊行。

春の特別展では中原中也記念館と共催で「中原中也と富永太郎展」を開催。中也の生誕 100 年を記念し、二人の詩人の交流を軸に展覧し、富永の再評価を図って好評を得た。秋の特別展「埴谷雄高『死霊』展」では、館蔵の埴谷雄高文庫への追加寄贈の中から『死霊』の構想メモが新たに見つかり、大きく報道された。

新たな試みとして、夏休みの子どもを主な対象に児童文学展「佐藤さとる コロボックル物語展」を開催。半世紀近く読み継がれるロングセラーの実力を示し、多くの親子連れが来館した。また、同展から県及び横浜市教育委員会の後援を得て、横浜市内の公立小中学校の全生徒にチラシ配布を行い、より集客力が高まった。さらに館蔵資料を活用した『『食道楽』の人 村井弦斎』『生誕 100 年記念 井上靖展』『新収蔵資料展 山本七平コーナー』など当館ならではの小規模展、はまぎんホールヴィアマーレ、湘南国際村など他ホールでの共催大型イベント等を実施した。そのほか、イラストルボライターの内澤旬子氏がカラーイラスト付きで当館の所蔵資料を紹介する新聞連載も行われ、ユニークな企画が館の知名度アップに役立った。

資料の増加点数は約 16,000 余り、主な寄贈としては『澤東綺譚』私家版、『月に吠える』無削除本など稀覯本が含まれる故磯田光一理事の旧蔵資料があげられる。

故中野孝次元理事長夫人・秀氏が逝去され、2008 年 2 月、故理事長の遺志により著作権が財団へ寄付された。また、秀夫人からは生前に 2,000 万円の使途指定寄付を頂き、基本財産へと充当された。

特別展 中原中也と富永太郎展―二つのいのちの花火

中原中也と富永太郎という二詩人の出会いと作品世界に焦点を当てた。中原中也記念館の所蔵資料及び当館蔵の〈富永太郎資料〉、〈大岡昇平文庫〉資料を中心に展観。

期間 4 月 21 日～6 月 3 日（39 日間）
編集委員 中村稔
編集協力 中原豊
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 8,202 人（210 人／1 日平均）
共催 中原中也記念館
後援 N H K 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 角川学芸出版・角川グループパブリッシング、講談社、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会、東京急行電鉄

○関連イベント
4 月 22 日 朗読会「中原中也、富永太郎の詩ほか」 穂谷友子 入場者数 229 人／同 28 日 講演会「富永太郎の詩絵のこと」窪島誠一郎 入場者数 179 人／5 月 6 日 講演会「なぜ中原中也か」高橋睦郎 入場者数 199 人

○刊行物
『中原中也と富永太郎展―二つのいのちの花火』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計 6 回実施／計 262 人
○ビデオ制作
「富永太郎と『山蔭』」（監修：樋口覚 15 分）
（担当 鎌田邦義、池上聡）

収蔵資料展 生誕 100 年記念 井上靖展

生誕 100 年を記念して、館蔵の〈井上靖文庫〉資料から初期詩稿、「しろばんば」「本覚坊遺文」原稿、中国取材ノートなど約 150 点を展示し、井上の多彩な文学世界を紹介。

期間 6 月 9 日～7 月 29 日（45 日間）
会場 第 3 展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 1 部]
入場者数 2,600 人（58 人／1 日平均）
○関連イベント
6 月 30 日 朗読会「井上靖『敦煌』から」久米明 入場者数 231 人
○共催行事（共催 文芸映画を観る会）
文芸映画を観る会 井上靖展映画会 7 月 14 日、同 15 日「黒い潮」（原題：『黯い潮』） 入場者数計 234 人
（担当 藤野正、野見山陽子）

企画展 佐藤さとる コロボックル物語展―だれも知らない小さな国

日本児童文学で初めてファンタジーの世界を切り開いた佐藤さとる。前半で幼年時代から作品発表までを、後半では村上勉の挿絵原画を交えてコロボックルの世界を紹介。

期間 8 月 4 日～9 月 30 日（52 日間）
会場 第 3 展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 2 部]
入場者数 8,494 人（163 人／1 日平均）
後援 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 あかね書房、講談社、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
○関連イベント
8 月 4 日 講演会（「私の本について話そう」㊹）「本朝奇談 天狗童子」佐藤さとる、柴田祐規子（聞き手） 入場者数 224 人／9 月 9 日 秋の朗読コンサート『『佐藤さとる コロボックル物語展』によせて』語りと音楽「花音」 入場者数 138 人



8 月 4 日 講演後のサイン会でサインに応じる佐藤さとる評議員

○刊行物
「佐藤さとる コロボックル物語展」リーフレット 判型：A5 判／頁数：8 頁／無料配布
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計 8 回実施／計 142 人
（担当 野見山陽子、藤野正）

特別展 無限大の宇宙―埴谷雄高『死霊』展

無限の精神世界の構築をめざし、同時代の人々に比類のない大きな影響を与えた作家・評論家の埴谷雄高を紹介。13,000 点にも及ぶ寄贈資料から『死霊』を中心に展示。

期間 10 月 6 日～11 月 25 日（45 日間）
編集委員 秋山駿、司修
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 5,421 人（120 人／1 日平均）
後援 埴谷島尾記念文学資料館、講談社、N H K 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する会、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄

○関連イベント
10 月 7 日 講演会「100 年後のぶふい」島田雅彦 入場者数 208 人／10 月 13 日 講座「21 世紀に生きる『死霊』」立石伯 入場者数 101 人／10 月 20 日 朗読会「埴谷雄高『死霊』五章「悪魔の世界」から」寺田農、奥澤竹彦（音楽） 入場者数 150 人

○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計 7 回実施／計 127 人
○刊行物
『無限大の宇宙―埴谷雄高「死霊」展』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円
○共催行事（共催 文芸映画を観る会）
文芸映画を観る会 埴谷雄高展映画会 11 月 10 日「戦争は終わった」、同 11 日「白痴」 入場者数 64 人／135 人
（担当 半田典子、渡辺恵理）

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第 3 部―太宰治、三島由紀夫から現代まで

期間 12 月 1 日～2008 年 1 月 14 日（33 日間）
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 1,174 人（36 人／1 日平均）

収蔵コレクション展 8 『食道楽』の人 村井弦斎

日本人の家庭生活の改善と合理化を目指した村井弦斎の人と作品を、明治・大正期のベストセラー『食道楽』をはじめとする多くの啓蒙小説を中心に、当館所蔵の弦斎資料から紹介。

期間 1 月 19 日～3 月 2 日（39 日間）
会場 第 2 展示室

[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 1 部]
入場者数 1,943 人（50 人／1 日平均）

○関連イベント
1 月 26 日 「食道楽」体験イベント展示関連食品の試食・家族あわせゲーム 入場者数 27 人（会場 中会議室）／2 月 2 日 講演会（「私の本について話そう」㊹）『『食道楽』と日露戦争』黒岩比佐子 入場者数 160 人／2 月 16 日 朗読コンサート『『食道楽』から ほか』語りと音楽「花音」 入場者数 120 人
○刊行物
「収蔵コレクション展 8『食道楽』の人 村井弦斎」リーフレット 判型：A5 判／頁数：8 頁／無料配布
（担当 藤野正、渡辺恵理）

新収蔵資料展 2007 年度／コーナー：山本七平と山本書店

ご遺族からの寄贈資料をもとに評論家山本七平の生涯と著作を展観。彼が創業した山本書店の全刊行物も展示した。

期間 3 月 8 日～4 月 20 日（38 日間）
会場 第 3 展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 2 部]
入場者数 1,846 人（49 人／1 日平均）
（担当 鎌田邦義）

【文字活字文化振興事業などその他のイベント】
○春の文化講演会
4 月 30 日 『『中原の虹』をめぐって』浅田次郎 入場者数 421 人（会場 はまぎんホールヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）
○子ども読書活動推進フォーラム
10 月 27 日 「たくさんのおともだち」中川李枝子 入場者数 384 人（会場 はまぎんホールヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）
○文字・活字文化の日記念対談
10 月 28 日 「作家と想像力―幻想怪奇文学の発見」紀田順一郎、荒俣宏 入場者数 101 人
○湘南国際村文化講演会
2008 年 2 月 10 日 「私の鎌倉・葉山」養老孟司 入場者数 189 人（会場 湘南国際村センター）

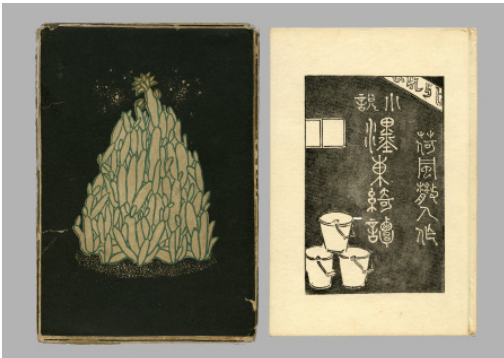


2 月 10 日 講演中の養老孟司氏

○講演会「私の本について話そう」
㊹ 4 月 21 日 子ども読書活動推進フォーラム「ねずみくんのチョッキ」なかえよしを 入場者数 181 人／
㊺ 2008 年 3 月 8 日 『昭和史』半藤一利 入場者数 239 人

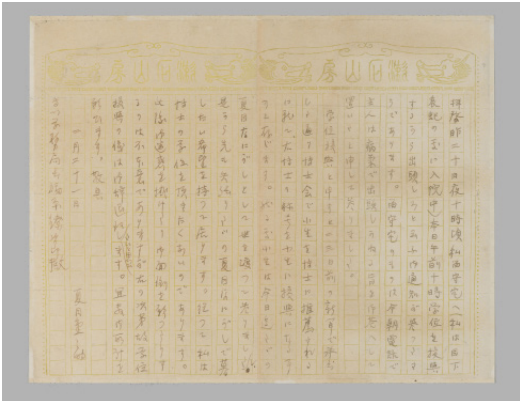
【主な寄贈資料】

- 慶應義塾大学推理小説同好会寄贈：「推理小説論叢」掲載の江戸川乱歩らの原稿や書簡 22 点
- 中島敦文庫追加：衣類や時計などの遺品、証書類、中島や家族宛書簡など 45 点
- 中野孝次文庫追加：原稿 2 点、ノート（日記）4 冊、中野宛埴谷雄高、寺田透、藤枝静男、本多秋五ら諸家書簡 30 点、硯などの遺愛品や良寛関係ほか旧蔵書 600 冊
- 磯田光一資料：萩原朔太郎『月に吠える』無削除本など稀覯本を含む文学書、雑誌 5,000 冊、「戦後史の空間」「鹿鳴館の系譜」などの原稿、執筆ノート、開高健、塚本邦雄ら磯田宛諸家書簡など特別資料 500 点



（左）「萩原朔太郎『月に吠える』無削除本
（右）永井荷風『瀬東綺譚』私家版

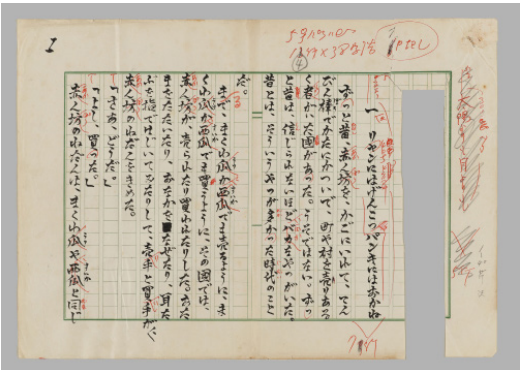
- 堀田善衛文庫追加：「故園風来抄」「武田泰淳へ」など原稿 9 点、戦時中の手帳、堀田宛書簡など
- 埴谷雄高文庫追加：「死霊」草稿及び初期の構想案を含む創作メモ 2 函、「暗黒の夢」など原稿 8 点、野球ユニフォームなど
- 紀田順一郎理事長寄贈：同人誌「THE HORROR」及び同誌掲載の平井呈一原稿など 17 点
- 夏目漱石資料：福原隼二郎宛書簡など



夏目漱石 福原隼二郎宛書簡
1911（明治 44）年 2 月 21 日

- 古山登元理事寄贈：佐藤春夫、井上靖、水上勉、源氏鶏太らの色紙、井伏鱒二らの書簡など 50 点
- 室生犀星資料：犀星宛芥川龍之介書簡 1 点、書「七日あまり鶯鳴きて春立ちぬ」1 点
- 神西清文庫追加：「ワーニャ伯父さん」「かもめ」「三人姉妹」の訳稿と影印本 3 冊

- 平塚武二資料：「横浜のサギ山」「太陽よりも月よりも」など原稿約 70 点、「おはなし出てこい」などの台本約 80 点のほか、執筆切抜、図書、雑誌など 200 点



平塚武二「太陽よりも月よりも」原稿

- 櫻井書店関係資料：岩崎ちひろ表紙原画、脇田和、村山知義、中川一政らの装幀原画、田中英光『我が西遊記』ほかの表紙刷取、尾崎士郎、田中英光の櫻井均宛書簡など 180 点
- 長崎源之助評議員寄贈：平塚武二原稿「動物のいない動物園」「くじらのおよめさん」など 10 点、関英雄書簡 1 点

【主な購入資料】

- 中野孝次「良寛」原稿
- 埴谷雄高「宇宙の鏡」原稿
- 中河与一「天の夕顔」創作ノート

【2007 年度の主なトピック】

- 8 月、夏の児童文学展を開催。以後毎夏に児童文学展を実施。横浜市内の公立小中学校の全生徒に展覧会チラシを配布。
- 2008 年 3 月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録 17 滑川道夫文庫目録-2〈図書〉』刊行。

開催期間中の金曜日に計 6 回実施／計 103 人

○ビデオ制作

「澁澤龍彦というサロン」（監修：高橋睦郎 14 分）



5 月 3 日 対談中の高橋睦郎氏と澁澤龍子氏（澁澤龍彦夫人）

（担当 野見山陽子、池上聡）

企画展 文学館交流展 1 台湾文学館の魅力―その多彩な世界

日本と歴史上深いつながりのある台湾の多彩な作家・作品を、開館から 5 ヶ年を迎えた国立台湾文学館の活動や所蔵資料と共に紹介。

期間 6 月 14 日～8 月 3 日（45 日間）

会場 第 3 展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 3 部〕

入場者数 1,879 人（42 人／1 日平均）

共催 国立台湾文学館、文建会（台湾行政院文化建設委員会）

後援 NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）

協賛 東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント

6 月 14 日 対談「台湾文学の魅力」藤井省三、紀田順一郎 入場者数 103 人／6 月 15 日 講座「台湾における梁啓超と呉新榮―日本統治下のある中国知識人と台湾知識人の台湾新旧文学に対する影響」張良澤 入場者数 102 人／7 月 5 日 講座「台湾の文学と友人たちに寄せて」辻原登 入場者数 55 人／7 月 13 日 講座「台湾の『藤野先生』―台湾における鲁迅文学」黄英哲 49 人／8 月 2 日演奏会「趁賞花燈」「梅花操」漢唐樂府 94 人

○刊行物

『「台湾文学館の魅力 その多彩な世界」展』図録 判型：B5 判／頁数：136 頁／1,000 円（製作 国立台湾文学館）

○共催行事（共催 文芸映画を観る会）

文芸映画を観る会 「台湾文学館の魅力―その多彩な世界」映画会 6 月 28 日、同 29 日「珈琲時光」入場者数計 145 人

（担当 鎌田邦義）

企画展 かこさとし「だるまちゃんとてんぐちゃん」展

長い間多くの人びとに愛され続ける「だるまちゃん」シリーズの作者・かこさとしの魅力を、幼少時からのエピソードと関連作品、思い出の本、原画などから紹介。

2008（平成 20）年度

展示観覧者は平成 6 年の再開館以降で最も多い 35,000 人に達し、展示事業全体で好調を維持した。春の特別展「澁澤龍彦回顧展」では、新たな澁澤像を提示して若年層にもアピールした結果、関連行事も含め好評が得られた。秋にはスタジオジブリと共催で特別展「堀田善衛展」を開催し、動員を図るため第 3 展示室で堀田作品のアニメーション映画化を想定した展示を行い、予想以上の来館者を得た。また、関連行事の宮崎駿監督の講演会も満員になった。

春、秋の特別展に加え、指定管理者として県内外、国外の類似施設と積極的に交流、協力事業に取り組み、国立台湾文学館、芦屋市の虚子記念文学館の各々と共催で文学館交流展を開催。神奈川県図書館協会とも共催展を実施した。また、夏の児童文学展の第 2 弾として「かこさとし展」を開催したほか、外部への企画展提供事業として「佐藤さとる コロボックル物語展」を町田市民文学館ことばらんどと新潟県立自然科学館へ巡回した。同時に文芸朗読会、朗読コンサートを県内各地で開催するなど普及事業にも力を注ぎ、年間 50 件近い各種イベントを実施した。

主な寄贈では有島武郎「死とその前後」原稿と書簡、堀田善衛「上海日記」、「源家悲劇」原稿などがあり、所蔵総数は 109 万点に達した。資料増に対処するため、文庫本の一括配置など収蔵方法の効率化に着手した。

法制度改正に伴い、新公益法人への移行準備のため 10 月 12 日、12 月 14 日に評議員、役員による検討委員会を開催した。中野孝次元理事長の著作権収入と広津基金の一部を基本財産へ繰り入れ、総額 9,000 万円（財団出資割合 41％）となった。

特別展 生誕 80 年 澁澤龍彦回顧展―ここちよいサロン

サドやバタイユの明晰で洗練された翻訳と、古今のエロティシズム芸術を紹介したエッセイなどによって知られる作家・澁澤龍彦をサロン（客間）の主人にたとえ、新たな視点をもとに構築した展観。

期間 4 月 26 日～6 月 8 日（39 日間）

編集委員 高橋睦郎

会場 第 2・第 3 展示室

入場者数 8,899 人（228 人／1 日平均）

後援 NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）

協賛 河出書房新社、晶文社、白水社、平凡社、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント

4 月 27 日 講座「澁澤龍彦と小林秀雄」三浦雅士 入場者数 122 人／5 月 3 日 講座「最高のホスト」ゲスト対談「シブサワ素のまま」高橋睦郎、澁澤龍子（ゲスト）入場者数 273 人／5 月 5 日 講座「澁澤さんと人形」四谷シモン 入場者数 304 人／5 月 10 日 講座「夢のかたち」平出隆 142 人

○刊行物

『「生誕 80 年記念 澁澤龍彦回顧展―ここちよいサロン」』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

○ギャラリートーク

期間 8月9日～9月28日（45日間）
会場 第2・第3展示室
〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部〕
入場者数 9,259人（206人／1日平均）
協力 加古総合研究所
後援 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 偕成社、小峰書店、福音館書店、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

- 関連イベント
8月24日 講演会「あそびのはなし えほんのはなし かぐくのはなし」かこさとし 入場者数277人／同30日 読み聞かせ会「絵本であそぼ！」よこはま文庫の会「だるまちゃんとなんぐちゃん」ほか 入場者数102人
朗読コンサート「だるまちゃんとなんぐちゃん」ほか（共催：語りと音楽「花音」）8月19日 入場者数12人（会場 川崎市中野島こども文化センター）／同20日 入場者数16人（会場 鎌倉市生涯学習センター）／同27日 入場者数50人（会場 小田原・鈴廣かまぼこの里 鈴の音ホール）／9月15日 入場者数235人／11月2日 入場者数 80人（会場 秦野市立図書館）
○刊行物
「かこさとし『だるまちゃんとなんぐちゃん』展」リーフレット 判型：A5判／頁数：8頁／無料配布
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計7回実施／計132人
（担当 渡辺恵理、高橋祐子）

特別展 堀田善衛展 スタジオジブリが描く乱世。

透徹した歴史観を持って古今の乱世を読み解いた作家・堀田善衛の生涯をたどりつつ、作品世界を生前深い交流があった宮崎駿監督とスタジオジブリの協力により、2部構成で展示。

期間 10月4日～11月24日（47日間）
編集委員 紅野謙介
編集協力 岸宣夫
会場 第2・第3展示室
入場者数 8,380人（178人／1日平均）
共催 スタジオジブリ
後援 集英社、筑摩書房、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

- 関連イベント
10月11日 講演会「方丈記私記と私」宮崎駿 入場者数242人／11月15日 朗読会「方丈記私記」から 夏八木

勲 入場者数215人／同16日 講座「堀田善衛と上海」紅野謙介、堀田百合子（ゲスト）入場者数204人
「堀田善衛展 スタジオジブリが描く乱世。」映画会
10月18日 「風の谷のナウシカ」126人／11月8日 「モスラ」（堀田善衛ほか原作）55人／同月9日 「風の谷のナウシカ」133人
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計2回実施／計19人
○刊行物
『堀田善衛展 スタジオジブリが描く乱世。』図録 判型：B5判／頁数：64頁／900円
○ビデオ制作
「堀田善衛 『歴史』へのまなざし」（監修：紅野謙介16分）
（担当 半田典子）

企画展 神奈川県図書館協会創立 80 周年記念「かながわの図書館 自慢のこの一点」展

神奈川県図書館協会創立 80 周年記念事業として開催。各加盟館自慢の珍しい収蔵品を一堂に会して展示。

期間 11月29日～2009年1月18日（38日間）
会場 第3展示室
〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部〕
入場者数 1,910人（50人／1日平均）
主催 神奈川県図書館協会
共催 県立神奈川近代文学館、財団法人神奈川文学振興会
協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
（担当 藤野正）

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第3部 ―太宰治、三島由紀夫から現代まで

期間 1月24日～3月1日（32日間）
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,327人（41人／1日平均）

企画展 文学館交流展2 虚子没後 50 年記念 子規から虚子へー近代俳句の夜明けー

正岡子規没後の俳壇を継承・発展させた高浜虚子を中心に、近代俳句の黎明期から大正初期の虚子俳壇復帰までを子規・漱石・碧梧桐との関わりを交えて展示。

期間 3月7日～4月19日（38日間）
会場 第3展示室
〔同時開催：新収蔵資料展 2008 年度／常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部〕
入場者数 6,537人（172人／1日平均）
共催 虚子記念文学館
後援 朝日新聞社、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 現代俳句協会、国際俳句交流協会、社団法人日本伝統俳句協会、社団法人俳人協会、東京急行電鉄、兵田印刷工芸、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

- 関連イベント
3月7日 講演会「虚子俳句の変遷」稲畑汀子 入場者数270人／3月20日 シンポジウム「花鳥諷詠」有馬朗人、稲畑汀子、大串章、深見けん二、稲岡長（コーディネーター） 入場者数223人／3月28日 句会と講演

会「小沢昭一的俳句のころ」小沢昭一 入場者数228人／4月4日 シンポジウム「虚子の客観写生」稲岡長（コーディネーター）、稲畑広太郎、今井肖子、岸本尚毅、筑紫磐井 入場者数167人／4月18日 シンポジウム「虚子十句」稲畑汀子（コーディネーター）、今井千鶴子、金子兜太、辻桃子、安原葉 入場者数250人

- 刊行物
図録『子規から虚子へ』（製作 虚子記念文学館）／判型：A4判／頁数：78頁／2,000円



2009年3月20日 シンポジウム出演中の左から稲岡長、深見けん二、大串章、稲畑汀子、有馬朗人の各氏
（担当 池上聡、高橋祐子）

- 【文字活字文化振興事業などその他のイベント】
○春の文化講演会
4月19日 『『おくの細道』とは何か』長谷川權 入場者数429人（会場 はまぎんホール ヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）
○没後 100 年記念国木田独歩朗読会
9月13日 「武蔵野」久米明 入場者数164人
○文字・活字文化の日記念対談
10月26日 「日付のある随想―日記文学の魅力」川本三郎、紀田順一郎 入場者数62人
○『飛ぶ読書室 この本がおもしろいよ』刊行記念講演会
11月2日 「明日こそ読書 今日こそ読書～読書のたのしみ～」紀田順一郎 入場者数30人（会場 逗子開成中学・高等学校）
○文芸朗読会
12月20日 源氏物語千年紀「藤壺」＋トーク 有馬稲子 入場者数225人／2月7日 「敦煌」から 久米明 入場者数133人（会場 鈴廣かまぼこの里 鈴の音ホール）
○講演会「私の本について話そう」
㊹ 1月17日 『御書物同心日記』出久根達郎 入場者数149人／㊺ 2月1日 赤毛のアン 100 周年講演会「アンのゆりかご 村岡花子の生涯」村岡恵理 入場者数202人

- 【主な寄贈資料】
・磯田光一資料：遠藤周作ほかの磯田宛弔辞3点など
・神西清文庫追加：原稿、原稿断片など210点、「読書帖」ノート、自筆ノート、メモなど30点、神西宛吉田健一書簡1点、演劇パンフレット、写真など
・中野孝次文庫追加：ノート類70冊、エッセイなど原稿ファイル、中野書「回首七十有余年…」軸、肖像写真パ

ネル、旧蔵の端石硯や油彩画など
・秋山庄太郎資料：「作家の風貌 159 人」額装写真139点
・堀田善衛文庫追加：「上海日記」、「源家悲劇」原稿、手帳、書簡、スケッチブック、書画、特装本など
・中尾進資料：挿絵原画、子母澤寛、荻須高德らの中尾宛書簡、手帳、スケッチ、写真など260点
・黒岩重吾文庫追加：「さらば星座―奔流の巻」など原稿、諸家の黒岩宛書簡770点
・有島武郎資料：「死とその前後」原稿、書簡2通



有島武郎「死とその前後」原稿

- 【主な購入資料】
・夏目漱石 長谷川時雨宛書簡
・橋口五葉、貢 夏目漱石宛彩色絵入りはがき



橋口五葉 夏目漱石宛はがき
〔1905（明治38）〕年1月16日

- 【2008 年度の主なトピック】
・指定管理者制度の導入に伴い、従来の施設紹介パンフレットに代わり、新たな内容の冊子を制作、配布を行った。また簡易版の配布用パンフレットの制作にあたっては「神奈川近代文学館を支援する会」のうち県内で活動される企業に広告協賛を頂いた。

前年度に始まった公益財団法人への移行手続きが具体的に進められ、指定管理者選定に関して、来年の第2期選定を前に外部評価委員による評価会議が実施された。移行手続きでは9月に評議員選定委員会が開かれ、3月の理事会、評議員会では、評議員及び理事の大幅な定数削減によって、これまで事業推進の大きな拠り所としてきた文学者の幅広いネットワークが、損なわれることのないように文学館懇話会の設立が承認された。また、指定管理者評価会議では概ね高い評価を得たものの、展示、閲覧、会議室の利用者、利用料金収入など様々な局面で数字による評価が今後常に下されることを強く意識させられた。数字による評価に対抗する論理を構築していく必要がある中で、本年は特別展として春に森鷗外展、秋に江戸川乱歩展をそれぞれ開催したほか、企画展として中島敦展、茂田井武展、長谷川時雨展、さらに年度末には寄贈者の顕彰に主軸を置き、中村光夫文庫を利用した二葉亭四迷展を開催。1年を通してトータルで幅広い層にアピールしていくことが展示部門における当館の進むべき方向であることを示唆した。

資料の面では、中島敦自筆資料の画像データベースを収蔵文庫目録の第18集として刊行、その後の資料画像化事業に大きな道筋を付けた。また、所蔵図書の中から貴重書を厳選して記念室の一角に集めた展示コーナーは、収集資料の充実ぶりを説明していく上で大きな位置を占めている。

特別展 森鷗外展－近代の扉をひらく

横浜港からドイツ留学に出発した森鷗外の生涯と作品を、横浜開港150周年を迎えた年に3部構成で展覧。「舞姫」にまつわるエピソードや子どもたちとの交流など、作家や軍医として以外の姿も紹介。

期間 4月25日～6月7日（39日間）
編集委員 加賀乙彦、小泉浩一郎
会場 第2・第3展示室
入場者数 8,220人（211人／1日平均）
協力 文京区立本郷図書館鷗外記念室、森鷗外記念館、津和野町立安野光雅美術館
後援 岩波書店、筑摩書房、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、神奈川県博物館協会、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
4月29日 講座「鷗外を読む『雁』」千葉俊二 入場者数120人／5月4日 朗読会「舞姫」佐藤慶 入場者数258人／同9日 講演会「私の鷗外」加賀乙彦 入場者数222人／同17日 講座「鷗外を読む『高瀬舟』」小泉浩一郎 入場者数129人／同24日 講座「鷗外を読む『文づかひ』」小川康子 入場者数74人
ミニコンサート
5月30日「横浜市歌」ほか 横浜市立横浜商業高等学校吹奏楽部＆野球部 入場者数296人／同31日「横浜市歌」ほか 横浜市立横浜商業高等学校吹奏楽部＆野球部 入場者数523人（会場 港の見える丘公園）
○刊行物
『森鷗外展－近代の扉をひらく』図録
判型：B5判／頁数：64頁／900円
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計4回実施／計163人



5月30日 港の見える丘公園中央広場で催された横浜市立横浜商業高校（Y校）の生徒たちによる記念コンサート

○ビデオ制作
「鷗外と「舞姫」ベルリンそして横浜」（監修：小泉浩一郎 16分）
（担当 野見山陽子、中村敦）

企画展 生誕100年記念 中島敦展－ツシタラの夢－

横浜高等女学校（現・横浜学園）の教師を務め、横浜とゆかりの深い作家・中島敦の生涯と作品を、館蔵の南洋から家族に宛てた手紙や日記などの資料により展覧。

期間 6月13日～8月2日（45日間）
会場 第2展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部]
入場者数 5,060人（112人／1日平均）
後援 中島敦の会、筑摩書房、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 河出書房新社、紀伊國屋書店、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
7月5日 講座「書齋派作家 中島敦－読書と散歩－」紀田順一郎 入場者数180人／7月18日 朗読会『「山月記」『名人伝』』加賀美幸子、有富裕子（解説）入場者数249人／7月19日 講座「中島敦の文学－中国文学との関わりから－」吉崎一衛 入場者数190人
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計4回実施／計133人
○刊行物
『中島敦の軌跡』村田秀明 編著、中島敦の会 編・刊行
判型：A4判／頁数：64頁／1,500円（当振興会編集協力）
（担当 池上聡、高橋祐子）

企画展 茂田井武展 子どもたちへの贈りもの

児童雑誌を舞台に数多くの挿絵や童画を発表した画家・茂田井武。ちひろ美術館収蔵の原画や画帳に加え、当館所蔵の資料を交えて文学的な観点を織り込んで展覧。

期間 8月8日～9月27日（45日間）
会場 第2展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第3部]
入場者数 4,118人（92人／1日平均）
協力 ちひろ美術館
後援 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 講談社、集英社、J U L A出版局、福音館書店、東

京急行電鉄、朝日オフセット印刷、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
○関連イベント
8月15日 講演会（「私の本について話そう」㊿）『松居直のすすめる50の絵本－大人のための絵本入門』松居直 入場者数113人／同22日 花音朗読コンサート『「ゼロひきのゴーシュ」『ドトリル先生アフリカへ行く』』語りと音楽「花音」、藤村俊介（チェロ） 入場者数194人
○刊行物
「茂田井武展 子どもたちへの贈りもの」リーフレット
判型：A5判／頁数：8頁／無料配布
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計3回実施／計34人
（担当 半田典子、高橋祐子）

特別展 大乱歩展

日本の探偵・推理小説界を確立した江戸川乱歩の70年にわたる生涯と作品を紹介。立教大学の協力により、自筆原稿や書簡に加え、乱歩が集めた井原西鶴などの和本コレクションや乱歩の遺品など貴重資料を厳選して展観。

期間 10月3日～11月15日（39日間）
編集委員 紀田順一郎、藤井淑禎
会場 第2・第3展示室
入場者数 9,453人（242人／1日平均）
共催 立教大学・江戸川乱歩記念大衆文化研究センター
後援 日本推理作家協会、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 光文社、ポプラ社、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
10月3日 講演会「乱歩の二つの顔」小林信彦 入場者数174人／同24日 文字・活字文化の日記念講演会「江戸川乱歩と少年探偵の夢」紀田順一郎 入場者数215人／11月1日 朗読会「D坂の殺人事件」寺田農 入場者数233人



10月24日 講演中の紀田順一郎理事長

藤沢・御所見公民館文学講座
9月29日「江戸川乱歩と横溝正史」落合教幸 入場者数53人／10月1日「江戸川乱歩と山田風太郎」落合教幸 入場者数38人／同6日「江戸川乱歩と松本清張」藤井淑禎 入場者数42人（会場 御所見公民館）
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計6回実施／計199人

○刊行物
『大乱歩展』図録 判型：B5判／頁数：72頁／1,000円
○共催行事（共催 文芸映画を観る会）
文芸映画を観る会「大乱歩展」映画会 11月7日、同8日「死の十字路」 入場者数計314人
（担当 鎌田邦義、渡辺恵理）

企画展 生誕130年 長谷川時雨展

女性作家の発掘育成を目指した文芸誌「女人芸術」の主宰者として活躍した長谷川時雨の生涯を、生い立ちから戦時下の病没まで5部門で展観。

期間 11月21日～2010年1月11日（40日間）
会場 第2展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部]
入場者数 2,288人（57人／1日平均）
編集委員 尾形明子
後援 NPO現代女性文化研究所、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
長谷川時雨展記念講座（兼：友の会のつどい 講師 尾形明子）12月5日「長谷川時雨について～粹で美人で江戸っ子で」、同12日「長谷川時雨と『女人芸術』の人々～林芙美子、円地文子、佐多稲子…」 入場者数計130人（会場 中会議室）
長谷川時雨展記念朗読会
12月13日「烏瓜の花－長谷川時雨」平野啓子、尾形明子（脚本） 入場者数187人
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計3回実施／計12人
○刊行物
「生誕130年 長谷川時雨展」リーフレット 判型：A5判／頁数：8頁／無料配布
『長谷川時雨（写真集）』 尾形明子、財団法人神奈川文学振興会 編、NPO現代女性文化研究所 刊行
判型：A5判／頁数：76頁／900円
（担当 半田典子、池上聡）

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第2部－芥川龍之介から中島敦まで

期間 1月16日～2月28日（38日間）
会場 第2・第3展示室
入場者数 1,459人（38人／1日平均）

収蔵コレクション展9 中村光夫文庫から 没後100年 二葉亭四迷展

館蔵の〈中村光夫文庫〉から中村収集の〈二葉亭コレクション〉を中心に、二葉亭四迷の生涯と中村の業績を紹介。

期間 3月6日～4月18日（39日間）
会場 第3展示室
[同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第3部／新収蔵資料展2009年度]
入場者数 2,114人（54人／1日平均）
協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
○関連イベント

4 月 3 日 講座「二葉亭の道」十川信介 入場者数 112 人
○刊行物
「収蔵コレクション展 9 没後 100 年 二葉亭四迷展」リーフレット 判型：A5 判／頁数：8 頁／無料配布
(担当 高橋祐子、野見山陽子)

【文字活字文化振興事業などその他のイベント】
○中島敦生誕 100 年記念特別朗読会『狂言師、敦を語り読む』10 月 2 日 『『悟浄出世』『悟浄歎異』』野村万作ほか、野村萬斎（演出） 入場者数 456 人（会場 横浜能楽堂 共催 中島敦の会）
○文芸朗読会
大岡昇平生誕 100 周年記念朗読会 8 月 16 日「野火」平田満 192 人
○文化講演会（会場 はまぎんホールヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）
春の文化講演会 5 月 16 日「横浜今昔」平岩弓枝 入場者数 322 人／秋の文化講演会 10 月 11 日「源氏物語朗読会『六条の御息所』」有馬稲子 入場者数 428 人
○台湾文学連続講演会「越境しあう日本と台湾の文学」



9 月 5 日 講演中の津島佑子氏

9 月 5 日 「私の本について話そう」⑦『あまりに野蛮な』津島佑子、陳玉慧（コメンテーター）、白水紀子（司会）入場者数 77 人／同 6 日 「わたしにとっての日本／文学」朱天心、垂水千恵（司会） 入場者数 42 人／同 19 日 対談「台湾のクィア文学と日本の SF、クィア、ファンタジー」劉亮雅、小谷真理、垂水千恵（司会） 入場者数 48 人／同 20 日 「台湾文学とセクシュアリティ」紀大偉、白水紀子（司会） 入場者数 43 人（以上 共催 国立台湾文学館、協賛 横浜国立大学）
○講演会「私の本について話そう」
⑧ 2010 年 2 月 28 日 『『ほろびた国の旅』『懐かしき友への手紙』』三木卓 入場者数 96 人／⑨ 3 月 14 日 『『明るい方へ 父・太宰治と母／太田静子』』太田治子 入場者数 220 人

【主な寄贈資料】

- 堀田善衛文庫追加：スペイン滞在中の堀田書簡 21 点、著書、執筆参考資料など図書・雑誌 1,100 冊、写真、愛用のカメラなど遺品類・文房具など
- 村松梢風資料：「近代作家伝」のための創作ノート（他筆含む）、遺品など 87 点、図書 74 冊、雑誌 30 冊
- 阿部合成関係資料：原稿 57 点、山岸外史 阿部合成ほか宛書簡 48 点
- 中野孝次文庫追加：「ヒエロニムス・ボス『悦楽の園』を追われて」原稿
- 片岡良一・懋資料：旧蔵図書・雑誌 4,000 冊、横光利一ほか諸家の良一宛書簡など 152 点

- 新井満理事寄贈：原稿、装幀原画、関連視聴覚資料、図書、雑誌、ポスターなど 200 点
- 中野重治資料：中野及び中野鈴子宛の佐多稲子書簡 60 点、中野の家族宛書簡 23 点など
- 竹西寛子資料：『陸は海より悲しきものを一歌の与謝野晶子』『耳目抄』原稿など 89 点
- 尾崎左永子理事寄贈：『鎌倉百人一首を歩く』『源氏物語随想』『栄花物語彩古抄』原稿など 329 点

【主な購入資料】

- 夏目漱石 正岡子規宛書簡
- 添田知道「博浪沙」土佐旅行日記、草稿、執筆切抜など 185 点
- 広津和郎「電報合戦」草稿、『父と子』装幀原画、執筆切抜など 181 点
- 埴谷雄高「広津和郎の回想記録」原稿
- 島木健作 阿部平三郎宛など書簡 4 点

【2009 年度の主なトピック】

- 4 月 17 日、三笠宮同妃両殿下が「子規から虚子へー近代俳句の夜明けー」を見学に来館され、稲畑汀子氏と紀田理事長が案内。
- 5 月 9 日、新公益法人への移行に対応するため、文学者による支援ネットワーク組織として「神奈川近代文学館懇話会」が発足した。当初は旧財団法人の役員、評議員を中心に組織を設立。設立総会では幅広い文学者や出版関係者などから支援を受けるための仕組み作りが検討され、文学館及び財団に対する支援体制の強化が図られた。懇話会の初代会長には三木卓常務理事、幹事長に山田宗睦常務理事が就任。



5 月 9 日 懇話会第 1 回総会で挨拶をする会長の三木卓常務理事（中央）と紀田順一郎理事長（左）

- 6 月、『DVD-ROM 版中島敦文庫直筆資料画像データベース』刊行。



資料画像データベース画面

2010（平成 22）年度

3 月 11 日に発生した東日本大震災は、当館のような資料保存施設にとって生命線と言える「継続性」が断たれる危機感を強く感じさせた。大震災までは、第 2 期指定管理者への応募・選定、新公益法人への移行、第三セクター事業評価など、〈外部による評価〉への対応に追われる 1 年となった。いずれの事業評価においても所期の目的を充分達成したと判定され、高い評価を得ることができたのは、資料、展示、企画普及などそれぞれの事業について、これまで積み上げてきた実績を背景に丁寧に説明を繰り返したことによる。一連の評価の中で展示観覧者数や利用料金収入など数字だけでなく、資料の収集、整理、保存、公開という当館の本来的な事業や当館ならではの展覧会企画への高い評価を得られたことは、その後の事業展開に大きな自信となった。

資料の受贈数は中川一政資料ほかの寄贈で総数 2 万 5 千点に達した。このことはまだまだ多くの近代文学資料が作家やそのご遺族の元に保管されており、今後も資料収集に努めていく必要があることを強く感じさせる一方、収蔵スペースの確保が喫緊であることが顕在化した。閲覧室内に設置された展覧会関連読書コーナーは展覧会によって誘発された来館者の読書欲に応えるコーナーとして多くの利用者があり、前年度の 1.5 倍の閲覧室利用者を数えた。展示室と閲覧室とを有する施設として懸案だった両室の連携が、このコーナーの設置でようやく一歩進んだ。

この年から NHK 横浜放送局の FM 番組に毎月 1 回職員が出演し、アナウンサーの朗読と共に作家、作品解説を担当するようになった（2014 年度も継続中）。

特別展 城山三郎展－昭和の旅人－

経済小説の第一人者として多くの読者に支持され、昭和という時代と人間を巡る旅を続けた作家城山三郎の生涯を「昭和の旅人」と位置付け 3 部構成で展覧。

期間 4 月 24 日～6 月 6 日（39 日間）

編集委員 澤地久枝

会場 第 2・第 3 展示室

入場者数 8,292 人（213 人／1 日平均）

後援 文化のみち二葉館（名古屋市旧川上貞奴邸）、NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
角川書店・角川グループパブリッシング、新潮社、ダイヤモンド社、文藝春秋、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント

4 月 4 日 春の文化講演会「朗読『そうか、もう君はいないのか』から トーク・ヨコハマ」岸恵子 入場者数 472 人（会場 はまぎんホールヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）／同 29 日 トークイベント「素顔の城山三郎」井上紀子、野見山陽子（聞き手） 入場者数 216 人／5 月 1 日 講演会「語り継ぐべきこと」澤地久枝 入場者数 282 人／同 9 日 講演会「城山三郎の世界－熟年革命」渡辺淳一 入場者数 256 人／同 15 日 講演会（『私の本について話そう』⑩）「プライド」真山仁 入場者数 160 人

○刊行物

『城山三郎展－昭和の旅人－』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円



5 月 9 日 講演中の渡辺淳一氏

○ギャラリートーク

開催期間中の金曜日に計 7 回実施／計 175 人

(担当 野見山陽子、中村敦)

企画展 文学館交流展 3 生誕 80 年「開高健の世界」展

旺盛な活動の中で小説、エッセイ、ルポルタージュ等多彩な執筆を行いながら、世界の様々な事象の核心を捉えて作品に刻み込んだ開高健の軌跡を、開高健記念会の協力を得て、2000 年以降に発掘された多くの新資料を中心に展覧。開高健記念会刊行の図説の編集を担当し、会場で頒布した。

期間 6 月 12 日～8 月 1 日（45 日間）

会場 第 2 展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」展第 2 部〕

入場者数 6,682 人（148 人／1 日平均）

共催 NPO 法人開高健記念会

後援 NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）

協賛 サントリー、朝日新聞出版、光文社、集英社、新潮社、筑摩書房、文藝春秋、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント

6 月 27 日 講演会「開高健とアマゾンの自然」奥本大三郎 入場者数 176 人／7 月 17 日「開高文学の魅力」佐野真一 入場者数 241 人

○刊行物

『開高健の世界』（図録）判型：B5 判／頁数：88 頁／1,000 円（開高健記念会との共同編集）

○ギャラリートーク

開催期間中の金曜日に計 3 回実施／計 81 人

○共催行事（共催 文芸映画を観る会）

文芸映画を観る会 「開高健の世界」展映画会 7 月 24 日、同 25 日「証人の椅子」（原題「片隅の迷路」） 入場者数計 246 人

(担当 池上聡、高橋祐子)

企画展 長崎源之助展－『つりばしわたれ』『ひろしまのエノキ』『汽笛』

横浜の下町に生まれ育ち、平和の大切さ、いのちの尊さを伝え続けている児童文学者・長崎源之助の作品世界を豊富な資料をもとに展覧。合わせて戦後に自宅で開設した「豆の木文庫」の活動なども紹介。

期間 8月7日～9月26日（45日間）
会場 第3展示室
〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部〕
入場者数 2,957人（66人／1日平均）
後援 よこはま文庫の会、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 偕成社、童心社、東京急行電鉄、朝日オフセット印刷、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
○関連イベント
8月7日 『『汽笛』ほか』語りと音楽・花音 入場者数248人／同15日「8月15日 読む・語る会」阿部壽美子 他 入場者数243人／9月5日 講座「長崎源之助文学の魅力」西本鶏介 入場者数73人
○刊行物
「長崎源之助展」リーフレット 判型：A5判／頁数：8頁／無料配布
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計4回実施／計70人
（担当 渡辺恵理、高橋祐子）

特別展 小泉八雲展 生誕160年 来日120年

近代化とともに失われゆく古い日本の伝統、習俗、信仰への哀惜が込められた作品で、今日も多くの読者に愛される小泉八雲＝ラフカディオ・ハーンの生涯を、松江の小泉八雲記念館などの協力を得て豊富な資料で紹介。

期間 10月2日～11月14日（39日間）
編集委員 小泉凡、辻原登
会場 第2・第3展示室
入場者数 9,143人（234人／1日平均）
後援 池田記念美術館、小泉八雲記念館（島根県松江市）、松江市立中央図書館、焼津小泉八雲記念館、NHK横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 恒文社、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
○関連イベント
10月9日 講座「小泉八雲と日本の怪談」東雅夫 入場者数125人／同23日 朗読会『『耳なし芳一のはなし』ほか』佐野史郎 入場者数 248人／同31日 講座「ラフカディオ・ハーンと21世紀」小泉凡 入場者数236人／11月3日 講演会「多面立方体作家、ハーングロテスクな優しさの系譜」辻原登 入場者数216人



11月3日 講演中の辻原登評議員（現・理事長）

○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計8回実施／計372人

○刊行物
『小泉八雲展』図録 判型：B5判／頁数：64頁／900円
（担当 鎌田邦義、斎藤泰子）

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第3部 一太宰治、三島由紀夫から現代まで

神奈川芸術劇場の三島作品公演と連動して、三島由紀夫の没後40年を記念した所蔵資料による特別展示コーナーを併設。

期間 11月20日～2011年1月10日（38日間）
会場 第2・第3展示室
〔同時開催：没後40年記念 三島由紀夫特別コーナー〕
入場者数 2,026人（53人／1日平均）

企画展 収蔵コレクション展10 中山義秀展

芥川賞受賞作「厚物咲」をはじめ、晩年の歴史小説「咲庵」「芭蕉庵冬青」など、人間の宿命と生の本質を描き続けた義秀の生涯と作品を〈中山義秀文庫〉の資料を中心に紹介。

期間 1月15日～2月27日（38日間）
会場 第3展示室
〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部〕
入場者数 1,784人（47人／1日平均）
○関連イベント
2月5日 文学セミナー「峻烈の生と文学魂」清原康正 入場者数45人／同19日 文学セミナー「絶筆『芭蕉庵桃青』の周辺」春名徹 入場者数46人
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計3回実施／計80人
○刊行物
「収蔵コレクション展10 中山義秀展」リーフレット 判型：A5判／頁数：8頁／無料配布
○共催行事（共催 文芸映画を観る会）
文芸映画を観る会 中山義秀展映画会 2月11日、同12日「中山安兵衛」 入場者数計115人
（担当 高橋祐子、池上聡）

荻原井泉水と「層雲」100周年記念展

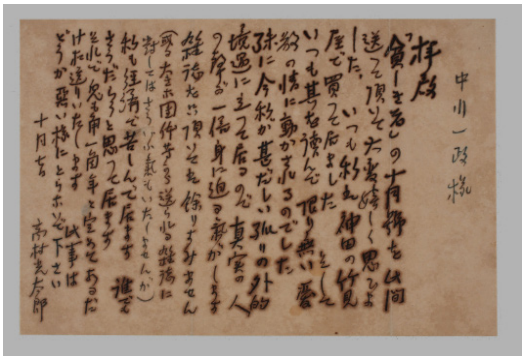
館蔵の〈荻原井泉水文庫〉を中心に関連資料を精選。創刊100周年を迎えた俳誌「層雲」の歩みと同誌が近代俳句史に刻んだ功績を紹介。

期間 3月5日～4月17日（39日間）
会場 第3展示室
〔同時開催：新収蔵資料展2010年度／常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部〕
入場者数 1,092人（28人／1日平均）
協賛 神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
○関連イベント
4月9日 講座「荻原井泉水著『自由律俳句入門』を読む」復本一郎 入場者数92人
（担当 中村敦）

【文字活字文化振興事業などその他のイベント】
○秋のカルチャーイベント
10月16日「源氏物語朗読会『若菜』（瀬戸内寂聴訳『源氏物語』から）」有馬稲子 入場者数406人（会場 はまぎんホールヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財

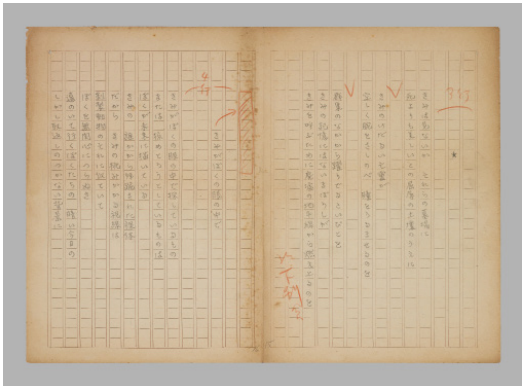
団）
○講演会「私の本について話そう」
㊼ 9月23日『魔女の宅急便』角野栄子 入場者数150人／㊾ 2011年1月29日「尾崎左永子の語る百人一首の世界」尾崎左永子 入場者数218人／㊿ 3月20日『『お江の方と春日局』『お江 流浪の姫』植松みどり ※震災及び節電のため中止
○朗読コンサート
11月14日「汽笛」ほか（長崎源之助作品ほか）語りと音楽・花音（会場 秦野市立図書館 共催 語りと音楽・花音、秦野市立図書館）

【主な寄贈資料】
・長谷川時雨資料：旧蔵の文机
・宮田重雄資料：梅原龍三郎ら諸家書簡1,900点、青山二郎ほか画文帖、菊池寛ほか寄書き出征旗、田村泰次郎絵画など特別資料2,200点、図書・雑誌460冊
・司修理事寄贈：開高健「パニック」「裸の王様」ほか挿絵原画6点
・山田幸男収集中川一政文芸資料：詩、随筆の原稿、中川宛高村光太郎書簡、装幀原画、エッチング、リトグラフ、歌幅、扁額、屏風のほか、武者小路実篤の書など特別資料680点、著書・装幀本など図書1,120冊、雑誌930冊



高村光太郎 中川一政宛書簡
1916（大正5）年10月7日

・今井達夫資料：「水上瀧太郎」ほか原稿、日記、切抜など特別資料493点、雑誌59冊
・清岡卓行資料：詩稿、創作メモ、セ・リーグ試合日程編成ノート、原口統三書簡など特別資料110点、著書・執筆誌50冊



清岡卓行『氷った焰』詩稿

・城山三郎資料：「もう、きみには頼まない」ほか原稿、メモ、江藤淳、田宮虎彦ら諸家書簡、弔辞など特別資料1,200点、旧蔵図書・雑誌2,300冊
・入江亮太郎資料：「舟の客」詩稿、句稿などの原稿、ノート、日記など特別資料384点
・山本周五郎資料：「あとのない仮名」（「八十七本」）草稿
・西條八十文庫追加：「軽井沢だより」ほか原稿、堀口大學書簡など特別資料700点、図書・雑誌300冊
・竹山道雄資料：「ビルマの竖琴」草稿断片、「手帖」ほか原稿、ノート、安倍能成ら諸家書簡など400点、図書・雑誌6,600冊

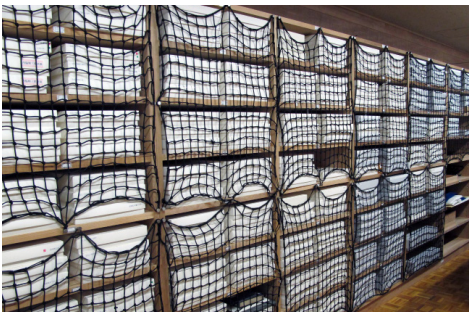
【主な購入資料】
・西脇順三郎色紙「幻影の人は去る 永劫の旅人は帰らず」
・有島武郎「溺れかけた兄妹」「動かぬ時計」「武者小路兄へ」草稿
・二葉亭四迷 西本波太宛書簡3点

【2010年度の主なトピック】
・年度当初から本館閲覧室内の小展示に代わり、開催中の企画展等に関連した蔵書を一堂に集めて、閲覧者が読みやすいように開架書架に配置する読書コーナーを設けた。夏休みの児童文学展開催中は絵本を読むために多くの親子連れが多数閲覧室を利用し、盛況となった。



展覧会関連読書コーナー（本館1階閲覧室）

・震災被害の状況について
当館は3月11日の東日本大震災による直接の被害はなく、書庫内の資料落下などの事故もほぼなかった。阪神淡路大震災の教訓をもとに日頃から耐震対策に腐心して来たことが功を奏した。ただし、実施事業については震災後の節電対策に協力し、年度中の講演会等催事を複数中止した。



特別資料庫内の耐震対策（資料棚用落下防止ネット）

東日本大震災から 20 日余り、余震が続き、先行きが不安なまま 4 月 1 日、第 2 期指定管理者の 1 年目、公益財団法人としての神奈川文学振興会がスタートした。文化施設全体への来館者減の不安を一蹴するかのような春の特別展「遠藤周作展」の好調に続き、夏の安野光雅展、秋の林芙美子展、新春の作家と万年筆展などいずれの展覧会も予想を上回る観覧者を集め、バブル経済末期の 1990 年から 20 年ぶりに総観覧者数は 4 万人の大台を超えた。また閲覧室利用者、会議室利用者などを加えた総利用者数は 83,000 人余となり、開館以来最高の数字を記録した。65 歳以上、高校生の観覧料有料化も実施されたが、心配された混乱はなく、有料化による観覧者数への目立った影響は見られなかった。

懸案の若年層の文学館利用を拡大するため、2008 年度から始めた主に県内の高校図書館へのパネル展の提供をさらに推進する一方で、県総合教育センターとの共催研修会、県内高校の教員、学校司書を対象にした文学館活用研修会の開催など学校教育との連携を本格化させた。資料収集は 2 万点近い寄贈があり、所蔵点数は 115 万点を数えた。この中で武井武雄の「刊本作品」美本・全揃いを含む〈平尾榮美コレクション武井武雄資料〉1,000 点は特筆すべき受贈である。

特別展 没後 15 年 遠藤周作展－ 21 世紀の生命のために－

「沈黙」「深い河」などの作品で多くの読者に感動を与えた遠藤周作の生涯と文学を、日記、書簡、原稿などの肉筆資料でたり、カトリック信者としての彼が現代社会に投げかけたメッセージを 3 部構成で展観。

期間 4 月 23 日～6 月 5 日（39 日間）
編集委員 加藤宗哉、富岡幸一郎
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 12,360 人（317 人／1 日平均）
後援 長崎市遠藤周作文学館、町田市民文学館ことばらんど、NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 講談社、集英社、新潮社、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、横浜市交通局、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
4 月 17 日 朗読会「遠藤周作『侍』を読む」石坂浩二、加藤宗哉（聞き手） 入場者数 457 人（会場 はまぎんホールヴィアマーレ 共催 はまぎん産業文化振興財団）／4 月 29 日 講演会「遠藤周作さんと私」加賀乙彦 入場者数 278 人／5 月 5 日 記念シンポジウム「遠藤周作を 21 世紀に読む」兼子盾夫、笛本美佳、富岡幸一郎（コーディネーター） 入場者数 217 人／同 14 日 講座「遠藤周作の、西欧世界との遭遇、キリスト教との遭遇、一作品『留学』から『沈黙』へ 『沈黙』から『深い河』へ」森一弘 入場者数 269 人／同 22 日 講談とトーク「信長の愛した女たち 遠藤周作の歴史小説から」高橋千劍破、神田蘭 入場者数 189 人／同 29 日 講演会「河童が語る遠藤周作」妹尾河童 入場者数 195 人
○刊行物
『没後 15 年 遠藤周作展－ 21 世紀の生命のために』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円

○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計 5 回実施／計 228 人

○共催行事（共催 文芸映画を観る会）
文芸映画を観る会 遠藤周作展映画会 5 月 7 日、同 8 日「私が棄てた女」 入場者数計 407 人
（担当 野見山陽子、渡辺恵理）

企画展 漱石と文人たちの書画展－夏目漱石、高浜虚子、武者小路実篤、中川一政らの館蔵コレクションによる

当館所蔵資料から、特に明治・大正期に活動を始めた文学者を対象に、収集品としてまとまりのある書や絵画を「硯友社の人びと」「漱石とその周辺」「白樺派の人びと」の 3 部門で展観。

期間 6 月 11 日～7 月 31 日（45 日間）
会場 第 2 展示室
〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 3 部〕
入場者数 3,973 人（88 人／1 日平均）
後援 NHK 横浜放送局、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 東京急行電鉄、横浜市交通局、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
7 月 23 日 講演会（私の本について話そう㊟）「孫からみた漱石の書画」夏目房之介 入場者数 197 人
○刊行物
「漱石と文人たちの書画展」リーフレット 判型：A5 判／頁数：8 頁／無料配布
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計 3 回実施／計 76 人
（担当 高橋祐子）

特別展 安野光雅美術館開館 10 周年記念 安野光雅展－アンデルセンと旅して

夢と空想溢れる安野光雅の絵本の世界を「旅の絵本Ⅵ」などの原画を中心に展観。安野とアンデルセンの関わりも紹介し、〈生涯の一冊〉と呼ぶ小説「即興詩人」の世界や、安野が現代人に勧める文語文の魅力もとりあげた。

期間 8 月 6 日～9 月 25 日（45 日間）
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 15,130 人（336 人／1 日平均）
協力 津和野町立安野光雅美術館
後援 デンマーク大使館、社団法人日本国際児童図書評議会（JBBY）、神奈川県教育委員会、横浜市教育委

員会、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 福音館書店、山川出版社、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、横浜市交通局、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
8 月 28 日 対談「ミスタ・アンノの魅力と偉大」池内紀、松田哲夫 入場者数 182 人／9 月 24 日 トークコンサート「安野先生と私」森ミドリ、アンサンブル・フィオレッティ 入場者数 240 人
○ギャラリートーク
開催期間中の水曜日に計 3 回実施／計 134 人
○刊行物
『安野光雅美術館開館 10 周年記念「安野光雅展－アンデルセンと旅して」』図録 判型：B5 判変型／頁数：48 頁／700 円
○共催行事
8 月 6 日 花音朗読コンサート・記念トーク「安野光雅展－アンデルセンと旅して」語りと音楽・花音 入場者数 142 人



親子連れの観覧者で賑わう安野光雅展会場風景
（担当 池上聡、高橋祐子）

特別展 没後 60 年記念展 いま輝く林芙美子

『放浪記』で文壇にデビューし、ベストセラー作家として活躍しながら、47 歳で急逝した林芙美子の劇的な生涯を紹介。多岐にわたった作品の魅力を、没後 60 年を経てあらたに問い直した。

期間 10 月 1 日～11 月 13 日（39 日間）
編集委員 太田治子、川本三郎
会場 第 2・第 3 展示室
入場者数 6,098 人（156 人／1 日平均）
共催 新宿区立新宿歴史博物館
後援 NHK 横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、横浜市交通局、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
10 月 8 日 朗読会『『放浪記』から＋対談『放浪記』が伝えるもの』紺野美沙子、北村文典（ゲスト） 入場者数 181 人／同 22 日 朗読会（兼：文字・活字文化の日記念朗読会）「晩菊」「骨」五大路子 入場者数 207 人／同 16 日 講演会「林芙美子の愛のかたち『浮雲』をとおして」太田治子 入場者数 242 人／11 月 5 日 講演会「映画の中の女性たちー『放浪記』『晩菊』『浮雲』『めし』」川本三郎 入場者数 267 人
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計 6 回実施／計 196 人

○刊行物
『没後 60 年記念展 いま輝く林芙美子』図録 判型：B5 判／頁数：64 頁／900 円
○共催行事
文芸映画を観る会 林芙美子展映画会 10 月 9 日、同 10 日「稲妻」 入場者数計 351 人（共催 文芸映画を観る会）／ふみのしおり朗読会（林芙美子展会場行事）同 15 日、同 30 日、11 月 3 日 「昔の家」「鶴の笛」ふみのしおり 参加者数計 103 人（会場 展示館エントランスホール 共催 ふみのしおり）



11 月 5 日 講演中の川本三郎常務理事
（担当 鎌田邦義、斎藤泰子）

常設展 文学の森へ 神奈川と作家たち 第 1 部－夏目漱石から萩原朔太郎まで

会期中に行われたイベント「私の本について話そう」と連動して、司修『本の魔法』の展示コーナーを設置。同書にとりあげられた装幀本やその原画などを展示。

期間 11 月 19 日～2012 年 1 月 9 日（38 日間）
会場 第 2・第 3 展示室
〔同時開催：司修「本の魔法」コーナー〕
入場者数 1,311 人（35 人／1 日平均）
12 月 3 日 私の本について話そう㊟『本の魔法』司修 入場者数 95 人

企画展 作家と万年筆展

作家にとって何よりも大切な“商売道具”とも言える万年筆を特集し、明治、大正期の文豪から現在活躍する作家まで計 27 名の愛用の品を自筆原稿などとともに展観。

期間 1 月 14 日～2 月 26 日（38 日間）
企画原案 足澤公彦
会場 第 2 展示室
〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第 2 部〕
入場者数 5,107 人（134 人／1 日平均）
後援 NHK 横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
協賛 有隣堂、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント
2 月 19 日 私の本について話そう㊟『『文字を書く』ということ』出久根達郎 入場者数 253 人
○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計 3 回実施／計 80 人
○刊行物
「作家と万年筆展」リーフレット 判型：A5 判／頁数：8 頁／無料配布

聞社、tvk（テレビ神奈川）
協賛 あかね書房／理論社／東京急行電鉄／神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント

8月11日 朗読コンサート『『おしゃべりなたまごやき』他』語りと音楽・花音 入場者数145人（共催 語りと音楽・花音）／8月18日 講演会（「私の本について話そう」^{③⑧}）「王さまのなかの寺村さん」和歌山静子 入場者数78人／8月25日 記念イベント「寺村輝夫・永井郁子のおはなし会」永井郁子 入場者数127人

○ギャラリートーク

開催期間中の金曜日に計4回実施／計175人

○刊行物

「寺村輝夫『ぼくは王さま』展」図録
判型：B5判変形／頁数：48頁／700円
（担当 高橋祐子）

特別展 生誕140年記念 島崎藤村展

日本近代文学を代表する長編小説「夜明け前」をはじめ、日本自然主義文学の中心的存在として数々の作品を遺した島崎藤村を、大磯とのゆかりを交えながら3部構成で紹介。

期間 10月6日～11月18日（39日間）

編集委員 堀江敏幸

会場 第2・第3展示室

入場者数 7,162人（184人／1日平均）

協力 藤村記念館、小諸市立藤村記念館、大磯町郷土資料館

後援 島崎藤村学会、NHK横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

特別協賛 学校法人明治学院

協賛 京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント

10月20日 朗読会「ある女の生涯」藤村志保 入場者数234人／同27日 講座「夜明け前」十川信介 入場者数162人／11月3日 講座「家」下山嬢子 入場者数86人／同10日 講演会「言葉の『継立て』－藤村の散文をめぐって」堀江敏幸 入場者数166人

○ギャラリートーク
開催期間中の金曜日に計5回実施／計175人

○刊行物
『島崎藤村展 生誕140年記念』図録
判型：B5判／頁数：64頁／900円

○共催行事
文芸映画を観る会 島崎藤村展映画会 10月13日、同14日「夜明け前」入場者数計506人（共催 文芸映画を観る会）／同28日「FMサウンドクルーズ」公

開録音「秋だけど『春』を読む－島崎藤村朗読会」NHKアナウンサー、キャスター、明治学院グリークラブ 入場者数147人（共催 NHK横浜放送局）

（担当 鎌田邦義、斎藤泰子）

生誕100年 福田恆存資料展／新収蔵資料展2012年

神奈川とのゆかりも深く、評論、劇作、演出、シェイクスピアの翻訳など様々な業績を残した福田恆存の生誕100年を記念し、ご遺族からの受贈資料を中心に約100点で構成。

期間 11月23日～2013年1月6日（33日間）

会場 第3展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第3部〕

入場者数 1,038人（31人／1日平均）

（担当 藤木尚子、渡邊明子）

生誕100年 福田恆存資料展／新収蔵資料展2012年

期間 1月12日～2月24日（40日間）

会場 第3展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部〕

入場者数 1,581人（40人／1日平均）

（担当 藤木尚子、渡邊明子）

企画展 収蔵コレクション展12 添田啞蟬坊・知道展 明治・大正のストリート・シンガー

館蔵の「添田啞蟬坊・知道文庫」から演歌本などの資料により反骨精神を貫いた添田父子の生涯を展観。

期間 3月2日～4月14日（38日間）

会場 第2展示室

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部〕

／併設「全国文学館協議会特別コーナー」『『復興節』の力』

入場者数 2,255人（59人／1日平均）

後援 NHK横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）

協賛 東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

○関連イベント

3月17日 トーク＆ライブ「なぎら健壺トーク＆ライブ～明治・大正演歌の魅力～」なぎら健壺 入場者数245人／4月6日「土取利行・語りと弾き唄い～啞蟬坊・知道演歌の底流にあるもの～」土取利行 入場者数213人

○ギャラリートーク

開催期間中の金曜日に計3回実施／計55人

○刊行物

「収蔵コレクション展12 添田啞蟬坊・知道展 明治・大正のストリート・シンガー」リーフレット 判型：A5判／頁数：8頁／無料配布
（担当 中村敦）

【文字活字文化振興事業などその他のイベント】

○かなぶん寄席 講談会

8月12日 『『四谷怪談』『樋口一葉・にごりえ』』神田蘭 入場者数149人

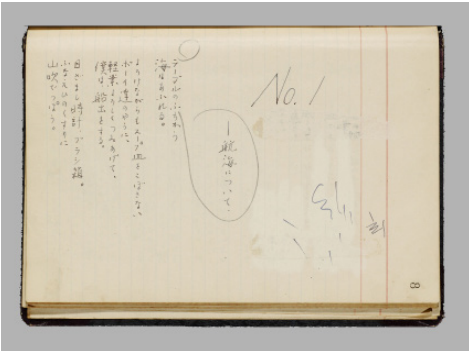
○芥川龍之介生誕120年記念イベント

12月1日 講座「蓄音機、SPレコードで聴く－芥川

龍之介が愛でた音楽たち」庄司達也 入場者数49人（会場 中会議室）／2013年1月26日「芥川龍之介の一中節－知られざる名曲『恋路の八景』」都一中 入場者数194人／2月23日、24日 映画会「トロッコ」入場者数188人／136人（共催 文芸映画を観る会）

【主な寄贈資料】

- ・吉野秀雄資料：竹山晋一郎宛書簡など119点
- ・夏目漱石資料：「水仙や根岸に住んで薄氷」書画軸
- ・山崎方代資料：書幅など98点
- ・富永太郎資料：「富永太郎遺作展署名簿」など23点
- ・尾崎一雄文庫追加：太宰治、井伏鱒二書簡など5点
- ・中島敦文庫追加：「巡査の居る風景」原稿断片、中島画「パンジー」など5点
- ・片岡良一資料：「明治文学の歪みと半産性－浪漫主義の歴史を通して－」原稿など361点
- ・松永浩介資料：松永宛諸家書簡など3,000点
- ・寺田透文庫追加：原稿、スケッチブックなど100点
- ・福田正夫資料：「純粹希求」など原稿、雑誌290点
- ・原満三寿収集金子光晴コレクション：光晴自筆ノート、未発表原稿、書画など3,140点



金子光晴「人間の悲劇」草稿

【主な購入資料】

- ・夏目漱石 笹川臨風宛書簡2点
- ・島崎藤村『透谷全集』序原稿
- ・野間宏「青年の環」原稿
- ・有島武郎「火事とポチ」原稿
- ・青山二郎画「文学界」表紙原画
- ・正岡子規「草」〔四季雑誌〕句稿
- ・谷崎潤一郎 谷崎松子宛書簡

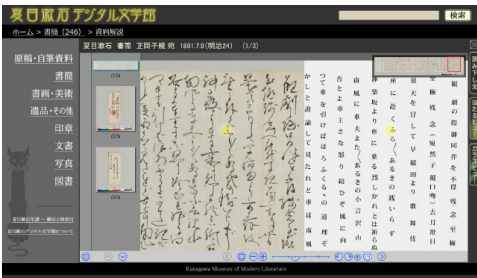
【2012年度の主なトピック】

- ・「住民生活に光をそそぐ交付金」による補助金事業を受託し、以下の3つの事業により文学館業務の活性化を図った。

①夏目漱石資料の画像アーカイブ「夏目漱石デジタル文学館」の製作



夏目漱石デジタル文学館メイン画面



夏目漱石デジタル文学館ビューワー画面



本館1階閲覧室内の閲覧者利用端末

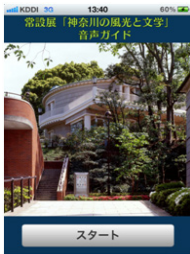
②展示室エントランス映像「神奈川 文学の風景を歩く」及び文学館紹介映像「文学の宝箱」の製作



展示館エントランスホール・ハイビジョン画面

③音声ガイドシステムの導入

常設展「神奈川の風光と文学」で展示された25作家に関する解説及び一部作品の朗読を常時配信し、音声端末による視聴を可能にした。（ナレーション・朗読 平野啓子氏）



音声ガイドシステム
スタート画面

展示観覧者などを中心とする文学館利用の拡大をめざし、様々な事業で外部組織との連携を図った。観覧者数、事業収入両面でこの年の牽引役となった春の井上ひさし展では、井上事務所、こまつ座、仙台文学館、山形県川西町運筆堂文庫の協力を、夏の司修展では群馬県立近代美術館の、秋の泉鏡花展では慶應義塾図書館の協力をいただいた。井上展の好調で前年を5,000人上回る34,000人の展示観覧者を集めた。

隣接する大佛次郎記念館とは懸案だった観覧料金についての相互割引きを実施した。また学校教育との連携では6年目を迎える高校へのパネル展提供が過去最高の13校に達し、授業への活用だけでなく文化祭や学校説明会での展示など利用の幅が広がった。このほか辻原館長が推進役となつて、『丸谷才一全集』刊行記念講演会を文藝春秋の後援で、また日韓文化交流会議との共催で日韓女性作家の朗読と辻原館長を交えた鼎談の会を開催した。

資料収集では井伏鱒二、櫻井書店、中野重治などの貴重資料を追加受贈、総所蔵点数は119万点を数えた。

特別展 井上ひさし展— 21 世紀の君たちに—

神奈川とゆかりの深い井上の没後3年を記念して、その生涯と作品世界を紹介。井上の追求した理想の社会と物語に込めた思いを探った。

期間 4月20日～6月9日(46日間)
編集委員 松山巖
会場 第1～3展示室
協力 井上事務所、こまつ座、仙台文学館、山形県川西町
運筆堂文庫
後援 NHK横浜放送局、F Mヨコハマ、神奈川新聞社、
tvk(テレビ神奈川)
協賛 岩波書店、講談社、集英社、新潮社、文藝春秋、京
浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、神奈川近代
文学館を支援(サポート)する会

広報協力 K A A T 神奈川芸術劇場
入場者数 14,100 人 (307 人／1 日平均)
○関連イベント
4 月 27 日 対談「ひさしさんとの 23 年」井上ユリ、
松山巖 入場者数 266 人／5 月 4 日、同 5 日 井上ひ
さし最愛の映画「ミラノの奇蹟」上映会 入場者数 259
人／181 人／同 19 日 講演会『『ユートピア』と井上
ひさし文学』小森陽一 入場者数 251 人／同 26 日 講
演会「評伝劇と音楽劇」扇田昭彦 入場者数 174 人／
6 月 1 日 朗読会「言語小説集」から「言語生涯」「ふ
かいことをおもしろく」から「井上ひさしの「子どもに
つたえる日本国憲法」から」辻萬長 入場者数 232 人

○ギャラリートーク
会期中毎金曜日に計7回実施／計383人

○刊行物
『井上ひさし展－21世紀の君たちに－』判型：A5判
／頁数：112頁／1,000円

○共催行事
「FMサウンド☆クルーズ」公開録音「井上ひさし朗読会～縁は異なるもの～」4月20日『東慶寺花だより』から、「桜の章～おぎん」、「花菖蒲の章～おきん」NHK横浜放送局アナウンサー、キャスター 入場者数221人（共催 NHK横浜放送局）
(担当 野見山陽子、渡辺恵理)

企画展 文学館交流展 4『中原中也の手紙』展—安原喜弘へ

詩人・中原中也がもっとも信頼を寄せた友人・安原喜弘に宛てた 102 通の手紙のほか、安原へ献じられた「羊の歌」詩稿などを一堂に展示。

期間 6月15日～8月4日（45日間）
会場 第2展示室
共催 中原中也記念館
後援 成城学園教育研究所、学校法人玉川学園、NHK横浜放送局、F Mヨコハマ、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）
協賛 講談社、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会

広報協力 K A A T 神奈川芸術劇場
 [同時開催 常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第3部]
 入場者数 3,898 人 (87 人／1 日平均)
 ○関連イベント
 6 月 16 日 対談「人間・安原喜弘とその時代」安原喜
 秀、中原豊 入場者数 119 人 (兼：友の会文学講座)
 ／同 30 日 講座「蓄音機、S P レコードで聴く－中原
 中也が愛でた音楽たち」庄司達也 入場者数 70 人／7
 月 21 日 講演会「手紙から聞こえる言葉」蜂飼耳 入
 場者数 123 人
 「眠れ密」上映会
 7 月 13 日 入場者数 63 人／同 27 日 入場者数 104 人
 ○ギャラリートーク
 会期中隔週金曜日に計 4 回実施／計 83 人
 ○刊行物
 中原中也記念館製作の図録『中原中也の手紙』(A5 判
 40 頁)を販売。
 (担当 池上聡)

企画展 賢治+司修 注文の多い展覧会

宮沢賢治の文学を愛する司修の絵本から、特に没後 80 年となる賢治の物語世界を描いた作品を中心に構成。

期間	8月10日～9月29日（46日間）
会場	第2展示室
協力	群馬県立近代美術館
後援	神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、花巻市、 花巻市教育委員会、社団法人日本国際児童図書評議会 （JBBY）、FMヨコハマ、神奈川新聞社、tvk（テレビ神奈川）
協賛	偕成社、東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サ

ポート)する会

広報協力 K A A T 神奈川芸術劇場

〔同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第1部〕

入場者数 5,705 人 (124 人／1 日平均)

○関連イベント

9 月 7 日 講演会「私の本について話そう」③⑨「賢治の絵本を語る」司修 入場者数 186 人／同 21 日 記念ワークショップ「小さな絵本をつくりましょう」司修 入場者数 18 人 (会場 中会議室)

○ギャラリートーク

会期中計 2 回実施／計 35 人

○刊行物

「賢治＋司修 注文の多い展覧会」判型：A6 判／頁数：104 頁／500 円

○共催行事

8 月 10 日 花音朗読コンサート 「注文の多い料理店」ほか 入場者数 137 人／文芸映画を観る会 9 月 22 日、同 23 日 映画会「風の又三郎」(宮沢賢治原作) 入場者数 160 人／144 人

○後援行事

花音朗読コンサート

9 月 7 日 花音「注文の多い料理店」ほか 入場者数 82 人 (主催 語りと音楽・花音、秦野市立図書館 会場 秦野市立図書館)

(担当 高橋祐子)

特別展 生誕 140 年記念 泉鏡花展—ものがたりの
水脈—

《鏡花世界》への誘いとして作品群を5つのテーマに分けて展示。神奈川ゆかりの「春昼」「春昼後刻」「草迷宮」については独立した部門を設け、資料と共に壁面全体の引用パネルでテキストを読んで貰う演出をした。

期間 10月5日～11月24日（46日間）
編集委員 松村友視
会場 第2・第3展示室
協力 慶應義塾図書館
後援 NHK横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、
tvk（テレビ神奈川）
協賛 岩波書店、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、
神奈川近代文学館を支援（サポート）する会
広報協力 K A A T 神奈川芸術劇場
入場者数 5,696人（124人／1日平均）
○関連イベント



11月2日 対談中の松村友視（左・編集委員）と朝吹真理子の両氏

10月13日 講座『風流線』の世界—鏡花の長篇小説—
吉田昌志 入場者数 57人／同19日 朗読会「義侠使
血」水谷八重子 入場者数 189人／11月2日 対談
「鏡花を読むよろこび」朝吹真理子、松村友視 入場者
数 210人／同9日 講座『天守物語』の演劇性」市川
祥子 入場者数 46人

○共催行事（共催 文芸映画を観る会）
文芸映画を観る会 11月22日、同23日「婦系図 湯
島の白梅」（泉鏡花原作） 入場者数 169人／170人

○ギャラリートーク
会期中毎金曜日に計7回実施／計140人

○刊行物
「生誕140年記念 泉鏡花展—ものがたりの水脈—」判
型：B5判／頁数：64頁／900円

○連携行事
松竹、鎌倉市籙木清方記念美術館と舞台、展覧会観覧の
セット割引「泉鏡花満喫チケット」を販売

○文学散歩
「逗子文学散歩」（「生誕140年記念 泉鏡花展—ものが
たりの水脈—」記念）
11月6日 24人／同8日 24人／同20日 19人
（担当 鎌田邦義、斎藤泰子）

新収蔵資料展 2013 年／大佛次郎没後 40 年記念
特設コーナー —大佛次郎の戦後—

大佛次郎記念館との連携事業の一環として、大佛没後 40 年を記念するコーナーを設置。幅広い創作活動から特に戦後の作品を中心に選んで構成し、未完の大作「天皇の世紀」に至るまでを両館所蔵の資料合計約 100 点で紹介。

期間 11月30日～2014年1月26日（45日間）
 会場 第2・第3展示室
 [同時開催：常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」第2部]
 入場者数 1,159人（26人／1日平均）
 ○関連イベント
 文芸映画を観る会 大佛次郎没後40年記念映画会 1月
 25日、同26日 大佛次郎原作「鞍馬天狗 黄金地獄」
 入場者数 108人／67人
 ○文学散歩
 近隣博物館訪問（大佛次郎没後40年記念） 1月23日
 33人／2月20日 21人／3月4日 16人
 ○後援行事
 大佛次郎研究会第22回公開発表会 11月30日 大村
 彦次郎「大佛次郎とその周辺－雑誌『苦楽』の創刊をめ
 ぐるって」、松井道昭「普仏戦争が現代に教えること－『パ
 リ燃ゆ』に触れて」（主催 大佛次郎研究会）
 （担当 高橋祐子）

企画展 収蔵コレクション展 13 生誕 90 年 黒岩重吾展

生誕 90 年を記念し、〈黒岩重吾文庫〉資料を中心として波乱に富んだ生涯と作品世界を紹介。

期間 2月1日～3月30日（50日間）
会場 第2展示室
後援 NHK横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、
tvk（テレビ神奈川）
協賛 東京急行電鉄、神奈川近代文学館を支援（サポート）
する会
広報協力 K A A T 神奈川芸術劇場

〔同時開催 常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」展 第3部／併設 全国文学館協議会特別コーナー「黒岩重吾と阪神淡路大震災」〕

入場者数 2,233人（45人／1日平均）

○関連イベント

2月22日 講演会（「私の本について話そう」④）「黒岩重吾の気骨」伊集院静 入場者数 238人／3月9日 講座「黒岩重吾の古代史への情熱」清原康正 入場者数 101人

○ギャラリートーク

会期中隔週日曜日に計4回実施／計31人

○刊行物

「収蔵コレクション展13 生誕90年 黒岩重吾展」リーフレット 判型：A5判／頁数：8頁／無料配布

（担当 中村敦）

【文字活字文化振興事業などその他のイベント】

○春のカルチャーイベント

4月13日 森ミドリ、太田治子「森ミドリ 文学コンサート作家 太田治子さんをお迎えして～うららかに たおやかに～」 入場者数 367人（会場 はまぎんホール ヴィアマール） 共催 （公財）はまぎん産業文化振興財団）

○文字活字文化振興事業

10月26日 『丸谷才一全集』刊行記念講演会（文字・活字文化の日記念講演会）講演「作家の秘密・文学の謎」三浦雅士 対談「丸谷さん・その肖像」湯川豊、松家仁之 入場者数 130人（後援 文藝春秋）

12月15日 日韓文化交流シリーズ 日韓文化交流基金創立30周年記念事業 日本と韓国で人気の女性作家による、自作朗読と鼎談（「私の本について話そう」④）「ことばの調べにのせて」江國香織、鄭梨賢、辻原登 入場者数 199人（共催 日韓文化交流会議、（公財）日韓文化交流基金 会場 展示館ホール）



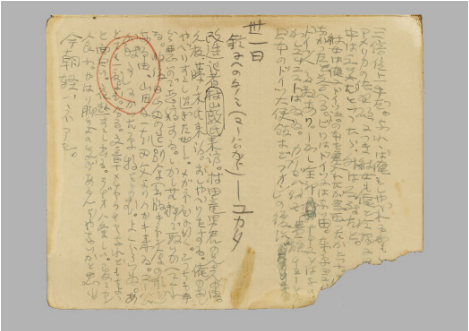
12月15日 鼎談中の（左から）辻原館長（理事長）と江國香織、鄭梨賢の両氏

【主な寄贈資料】

- 筒井敬介資料：「コルプス先生動物園へ行く」ほかの草稿、原稿、著書、執筆誌など1,100点
- 西條八十文庫追加：フランス留学中の日記など4点
- 川崎洋資料：「サイパンと呼ばれた男」（前半）ほか原稿、著書、詩誌「權」など160点
- 井上ひさし資料：自作「吉里吉里国地図」（複写）に、さらに加筆した地図
- 櫻井書店関係資料：櫻井均宛井伏鱒二、滝井孝作、塚原健二郎、三島由紀夫、山本夏彦らの書簡、永瀬清子「大

いなる樹木」ほか原稿、熊谷守一、鈴木朱雀ほか装幀原画、室生犀星書幅、櫻井書店刊行図書、雑誌など1,400点

- 萩原朔太郎資料：野村沢子宛書簡4通
- 上田保・静栄資料：静栄日記43冊、萩原朔太郎への追悼詩「香華」原稿、静栄宛金井静江、保田典子（与重郎夫人）書簡など250点
- 中野重治資料：「敗戦前日記」6点

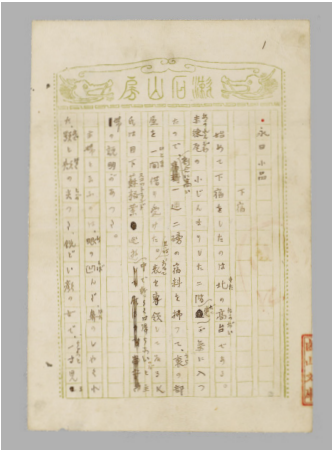


中野重治「敗戦前日記」

- 三木卓元常務理事寄贈：「K」原稿、「北原白秋」ほか執筆ノート、三木宛神沢利子、清岡卓行、佐野洋子・谷川俊太郎、長崎源之助、森瑶子らの書簡、著書、執筆誌、旧蔵書など1,000点
- 中原中也関連資料：雑誌「白痴群」「遊歩場週報」など15点
- 司修評議員寄贈：司装幀『ゲンのいた谷』（長崎源之助著）口絵原画、装幀書10冊
- 井伏鱒二資料：「故篠原陸軍中尉」ほか原稿、小林秀雄原稿、青木南八、開高健、川端康成、小林、永井龍男ら諸家書簡など596点
- 中島敦文庫追加：敦と桓親子を描いた成瀬政博画「父子像」（油彩）
- 辻原登理事長寄贈：「村の名前」、「翔べ麒麟」、「円朝芝居噺 夫婦幽霊」、「抱擁」、「闇の奥」、「韃靼の馬」、「冬の旅」などの原稿、創作ノート、著書など80点

【主な購入資料】

- 谷崎潤一郎 谷崎松子宛書簡
- 夏目漱石「下宿」（「永日小品」）原稿、林原耕三宛書簡



夏目漱石「下宿」（「永日小品」）原稿

【2013年度の主なトピック】

- 2014年3月、『県立神奈川近代文学館収蔵文庫目録19 立原正秋文庫目録』を刊行。